

視察月日	日數	視察者	視察地	人員	視察セル主要事項
自二月六日 至五月二十日	二	東勢角支會 葫蘆墩支會	直轄彰化	七九	綠肥栽培狀況 木會事業
同五月二十一日 同五月二十五日	二	東勢角支會	員 林	三〇	芭蕉品評會參觀 芭蕉栽培狀況
同五月二十六日	二	彰化支會	直轄葫蘆墩	四〇	木會事業 養豚事業
六月一日	一	同	員 林	三六	芭蕉栽培狀況 養豚事業
自十月十一日 至十月十三日	三	東勢角支會	員 林 彰化	三〇	木會事業 綠肥栽培狀況 土糞製造狀況

麥育種事業 大正五年大小麥育種ニ著手セシカ大正六年之ナ鹿港支廳下ニ移シ現ニ施行中ナリ之カ方法ハ本會ノ稻育種ニ準シ純系分離試驗遺傳力試驗生産力試驗ヲナシ最モ收量多クシテ品質優良ナルモノヲ選擇培植シ一般農家ニ配付栽培セシムルモノナリ事業ノ經過ハ頗ル順調ニ進ミ純系分離試驗ニ於ケル收量ノ增加成績ハ約五割ナリ

五、南投

甘藷ノ改良 甘藷ハ廳下普通作物中米ニ次キ重要ナル作物ナルヲ以テ大正二年度以來優良種白和蘭ノ普及ニ努メ農場ニ於テ之レカ蔓苗ヲ養成配付シタル結果殆ント廳下ニ普及スルニ至レリ本年度配付シタル蔓苗十六萬本トス  
技術員製作品展覽會 農會技術員ノ技能知識ノ向上ヲ計ル爲稻綠肥柑橘ノ品評會並作物會開催ト共ニ農會技術員製作品展覽會ヲ開催シ十九點ノ出品ヲ得優良ナルモノ十八點ヲ出シ將來ニ對シ其向上ニ就テ大ナル刺激ヲ與ヘタリ  
養魚試驗 山間ニ於ケル魚族需要ヲ充タサンカ爲本年度ニ於テ督府ノ補助ヲ得魚苗ヲ購入養成シ希望者ニ配付スルノ外日月潭ニ向テ放養セリ其數左ノ如シ

烏魚	八〇,〇〇〇	鯉魚	一〇〇,〇〇〇
草魚	五〇,〇〇〇	魚	二〇〇,〇〇〇
連魚	九〇,〇〇〇		

六、嘉義

麥作改良 印度產大麥種子普及第三年目ノ事業ヲ遂行ス  
蕃薯改良 白和蘭種ノ普及第三年目ノ事業ヲ行ヒタリ  
種苗購入配布 前年度ニ繼承シ優良種苗ノ購入配布ヲ行ヒタリ  
亞爾加里土壤試驗 アルカリ土壤改良ノ爲鹽水港支廳下ニ面積一町歩ノ試驗園ヲ設置シ各種ノ試驗ヲ行フ  
技術員製作品展覽會 技術員技能、智識ノ練磨向上ニ資セン爲第六回技術員製作品展覽會ヲ開催セリ  
農事講話、物產陳列場ノ經營

七、臺南

農事調査、開墾指導

第五章 畜牛保健組合

一、本組合ノ目的は畜牛ノ改良増殖及個體ノ能力増進ヲ圖リ同時ニ衛生上ノ施設ヲ完カラシメ以テ不慮ノ損害ヲ輕減セントスルモノナリ。

明治三十三、四年ノ頃南部各廳ニ牛疫大ニ流行シ農民ハ多數ノ役牛ヲ失ヒ耕作ニ支障ヲ來セルヲ以テ督府ハ是等地方ニ農牛共濟組合ヲ組織セシメ之ニ農牛ヲ交付セリ而シテ同組合ハ畜牛ノ衛生ヲ圖



第一編 農業 第五章 畜牛保健組合

リ且ツ組合員ノ畜牛カ獸疫其他ノ事故ニヨリ斃死シ資力乏シクシテ補充難ヲ訴ヘ爲メニ耕作上支障ヲ生シタル場合ハ之レカ購入資金ヲ貸付シ又ハ畜牛ヲ貸付スル等其ノ成績見ルヘキモノアリシモ私的團體ニシテ事業ノ執行上遺憾ノ點少カラサリシカバ大正元年十二月律令ヲ以テ畜牛保健組合規則ヲ發布シ組合ヲ法人トナシ畜牛ノ病疫ノ豫防制遏其ノ他ノ衛生及畜牛ノ改良發達ヲ圖ルヲ目的トスル機關タラシメタリ然レトモ畜牛改良増殖ノコトハ從來農會ニテ實施シ來リタルヲ以テ直ニ之ヲ組合ニ移管スルノ不利ナルヲ認メ組合ハ専ラ衛生的方面ニ向テ力ヲ注クコトトナセリ

二、大正二年以降各組合經費決算額左ノ如シ。(圓以下切捨)

廳名	大正二年		大正三年		大正四年		大正五年		大正六年		設立年月
	收入	支出	收入	支出	收入	支出	收入	支出	收入	支出	
北	八〇六八	三、七五三	二、七六六	九、二八四	九、九三三	一、五二二	二、九四三	一、五〇七	二、一〇〇	同	大正二年二月
竹	四九二二	四、〇六四	三、六六六	二、八四九	一、〇九二	一、六二六	二、二五五	一、六三六	二、三三三	同	同 四年二月
中	五、一八〇	五、一八〇	四、九〇九	四、一三三	二、九六三	二、五九八	二、〇三六	二、三六〇	一、九七九	同	同 二年一月
投	五、一八〇	五、一八〇	四、九〇九	四、一三三	二、九六三	二、五九八	二、〇三六	二、三六〇	一、九七九	同	同 五年二月
南	三、八四三	三、三〇七	一、八九六	一、八〇四	二、四四八	二、九七九	二、九六六	二、五九八	二、〇三六	同	同 六年三月
嘉	三、八四三	三、三〇七	一、八九六	一、八〇四	二、四四八	二、九七九	二、九六六	二、五九八	二、〇三六	同	同 二年一月
南	三、八四三	三、三〇七	一、八九六	一、八〇四	二、四四八	二、九七九	二、九六六	二、五九八	二、〇三六	同	同 二年一月
阿	三、八四三	三、三〇七	一、八九六	一、八〇四	二、四四八	二、九七九	二、九六六	二、五九八	二、〇三六	同	同 二年一月
計	二、一八四	二、一八四	二、一八四	二、一八四	二、一八四	二、一八四	二、一八四	二、一八四	二、一八四	同	同 二年一月

三、組合費徵收率

廳名	定期分賦金	臨時分賦金
北	畜牛一頭ニ付 三〇	調定後ノ出生、管外ヨリノ移入、管内異動ニ對シ總テ三十錢ヲ課ス
竹	三〇	右同、但シ管内異動ニ課セス
中	三〇	右同
投	一〇	調定後ハ單ニ異動牛ニ對シ検査手数料トシテ金五十錢ヲ徵收ス
南	三〇	新竹及臺中ニ同シ
嘉	二五	右同
南	二〇	調定後管外ヨリ移入スルモノノミニ二十錢ヲ課スル外、元恒春廳管内ニテハ異動ノ際牛券交付手数料トシテ一頭ニ付六十錢ヲ徵收シ、元阿蘇廳管内ニテハ異動毎ニ牛籍整理手数料トシテ一頭ニ付十錢ヲ徵收ス
阿	二〇	元恒春廳管内
其他	二〇	其他

四、大正六年度末ニ於ケル畜牛及組合員數

廳名	畜牛頭數	組合員數
北	二〇、二四三	一、二、一〇四
竹	三三、一一一	一、八、〇〇一
中	四八、二四九	三三、四二六
投	一七、七四七	九、八一八
南	一、七、七四七	九、八一八
嘉	一、七、七四七	九、八一八
南	一、七、七四七	九、八一八
阿	一、七、七四七	九、八一八
計	一、七、七四七	九、八一八

五、組合ノ一般業務

第一編 農業 第五章 畜牛保健組合



第一編 農業 第五章 畜牛保健組合

- 一、畜牛ノ健康調査ニ關スル事項
- 二、畜牛ノ診察及治療ニ關スル事項
- 三、牛籍ニ關スル事項
- 四、畜牛ノ衛生講話ニ關スル事項
- 五、畜牛病疫ノ流行ニ際シ消毒ニ關スル事項
- 六、畜牛ノ獸疫被害救済ニ關スル事項
- 七、畜牛ノ取締ニ關スル事項
- 八、畜牛ノ統計ニ關スル事項
- 九、畜牛ノ飼養管理ニ關スル事項
- 一〇、畜牛病理研究ニ關スル事項
- 一一、以上各項ノ外組合事業遂行上必要ト認ムル事項

一、臺北

(一) 畜牛診療 年度ノ初頭錫口、深坑ノ二支部ニ獸醫ヲ配屬シテ診療所ヲ開設シ初期ノ計畫ニ依リ組合本部外十一支部ニ診療所ノ設置ヲ終リ今ヤ從事員事務獸醫九名嘱託獸醫八名計十七名ヲ算スルニ至レリ而シテ本年中ノ診療成績ハ總頭數三百六十三中全治二百二十五斃死八十八治療中止四十八治療中ニシテ之ヲ要約スレハ診療患牛數ハ前年ノ約半ニ減シ全治率六割五分強斃死率二割四分強治療中止率一割三分強ニシテ就中治療中止率ノ甚シク増加セルハ家畜衛生上ノ經濟的處置ヲ組

第一編 農業 第五章 畜牛保健組合

合員ニ促シ其ノ利用ノ方法ヲ講セシメタルニ因シ又診療患牛數ノ前年ニ比シ半減セルハ一見衛生狀態頗ル佳長ノ感アレトモ八、九、十、十一ノ四箇月間實施セシ健康調査ニ於テハ七百餘頭ノ患牛ヲ發見シタル程ニテ全治率ノ退步斃死率ノ増加ハ誠ニ悲ムヘキ狀況ニアリ斯ノ如キ不成績ヲ招致シタル原因ハ主ニ診療申告ノ遲延ト組合員平素畜牛ノ愛護心ノ薄キヲ語ルモノニシテ診療機關利用ノ普及セサルノ證據ト云フヘク大正七年度ニ於テハ全力ヲ之ニ傾注シテ其ノ改善ヲ促サントス

(二) 斃牛檢案 本年中ニ於ケル斃牛總數水牛五百四十二頭黃牛十四頭雜種牛百九頭ニシテ病類別ニ區分スレハ普通病六百五十八頭疫病七頭トス之ヲ前年ノ斃牛七百九頭ニ比スレハ四十四頭ノ減少ナリト雖前年ノ疫死數八十七頭ヲ控除スレハ却テ四十三頭ノ増加ニシテ診療成績ト共ニ實ニ嘆スヘキ狀況ニアリ是レ本年ハ例年ニ比シ冬期未曾有ノ氣溫低下ト其ノ間氣候ノ急變トニ因シ幼弱又ハ老衰セル畜牛ノ多數斃死シタル結果ナリ由來顯下畜牛ノ斃死率ハ統計上連年他處ニ比シ多大ナルハ甚々遺憾トスル處ナルカ今其ノ因由ヲ求ムルニ應下ノ水牛ハ蕃殖ト使役ヲ兼ヌルモノ多ク分岐ト農繁期ノ劇使ニ依リ母體休養ノ暇ナキヲ以テ幼弱ナル産仔比較的多キト地勢ノ關係上水牛天賦ノ稟性ニ合致セサル自然ノ結果ナルヘク將來ハ冬期ニ於ケル畜牛ノ飼養管理法ノ改善ヲ促シ此ノ弊實ヲ除カントス而シテ本年內斃牛ノ檢案ニ依リ獲タル處ヲ舉ケレハ臺北附近牛乳營業者ノ飼養慣一種ノ貧血症狀ヲ呈シテ斃死セルモノ續發シ之ヲ檢案シテ「トリコストロニギルス」ノ一新種ノ寄生ニ原因スルコトヲ闡明シ尙稀有ノ疾病トシテハ膿肝尿毒症等ヲ實檢スルコトヲ得タル等斃牛ノ檢案ハ本組合事業ノ各方面ニ連係セル重要事項ナルヲ以テ今後モ益々勵行ニ勉メ之レカ實績ヲ收メントス

(三) 病理研究 本年ハ經費及作業力ノ制約ニ依リ具體的ニ病理ノ研究調査ヲ施行シタルモノナシト雖畜牛診療上一二ノ研究實驗ヲ爲シタリ未タ指定ノ域ニ至ラサルモ前年度中臺北附近牛乳營業者ノ飼養牛ニ流行セル「コカシテイム」性赤痢ハ本年ニ於テモ夏季内地ヨリ移入セシ乳牛數頭ニ發生シ之ヲ治療ニ鹽酸「エメチン」〇、四%ccノ應用ヲ試ミタルモ前年ノ如キ良成績ヲ收ムル能ハス却テ本病ニ對シ「エメチン」ノ應用ハ猶考究ノ餘地アルコトヲ發見セリ然レトモ本病ハ每時夏季新々ニ内地ヨリ移入スル乳牛ニ特發シ之レト連係アル牛舎ノ飼養牛ニ限局スル點ヨリ考察スレハ其ノ因氣候、風土、飼料等ノ偶變ニ歸スルヲ以テ移入ノ時期ヲ變換シ漸次本島ノ氣候、風土及飼料ニ慣レシムレハ豫防シヘキヲ確メ同業者ニ警告シ未だニ



第一編 農業 第五章 畜牛保健組合

防クコトトセリ其ノ他化膿性乳房炎ノ切開療法前記ノ「トリコストロンギルス」ノ寄生ニ因スル疾病ノ治療法ニ就キ研究ヲ試ミツツアルモ未タ指定ノ域ニ至ラス尙ホ引續キ研究ノ豫定ナリ

(四) 病疾並救済金 前年度士林、淡水、枋橋、支部ニ於テ猛烈ナル勢ヲ以テ流行セシ炭疽病ハ一時終熄シタルモ本年夏季ノ再發ヲ危慮シ豫メ既流行地ノ組合員ニ警告シ其ノ豫防ヲ怠ラサリシニ幸ニ事ナク經過セリ又本年ノ獸疫トシテハ結核病牛五頭官廳ニ於テ實施ノ検査ニ於テ發見、撲殺セラレタル士林、淡水支部管内ニ各一頭ノ野獸疫ヲ出シタルモ發生ト同時ニ豫防制遏ニ勉メタル結果幸ニ他ニ蔓延スルコトナク終熄セリ此等七頭ノ疫病ニ依リ斃死或ハ撲殺シタル畜牛ニ對シテハ規定ノ救済金ヲ畜主ニ交付セリ

(五) 畜牛健康調査並ニ牛籍實査 八、九、十、十一四箇月間畜牛ノ健康調査ヲ實施シ同時ニ牛籍ノ實査ヲ行ヒ併セテ左ノ附帶調査ヲ爲シ畜牛ノ衛生保健ニ資スルコトトセリ

- 1 畜牛舍飼ノ方法
- 2 水牛ノ形態

3 畜牛實買ニ關スル慣行

以上ノ各項目ニ互リ技術員ヲシテ調査セシメタルニ組合事業ノ經營ニ資スヘキモノ頗ル多ク尙之ト同時ニ施行シタル牛籍實査ニ於テハ異動届出漏出生ニ於テ四十四件買入其ノ他入ニ於テ四十七件賣出其ノ他出ニ於テ百二十件其ノ他種別體性年齡ノ相違ヲ整理セルモノ千二百六十六件ヲ發見シタリ然リト雖之レヲ前年度ニ比較スレハ著シキ減少ニシテ例年施行ノ本調査ノ有效ヲ證スルモノト云フヘシ

(六) 畜牛ノ取締及異動統計 畜牛ノ取締ニ就テハ受持書記及書記補助ヲシテ專ラ之ニ當ラシメ牛籍ノ整理ニ努力セルモ多數組合員中ニハ十分ニ組合ノ目的ヲ了解セサルモノアリテ前項記載ノ如ク牛籍實査ノ際多數ノ届出漏ヲ發見セリ是等規約違背者ニ對シテハ懇切ニ訓諭シ將來ヲ戒メ可成過慮處分ヲ爲ササレトモ情狀重キモノ即チ組合費通脫ノ目的ヲ以テ届出ヲ爲ササルモノ又ハ畜牛實買及其ノ周旋業者等カ故意ニ届出ヲ怠ルモノ等ニ對シテハ假借セス過慮處分ニ附セリ其ノ本年中ニ於

二、新竹

(九) 畜牛放牧地調査 本年内管内各地ニ存在セル放牧地ニツキ技術員ヲ派遣シ詳密ナル調査ヲ爲シタレトモ之カ經營ハ一時ニ莫大ノ資金ヲ要スルヲ以テ組合事業經營上必要ニ迫ラレルマテハ計畫ヲ爲ササルコトトセリ

三、臺中

(一) 獸疫ト其防遏 大正六年中ニ於ケル獸疫ノ發生數ハ氣腫疽四頭牛疫六十一頭合計六十五頭ニシテ之ヲ前年ニ比スレハ氣腫疽ニ於テ十七頭ヲ減シ牛疫ニ於テ五十六頭ノ増加ヲ示セリ今其發生狀況ヲ月別ニ表示スレハ左ノ如シ

病別	月												計		
	一	二	三	四	五	六	七	八	九	十	十一	十二			
氣腫	三	三	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
牛疫	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
計	三	三	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一



第一編 農業 第五章 畜牛保健組合

牛疫ハ二月中旬棟東下堡埔仔境庄ニ於テ黃牛一頭斃死シ檢案ノ結果牛疫ト確定セルヲ以テ直ニ豫防制退ヲ勵行シ一般ニ警戒ヲ與ヘタル結果他ニ傳搬ヲ見ス終熄セルモ四月中旬東螺西堡溪境厝庄ニ於テ黃牛一頭罹病セルヲ以テ更ニ警戒ヲ嚴ニシ豫防制退ニ努メタルモ同庄ニ於テ水牛一頭ニ傳染シ一時大流行ノ恐レアリシモ所置其宜數ヲ得タル爲メ他ニ傳搬ナクシテ終熄セシムルヲ得タリ越テ五月中旬大肚上堡西勢厝庄ニ於テ黃牛一頭突然斃死シ檢案ノ結果牛疫ト確定セルヲ以テ直チニ警戒ヲ加ヘ交通遮斷ヲ行ヒ且ツ發生地及附近一帶ニ互リ健康診斷ヲ勵行シタルモ時既ニ遲レ病毒既ニ散蔓シタルヲ以テ隣接村落タル竹林庄、公館庄、吳厝庄其ノ發生ヲ見ルニ至レリ且ツ沙轆庄億源製糖會社へ出役中三十餘頭アリシヲ以テ悉ク之ヲ鎖鑰シテ警戒ヲ加ヘ一面公館庄、西勢厝庄、吳厝庄、竹林庄、沙轆庄ノ牛畜ニ對シ血清注射ヲ行ヒ疑似畜牛ノ隔離及消毒等一層其勵行ニ努メタルモ遂ニ六月下旬ニ至リ大庄ニ黃牛一頭ノ發患ヲ見タリ又五月下旬馬芝堡打鐵厝庄ニ於テ水牛一頭發病セルヲ以テ極力豫防制退ニ努メタル結果同庄ノ一局部ニ止マリ他ニ散蔓スルコトトク終熄セリ尙ホ大肚上堡ニ於ケル牛疫モ七月下旬ニ至リ全ク終熄ニ歸シタリ

氣腫症ハ一月中旬前年流行セル大肚上堡公館庄ニ於テ黃牛二頭發病シ續テ吳厝庄大突寮庄ニ黃牛各一頭發患セルヲ以テ極力豫防制退ニ努メタル結果他ニ傳搬ヲ見スシテ終熄セリ  
(二) 畜牛ノ診療 本年ニ於ケル畜牛ノ診療頭數ハ五百七十一頭ニシテ前年ニ比スレハ百五十五頭ノ増加ナルモ未タ各自舊習ノ姑息的療法ヲ試ミ素人ノ手ニ及ハサルニ至リ始メテ診療ヲ乞フ者少ナカラス然レトモ畜牛衛生思想ノ啓發ニ就テハ診療ノ都度技術員ヲシテ之カ普及ナシメツアルト施藥ノ效果著シキヲ以テ漸次牛畜ノ衛生狀態良好ニ向ヒ居レリ  
(三) 組合員救濟狀況 本年ニ於ケル牛疫及氣腫症ニ罹リタル牛畜ノ頭數ハ六十五頭ニシテ斃死九頭撲殺五十六頭ニ及ヘリ此評價格二千七百三十二圓ニシテ救濟金額千三百二十三圓ヲ支出シ救濟人員六十一名ニ達セリ

四、南投

(一) 畜牛健康調査ニ關スル事項 大正六年十二月ヨリ受持技手及事務囑託ヲシテ互ニ相協力ノ上畜牛健康調査ヲ施行セシメ同時ニ牛籍ノ實査ヲ行ハシメタルニ其ノ結果良好ナル成績ヲ得タルモ尙ホ未タ全部ノ終了ニ至ラス統計的成績ヲ得ル能ハサルハ遺憾トスル所ナリ

(二) 衛生講話ニ關スル事項 保甲會議ヲ利用シ各受持技手ヲシテ之ヲサシメ畜牛保健上自衛心ノ涵養普及ニ努メ以テ組合員ノ新道ニ關スル注意ヲ喚起セシメツツアリ  
(三) 畜牛ノ診療ニ關スル事項 診療部設置以來日尙ホ淺キ爲メ常ニ畜牛診療ノ利ヲ設キ衛生ノ要ヲ語ルト雖モ未タ組合員ノ蒙ラ啓キ得サルハ遺憾トス將來益々之レカ普及ニ努メ畜牛保健ノ實績ヲ收メシムルコトヲ期シ夫々技術員ヲ督勵シツツアリ  
(四) 畜牛去勢ニ關スル事項 組合員ノ希望ニ應ジ畜牛ノ去勢術ヲ無料ニテ施行シ以テ本島在來法式ニヨル去勢術ノ危險ヨリ免レシメ同時ニ組合員カ抱懷セル猜疑心ヲ一掃シ信頼ノ念ヲ高カラシメントセシニ其目的ハ遺憾ナク達セラレ次年度ノ施術ヲ今ヨリ歡迎期待スルノ狀態ナリ

五、嘉義

(一) 畜牛ノ健康調査ハ農閑期ヲ擇ヒ或ハ獸疫發生ノ際附近部落ノ健康診斷ノ機ヲ利用シ之ヲ實施セリ即チ前年度ニ於ケル第二次同ノ調査ヲ結了シ本年度ノ第一次調査ヲ遂行シ更ニ其ノ第二次調査ヲ勵行シツツアリ  
(二) 畜牛ノ衛生講話 ハ農事閑散ノ期ヲ見各派出所部内ノ組合員ニ對シ本會ノ職員ヲシテ趣旨ノ徹底ヲ計リ畜產思想ノ向上ヲ期セリ  
(三) 病疫流行ニ際シ消毒ニ關スル事項 法定獸疫以外ノ傳染病ニシテ之ヲ要スル場合ニ限リ豫防制退ニ努ムル計畫ナリシモ幸ニ之ヲ見サルヲ以テ單ニ法定獸疫ノ發生ニ際シ應ニ執行施設ヲ補助シタルニ過キス  
(四) 臺灣畜牛保健組合規則施行規則第六條ノ救濟 本年中比較的獸疫ノ發生少カリシヲ以テ之レニ交付セル救濟金モ前年ニ比シ少ク斃死三十三頭撲殺百五頭ニ對シ千五百四十六圓八十錢ヲ支出セリ  
(五) 牛籍整理 畜牛健康調査ノ際或ハ牛疫發生時ニ於ケル畜牛健康診斷ノ機ヲ利用シ整理ニ努メ一面組合員ヲシテ畜牛異動ノ第一編 農業 第五章 畜牛保健組合



第一編 農業 第五章 畜牛保健組合

届出ヲ勵行セシメ以テ組合收入ノ基礎ヲ明確ナラシムルト共ニ病疫ノ豫防制遏上遺憾ナカラシム

(六) 畜牛疾病ノ治療 第五項ニ於テ述ヘタル如ク之レヲ發見セル場合技術員ヲシテ診療ニ從事セシメタリ

(七) 畜牛ノ疾病ヲ理研究 本組合ニ於テハ未タ設備ノ缺クル所アリト雖トモ年々器具器械ヲ購入シ病性ノ鑑定病原體ノ闡明ヲ期ス

(八) 畜牛ノ去勢及牛皮ノ利用 動物虐待防止及勞力經濟ノ向上ヲ圖ル爲メ去勢ヲ施行シ又斃死牛ニ對シ衛生上ノ危害ナシト認メタルモノノ獸皮ヲ利用セントスル組合員ニ對シ檢案書ヲ交付ス本年申ノ交付數二百六十五頭去勢數三百九頭ナリ

六、阿蘇

(一) 牛籍整理ニ關スル事項 毎月一回受持書記ニ於テ夫々調査ヲ爲スノ外臨時ニ必要ヲ認メタル都度各庄トモ一時ニ牛籍調査ヲ行ヒ以テ其整理ノ完全ヲ期シツツアリ

(二) 牛畜保健ニ關スル事項 特ニ牛舎ヲ完備セシメ且清潔保持ノ慣習ヲ馴致セシムル爲メ牛糞塵芥等ノ堆積場ヲ各戸ニ設備セシメタル爲メ往時省サリシ路上其他家屋附近ノ牛糞等ハ競フテ收拾スルニ至レリ

大正六年度ニ於テ設備セシメタル牛舎數七千九百八十九ニ達セリ

第二編 林業



第一編 農業 第五章 畜牛保健組合

届出ヲ勵行セシメ以テ組合收入ノ基礎ヲ明確ナラシムルト共ニ病疫ノ豫防制遏上遺憾ナカラシム

(六) 畜牛疾病ノ治療 第五項ニ於テ述ヘタル如ク之レヲ發見セル場合技術員ヲシテ診療ニ從事セシメタリ

(七) 畜牛ノ疾病々理研究 本組合ニ於テハ未タ設備ノ缺クル所アリト雖トモ年々器具器械ヲ購入シ病性ノ鑑定病原體ノ闡明ヲ期ス

(八) 畜牛ノ去勢及牛皮ノ利用 動物虐待防止及勞力經濟ノ向上ヲ圖ル爲メ去勢ヲ施行シ又斃死牛ニ對シ衛生上ノ危害ナシト認メタルモノノ獸皮ヲ利用セントスル組合員ニ對シ檢案書ヲ交付ス本年申ノ交付數二百六十五頭去勢數三百九頭ナリ

六、阿蘇

(一) 牛籍整理ニ關スル事項 毎月一回受持書記ニ於テ夫々調査ヲ爲スノ外臨時ニ必要ヲ認メタル都度各庄トモ一時ニ牛籍調査ヲ行ヒ以テ其整理ノ完全ヲ期シツツアリ

(二) 牛畜保健ニ關スル事項 特ニ牛舎ヲ完備セシメ且清潔保持ノ慣習ヲ闡致セシムル爲メ牛糞塵芥等ノ堆積場ヲ各戸ニ設備セシメタル爲メ往時省ナリシ路上其他家屋附近ノ牛糞等ハ籠ヲテ收拾スルニ至レリ

大正六年度ニ於テ設備セシメタル牛舎數七千九百八十九ニ達セリ

第二編 林業



## 第二編 林業

### 第一章 總論

本島ハ聳爾タル孤島ニシテ面積僅ニ二千三百餘方里ヲ有スルニ過キスト雖モ林野ノ面積比較的廣大ニシテ高峰峻嶺ニ富ムヲ以テ自ラ各帶樹種ヲ包擁ス之ヲ其ノ地勢上ヨリ見ルニ南北ヲ縱貫セル脊梁山脈ハ巍然トシテ中天ヲ壓シ海拔壹萬尺以上ニ達スルモノ四十八座ヲ有セリ而シテ是等本島ノ森林カ如何ニ取扱ハレ來リシヤ是レ最モ興味多キ問題ナリ

願フニ國家的觀念ニ乏シク森林ト人類生活ノ關係ヲ自覺セサリシ支那民族ハ掠奪的手段ヲ擅ニシ寔モ永遠ノ途ヲ圖ラス目前ノ利ヲ見ルニ急ニ濫ニ山林ヲ伐採シテ耕地ヲ得ムトシ後年ノ禍根タルヲ覺ラス且ツハ耕地擴張ニ伴フ勞力ノ増進ヲ圖ラムトスル必然ノ結果ドシテ牛畜ノ飼養ヲ促シ之ニ要スル放牧地若ハ牧草ヲ得ムカ爲ニ山林原野ニ放火シ又ハ日常ノ生活ニ要スル燃料ヲ採取シテ而モ之カ補充ノ方法ヲ講スルナク慣習ノ久シキ遂ニ一種ノ弊風ヲ釀成シテ可惜天與ノ美林モ昔日ノ俾ヲ僣フ能ハサルニ至ラシメタリ然ルニ急峻ナル山地ニ於テハ稍々原生林ノ狀態ヲ以テ推移シ來レリ是レ蕃人ノ生棲スルコトニ依リテ偶然ニ保護セラレ來リタルモノト見ルヲ得ヘシサレド蕃人ノ生活區域ハ殆ト全島ノ二分ノ一ヲ占ムルニ拘ラス其ノ幼稚ナル耕作法トシテ切替畑ノ惡習アリ林野放火ノ如キ



彼等ニ取リテハ普通ノ慣行ニシテ林野ノ尊重スヘキヲ知ラス若シ彼等ノ爲スカ儘ニ放任セムカ森林ノ荒廢、河川ノ氾濫、平地耕地ノ流失ハ到底防止スルコトヲ得サルニ至ルヘシ本島林政ノ完全ヲ期シ國土ノ保安ヲ圖ラムト欲セハ先ツ對蕃人策ヲ確立セサルヘカラサルハ識者ヲ俟ツテ知ル所ニ非サルナリ

蕃人ニハ古來一種ノ迷信アリ爲ニ多少山林ノ保護セラレタルモノナキニ非サルモ彼ノ南蕃ノ如ク土地ノ割合ニ人口ノ多キ蕃地ハ開墾燒燬ノ害其ノ極ニ達シ荒廢殆ト名狀スヘカラサルモノアリ其ノ他ノ蕃地ト雖モ已ニ斯ノ如キ狀態ノ下ニ在ルモノ亦尠カラザレハ全蕃盡ク原生林ヲ以テ滿サレタルモノナリト謂フ能ハサルヘシ然レトモ元來彼等ハ林木ヲ斫伐利用スルノ能力ナク且ツ狩獵ノ爲メ却テ森林ヲ保護スルノ念ヲ存スルモノアルヲ以テ現ニ開墾跡地ニ於テ蔚蒼タル森林ニ接スルコト尠カラサルヘシ要スルニ行政區域タルト蕃地タルトヲ問ハス林野ノ經營ハ土人ノ民族性ニ依リ利用制抑ノ方針ヲ按シ開墾、牧畜若ハ造林ヲ調和竝立セシムヘク先ツ農林混用ノ方法ヲ適切ニ施行シテ人民ノ自主的發展ヲ助長スルニ於テ違算ナキヲ期セサルヘカラス

### 第二章 保安林、林野取締

林業ヲ如何ニ導キ如何ニ經營センカ所謂林政ノ如何ハ即チ森林ノ狀態ト民度慣習ノ如何ニ依リテ之

ヲ決セサルヘカラス今本島林業ノ狀態ニ見ルニ過去ハ言フニ及ハス現在ニ於テモ人民ノ林業ニ對スル觀念ハ頗ル幼稚ニシテ森林ト吾人人類生活ノ關係ヲ解セス且ツ彼等ノ公共的觀念ニ乏シキ森林愛護ノ念ヲ缺キ過去ニ於テ結ハレタル果實ハ先ヲ爭フテ獲得シ利盡キテ顧ミサルカ如ク或ハ國有林野ニ於ケル盜伐事故ノ頻々タル或ハ森林火災ノ續出セル等到底輕視スヘカラサル問題ニ屬セリ故ニ臺灣ノ林野行政ハ是等ノ事實ヲ基礎トシテ樹立スルノ必要アルヲ以テ助長の意味ノ下ニ林野ノ保護取締ヲ爲スヘク已ニ明治三十九年度以來保安林規則ニ基キ保安林調査ヲ續行シ來レリ

元來保安林ノ編入ハ林野ノ利用竝ニ各種事業ノ勃興ニ伴ヒ林野ノ保安ヲ適當ニ維持スルノ必要上一定ノ制限ヲ設クル所以ニシテ本島ノ如キ荒廢ノ度甚シキ林野ニ在リテハ最モ緊要ナル手段タラスンハアラス而シテ之カ編入ト同時ニ剗切ナル施業ノ方法ヲ設ケ各々其ノ目的ヲ遂ケ國土ノ保安ト公衆ノ福祉ヲ進ムルノ一助タラシメムトスルモノナリ從ツテ要急箇所ハ漸次編入スルノ方針ナリ今保安林調査著手以來既ニ保安林ニ編入セラレタル種別及面積等ヲ示セハ左ノ如シ (大正七年末現在)

種別	箇所	面積
水源 涵養林	九〇	四〇、六一二甲
鹽石 防止林	三	一三一甲
土砂 防止林	八九	三二、二四七甲
魚 附林	二八	二、九三二甲
飛砂 防止林	四三	八、四五二甲



第二編 林業 第二章 保安林林野取締

防風林	一五	一、三三七甲
風致林	二二	二、七四七甲
水害防備林	六	三四八甲
潮害防備林	一	八九甲
計	二九七	八八、八九五甲

保安林、林野取締ニ就キ各廳ノ主ナル實況報告ヲ摘録スレハ左ノ如シ

臺北廳報告 已ニ指定セラレタル保安林ニ對シテハ著々造林ヲ實行シ其ノ成績大ニ見ルヘキモノアリ施業未済ノ林地ニ對シテモ

緩急其ノ順ヲ追フテ漸次造林ヲ行ハムトス

元來應下ニ於ケル鑛業ノ發展、薪炭材需要ノ激増並ニ茶業ノ盛況ハ林木ノ濫伐ト林地ノ濫墾トヲ誘致シ林野ノ荒廢甚シトセ  
ス、サレハ是等ノ取締ヲ嚴ニスルト同時ニ一方樹苗ノ配布ヲ行ヒ造林ノ獎勵ヲ爲シ殊ニ伐採跡地及茶園廢耕地ニ對シテハ特  
ニ適樹ノ植栽ヲ督勵シツツアリ

宜蘭廳報告 本廳下ノ保安林ニ對シテハ努メテ砂防造林ニ力ヲ注キツツアリ今ヤ開墾、造林、伐木、牧畜等ノ事業興隆ニ伴ヒ林

野取締ハ其ノ必要一層切實ナルモノアルヲ認ムルモ未タ充分ノ效果ヲ收ムル能ハサルヲ遺憾トス

桃園廳報告 指定済保安林ニ對シテハ著々造林ヲ實行スルト同時ニ一般林野ニ對シテモ亦之カ保護取締ニ努メツツアリ

新竹廳報告 指定済保安林ニ對シテハ要急箇所ヨリ漸次造林ヲ實行シ併セテ林野取締ニ努メツツアルヲ以テ讓伐盜伐其他ノ事故

年ヲ追フテ減少スルニ至レリ

臺中廳報告 保安林トシテ指定セラレタル林野ニ對シテハ施業ニ努メツツアルト同時ニ林野ノ保護取締ヲ爲スヘク警察官吏ト協

力實行シツツアリ

南投廳報告 指定済保安林ハ勿論一般林野ニ對シ其ノ取締勵行中ニ在リ

嘉義廳報告 製糖業ノ隆盛ニ伴フ木材、燃料ノ激増ハ林野ノ荒廢ヲ誘致シ爲ニ國土保安上保安林ニ指定セラレタル箇所尠カラズ

之カ保護取締ニ關シ勵行中ナルモ島民ノ因襲容易ニ改メ難キモノアルヲ遺憾トセサルヘカラス

臺南廳報告 林野取締ニ關シテハ目下勵行中ニ在リ

阿緱廳報告 本年度ニ於テ指定セラレタル保安林ナキモ既指定保安林ニ對シテハ年來造林ヲ施行シ來レリ

從來林野被害ノ主ナルモノハ無斷開墾及山野火災ニシテ此等弊風ヲ一掃セムコトヲ期シツツアルモ今尙幾多ノ違犯者ヲ見ル  
ノ狀況ニ在リ

臺東廳報告 保安林造林事業ハ相當ノ成績ヲ示シツツアルモ住民ノ過半ハ蕃人ナルヲ以テ之カ取締上別ニ困難ヲ感セサルナリ

花蓮廳報告 既指定保安林中造林ノ急ナ要スル約三百甲ニ對シテハ漸次施業スヘク準備中ニ在リ

林野ノ放火、盜伐、無斷開墾等ニ對シテハ嚴重取締ヲ勵行セルヲ以テ漸次實效ヲ奏シツツアリ

澎湖廳報告 現在保安林及原野ハ殆ト確切ノ地タルヲ以テ野火、伐木等ノ被害ナキモ島民ハ常ニ燃料ニ缺乏セルコトトテ保安林

内ノ草根採掘ノ惡弊アリ故ニ從來之カ取締ヲ勵行シツツアルモ未タ實效ノ顯著ナルモノナキヲ遺憾トス

第三章 森林原野ノ開拓及利用

本島林野ノ開拓及改良ハ林業拓殖上重要事業ニ屬スルヲ以テ明治二十九年官有森林原野及產物特別  
處分令ヲ公布シテ林野處分ニ關スル條規ヲ明カニセリ然レトモ山林原野ハ曩ノ臨時臺灣土地調査ノ  
際大部分未調査ニ屬セルヲ以テ明治四十三年度ヨリ五箇年繼續事業トシテ林野調査ヲ實施シ地籍林  
政並ニ拓殖上ノ基礎ヲ固ムルニ至レリ



斯クテ林野ノ大部分ハ官有ト査定セラレタルモ人民ニ於テ縁故關係ヲ有スル林野モ亦尠カラサレハ行政上特別處分整理ヲ爲スヘク或ハ開墾地拂下或ハ許可地成功拂下或ハ不要存置林野拂下等ヲ實施シ經濟的土地運用ノ效果ヲ收メツ、アリ即チ大正六年末ニ於ケル現在許可地面積ヲ舉レハ左ノ如シ

豫約賣渡規則ニ依ルモノ	八八、六八一甲
官有財産管理規則ニ依ルモノ	六七七甲
糖業獎勵規則ニ依ルモノ	五、〇三二甲
樟樹造林獎勵規則ニ依ルモノ	四〇、九二六甲
官有林野貸渡規則ニ依ルモノ	三二、五六五甲

外ニ

大學演習林及基本財産林

一二九、二六六甲

森林原野ノ開拓及利用ニ就キ各廳ノ主ナル實況報告ヲ摘録スレハ左ノ如シ

臺北廳報告 既許可地ニシテ已ニ成功期限ニ達セルモノ少カラス何レモ相當ノ成績ヲ舉ケツツアリ

宜蘭廳報告 廳下ニ於ケル開墾適地ハ既ニ概ニ墾成セリ大湖潭平原モ亦面積一千甲中約五分ノ一ハ水田ニ開墾シ得ヘキヲ以テ夙

桃園廳報告 許可地ノ大部分ハ茶樹ノ植栽ヲ以テ利用セラレ其ノ成績良好ナリ

新竹廳報告 諸般産業ノ興起ニ伴フ土地希望熱ハ漸次昂進シ許可地ニ於ケル企業ハ何レモ順當ニ進捗シツツアリ

臺中廳報告 既許可地ニ對シテハ當初ノ計劃ニ基キ著々事業進行中ニ在リ

南投廳報告 近時産業ノ發達ニ伴ヒ許可地ニ對シ造林ノ目的ヲ以テ事業進行中ニ在リ

嘉義廳報告 近年開墾ノ如キハ一般經濟狀況ノ好調ニ達シ舊來荒廢ニ委シアリタル不毛ノ原野ハ勿論假令僅少ナル瘠薄地ト雖モ

臺南廳報告 既許可地中成功セルモノアリ或ハ不成功ノ爲返地セルモノアルモ概シテ造林ニ著眼シ已ニ實績ヲ舉ケツツアルモノ

少ナカラス

阿緬廳報告 既許可地ニ對シテハ著々事業ヲ進メツツアリ

臺東廳報告 蕃人及本島人ニ於テ林野ノ貸下ヲ出願スル者多ク既許可地ニ對シテハ著々事業ヲ進行シ成功シタルモノ亦少ナカラ

ス

花蓮港廳報告 時勢ノ要求ニ伴フ各種産業ノ勃興ト共ニ豫約拂下貸下又ハ豫定存置ヲ出願スルモノ日ニ月ニ増加シ既許可地ニ對

シテハ何レモ眞面目ナル經營ヲ爲シツツアリ

澎湖廳報告 本廳下原野ハ地味一般ニ瘠薄ニシテ開墾利用ノ途極メテ少ナリ本年中豫約拂下ヲ出願セルモノ僅ニ二件ニ過キサリ

ナリ

第四章 造林

凡ソ樹木ヲシテ能ク成立セシムルト否トハ其ノ土地ト樹木トノ自然ノ關係ヲ考察シテ然ル後之ヲ決スヘキモノナルコトハ言フ迄モナシ而シテ比較的不要ノ材ヲ捨テテ有用樹種ノ撰擇ヲ要スルコト勿論ナルヘシ



元來臺灣ノ地タル熱帶、亞熱帶ノ性質ヲ有スルヲ以テ氣候、風土或ハ地形、地質等ニ於テ内地ノ夫  
 レト甚シク異ナル所アリ從テ樹種、樹性等ニ於テ差異アルヲ免レサレハ全然母國ノ造林法ヲ其ノ儘  
 採用スルコト能ハス本島ニハ自ラ木島特有ノ造林法ナカルヘカラス茲ニ於テカ各種試驗ヲ最モ必要  
 トスル所以ナリ今之カ事業ノ狀況ヲ舉クレハ林業試驗場ニ於テ殖育試驗、利用試驗ヲ實行シ以テ林  
 業經營上遺憾ナカラシメムコトヲ期セリ即チ大正六年度末ニ於ケル現在苗圃及造林面積ヲ掲クレハ  
 左ノ如シ

苗圃面積	一二一甲	官	六八甲
		民	五三三
造林面積	五三、七七二甲	官	二〇、七一五甲
		民	三三、〇五七甲

造林事業ニ就キ各廳ノ主ナル實況報告ヲ摘録スレハ左ノ如シ

臺北廳報告 大安庄及暖々街ノ二箇所ニ官營苗圃ヲ設置シ樟、相思樹、緬甸合歡、銀合歡、臺灣赤松、黑松、羅漢松及榕樹ヲ養  
 成シツツアリシカ本年中山出セルモノ約九十一萬本ニ達セリ

官營造林地ハ乾澇及坪頂ニ於ケル樟樹造林、暖々街ニ於ケル水源涵養林、金色里舊社、下員坑等ニ於ケル海岸砂防林及烏月  
 庄ニ於ケル模範林等ニシテ何レモ相當ノ成績ヲ呈セリ民營造林モ亦逐年發展シテ今ヤ大ニ見ルヘキモノアルニ至レリ

宜蘭廳報告 多年指導獎勵ノ結果植林思想年ト共ニ普及セルト請般工業ノ隆昌ニ伴ヒ木材ノ需用頓ニ増加シ平地附近漸ク薪材其  
 ノ他木材ノ窮乏ヲ感スルニ至レル爲茲ニ植林事業勃興ノ機運ヲ促シ稍々堅實ナル發達ヲ見ルニ至レリ

官營苗圃ハ宜蘭坪林尾ノ二箇所ニシテ主トシテ民林獎勵用及道路並木、小公學校庭園植栽用樹苗ヲ養成セリ又官營造林トシ  
 テハ專ラ沿海飛砂ノ防止ニ努メ著々實效ヲ奏シツツアリ

桃園廳報告 官營苗圃ハ近時著シク發展シ或ハ植栽シ或ハ播種シテ造林ニ努ムルモノ逐年多キチ加フルニ至レリ  
 民營苗圃ニ於テハ樟、相思樹、福州杉、チーク等ヲ養成シツツアリ民營造林モ亦年々増殖ノ傾向ヲ見ルニ至レリ

新竹廳報告 官營苗圃ニ於ケル養成苗木ハ樟樹、相思樹等ニシテ官營造林ハ中港、後壠方面ニ於ケル砂害防止ノ施業ニ努メツ  
 アリ

民營造林ハ樟樹ヲ以テシ其ノ成績良好ナリ

臺中廳報告 官營苗圃トシテハ四箇所ニ設ケ或ハ民林ヲ獎勵シ或ハ官營造林ヲ實行スヘク夫々必要樹苗ヲ養成シツツアリ官營造  
 林トシテハ砂防造林ヲ實行シ稍々見ルヘキノ成績ヲ呈スルニ至レリ

南投廳報告 官營ニ係ル三苗圃ハ樟、チーク、扁柏、相思樹等ヲ養成シテ模範造林ヲ實行シ民營造林ヲ促進セシカ其ノ成績概シ  
 テ良好ナリ

嘉義廳報告 官營苗圃ニ於テハ多ク海岸砂防用樹苗ヲ養成シ併テ民林獎勵ニ努メツツアリ

官營造林トシテハ許厝寮庄外三庄ニ互ル砂防造林ニシテ民營トシテハ樟、護謨、チーク、杉、廣葉杉、松、油桐、相思樹ノ  
 造林ヲ實行シツツアリ

臺南廳報告 官營苗圃ハ臺南外四箇所ニ設置シ之カ苗木ハ官用ニ供スルノ外一般人民ニ下付シ以テ造林事業ヲ獎勵シツツアリ官  
 營造林トシテハ打狗山二十三甲步ニ對シ實行セルノミ民營造林ハ近年著シク進捗シ本年中植付ヲ爲セル面積一千二百二十四  
 甲步ニ達セリ

阿緱廳報告 官營苗圃ハ阿緱街外三箇所ニ設置シ專ラ民林用苗木ヲ養成シツツアリ官營造林トシテハ旗尾外二箇所ニシテ主トシ  
 甲步ニ達セリ



第二編 林業 第五章 林産

テ相思樹造林ヲ行ヒ成育ヲ爲シツツアリ

民營造林ニ在リテハ本年度中七百五十八甲歩ヲ造林シ播種ニ係ルモノハ相當ノ成績ヲ示スニ至レリ

臺東廳報告 未タ民營苗圃ヲ設置スルニ至ラサルヲ以テ官營苗圃養成ノ苗木ヲ民間ニ配付シ民林ノ發達ヲ助成シツツアリ

官營造林トシテハ保安林ニ造林シ來リシカ直播ヨリハ植栽ノ方精良好ノ成績ヲ呈セリ

花蓮港廳報告 官營造林ニ供スルノ外殘餘ハ民營造林用ニ供給シ依レリ目下官營造林トシテハ米崙山風致保安林ノ造林ニシテ已

ニ大正五年度ニ於テ完成セルヲ以テ手入ノミヲ實行セリ

民營造林トシテハ勞力ト資本トノ乏シキニ依リ未タ一般ニ普及スルニ至ラサルモ拓殖會社ニ於テ七百三十甲歩ヲ造林セリ

澎湖廳報告 官營苗圃ハ文瀾外三箇所ニシテ保安林造林用苗木ノ養成ニ努メ兼テ一般造林ノ獎勵ニ餘力ヲ盡シツツアリ

前記各廳報告ノ外殖産局直轄トシテ新竹廳三叉河庄及嘉義廳山仔頂庄ニ樹苗養成所ヲ設置シ三叉河

樹苗養成所ニ於テハ專ラ民間配付用ノ苗木ヲ養成シ嘉義樹苗養成所ニ於テハ有用植物ノ栽培ニ努メ

ツ、アリ又熱帶纖維植物ヲ養成スヘク阿猴廳武洛庄ニ苗圃ヲ設ケ專ラ「サイザル」ノ養成中ニシテ何

レモ豫期以上ノ成績ヲ收メ又臺中廳内灣庄ニ砂防造林八卦山作業所ヲ設置シテ土砂扞止保安林ニ對

スル造林ヲ實行シ著々實績ヲ擧ケツ、アリ

第五章 林産

本島ノ山林ハ行政區域ニ在リテハ其ノ資材ノ蓄積甚タ多カラス僅ニ薪炭材、竹材竝ニ各種ノ副産物ニ過キスシテ其ノ最モ囑望スヘキハ蕃界ナリト雖モ未タ交通運輸ノ便全ク開ケサルヲ以テ充分ナル

利用ヲ爲ス能ハサル憾ミアリ然レトモ理蕃事業ノ進捗ニ伴ヒ此ノ豐富ナル蓄積ヲ開發セシメ得ヘキ時機ノ到來セムトスル蓋シ遠キニアラサルヘシ

元來林業ノ主タル目的ハ森林生産物ヲシテ豐富ナラシムルニ在リト雖モ其ノ行政區域内ニ屬スルモノニ於テハ多年林木亂伐ノ結果今俄ニ發達ノ見込ナキカ如ク從テ森林ノ利用ヲシテ十分ナラシムル能ハサルノ憾ミアリ明治二十九年官有森林原野産物賣渡規則ヲ發布シ以テ林野産物ヲ處分スルコトトナリシカ其ノ林産物ノ多クハ街庄部落附近ニ存在セルモノナリシヲ以テ賣渡價格モ輕微ニシテ而モ地元人民ノ生活ニ密接ナル關係ヲ有スルモノ多シ故ニ同年官有森林原野及産物特別處分令ヲ發布シテ特賣方法ヲ採リ以テ林野更新上必要ノ限度ニ於テ之カ拂下ヲ實行シツツアルモ近來産業ノ勃興ニ伴ヒ林木ノ需要ハ頓ニ増加シ到底供給ヲ爲シ能ハサルノ状態ニ在リ今明治三十七年度以降ニ於ケル各廳取扱ニ係ル林産物拂下價額ヲ計上スレハ左ノ如シ

林産物拂下價額	七、〇二八、七四一圓	製腦以外主産物	五、六〇八、八四五圓
		製腦以外副産物	一一〇、七〇四圓
		樟樹製腦原料及燃料	一、二九九、一九二圓

林産物處分ニ就キ各廳ノ主ナル實況報告ヲ摘録スレハ左ノ如シ

臺北廳報告 林産物ノ拂下數量ハ前年ト大差ナキモ其ノ間時局ノ影響ニ鑑ミ拂下單價ノ値上ヲ行ヒシト又炭酸加里工業ノ勃發セ

ル爲メ之カ原料タル雜木雜草ノ拂下出願者頓ニ増加セルハ著シキ事實ナリトス



第二編 林業 第五章 林産

宜蘭廳報告 粗製炭酸加里即チ炭ハ從來古ク木島山間地方ニ於テ製出セラレ需用極メテ少ナカリシカ歐洲戰亂ノ結果外國ヨリノ

輸入杜絶シ加フルニ歐米ヨリ注文多量ニシテ戰前ノ相場ニ比シ目下殆ト倍額以上ニ達シ爲ニ官有林野ノ雜草木拂下ハ速カニ其ノ額ヲ増加スルニ至レリ

桃園廳報告 林産物拂下ノ主ナルモノハ楠木ニシテ副産物ハ極メテ少額ナリ

新竹廳報告 蕃地ノ開發ト共ニ林産物拂下數ヲ増加シ楠仔、櫻ハ其主ナルモノナリ

臺中廳報告 主産物トシテ本年内ニ處分セルハ黃肉外十五種ニシテ副産物ハ黃藤、山芭蕉等ナリ

南投廳報告 糖業ノ發展ニ伴ヒ其燃料並ニ建築材料拂下ノ増加著シク之ヲ前年度ニ比スルトキハ三千有餘圓ノ增收ヲ見ルニ至レリ

嘉義廳報告 拂下樹木ノ主ナルモノハ雜木ニシテ其ノ大部分ハ製糖燃料燒炭製造等ニ使用セラレツツアリ

臺南廳報告 拂下ノ主ナルモノハ竹、石灰、雜草、龍眼實ナリ

阿緬廳報告 本年ニ在リテハ時局ノ影響ニ依リ林産物モ亦好況ヲ呈シ殊ニ薪炭價額ノ昂騰及從來製糖燃料トシテ北部ヨリ供給シ

來リシ石炭ノ輸送不充分ナリシ爲雜木ヲ以テ之ヲ補ヒタル等自然林産物賣下希望者ヲ激増スルニ至レリ

臺東廳報告 各種事業勃興ノ結果林産物ノ拂下年々逐フテ増加ヲ示シツツアリ

花蓮港廳報告 時勢ノ展開ニ伴フ各種事業ノ勃興ハ建築用材ノ需要ヲ激増シ自然林産物拂下ノ出願日ニ其ノ多キヲ加フルニ至レリ

第六章 拓殖業團體

近時産業ノ發達ニ伴ヒ土地利用熱ノ度ヲ加ヘ島内人民ハ勿論内地資本家ニシテ或ハ會社ヲ組織シ或ハ個人名義ヲ以テ豫約拂下、貸下又ハ豫定存置ヲ出願スルモノ多ク其ノ目的タルヤ或ハ開墾或ハ造林或ハ牧畜等ニシテ本島ノ氣候及地味ヨリ觀察スレハ此等企业ヲ容レテ之カ拓殖利用ヲ圖ルノ要アリ已ニ個人タルト團體タルトヲ問ハス確實ナル企業家ニ對シテハ豫約開墾ヲ許可シ其ノ成功者ニ業主權ヲ附與シタルモノ亦少ナカラサルナリ

拓殖業團體ノ事業計劃ニ就キ各廳ノ主ナル實況報告ヲ摘録スレハ左ノ如シ

臺北廳報告 團體トシテ記入スヘキモノハ唯三井合名會社山林部ノ存在スルノミニシテ之カ事業トシテハ許可地域内ノ林産物採

取或ハ販賣ノ外他ニ認ムルモノナシ

宜蘭廳報告 團體事業トシテ舉グヘキモノ左ノ如シ

(イ) 臺灣製腦合名會社ハ製腦事業ノ外伐木及開墾事業ヲ兼營セシカ伐木事業ハ夙ニ之ヲ廢止シ開墾事業ハ許可地中成功部分ノ拂下ヲ受ケ殘餘ハ之ヲ返地シテ一段落ヲ告グルニ至レリ

(ロ) 宜蘭殖産株式會社ハ軌道事業ノ外開墾及伐木事業ヲ兼營シ許可地中開墾ヲ成功セル部分ハ已ニ賣渡處分ヲ了セルモノアリ伐木事業ハ從前臺灣製腦合名會社ヨリ之ヲ承ケタルモノニシテ官有林野ノ産物ヲ拂下ケ製材加工販賣ヲ營ミシモ大正六年

三月限り之ヲ廢シ宜蘭林業株式會社ニ讓渡セリ

(ハ) 宜蘭林業株式會社ハ材木、造林、林産物採取、加工、販賣ヲ營ミツツアリ

(ニ) 金瓜石田中嶺山宜蘭出張所ハ官有林伐木、製炭、石灰石採掘、林産物採取業ヲ主トシ併セテ樟樹造林ヲ經營セリ

(ホ) 宜蘭興殖組合ハ專ラ開墾事業ヲ經營シ許可地中大部分ハ成功シテ賣渡ヲ受ケ殘餘ハ之ヲ返地シテ一先ツ解散セリ

第二編 林業 第六章 拓殖業團體



第二編 林業 第六章 拓殖業團體

桃園廳報告 三井合名會社、三角湧興殖合股公司、成榮興業合股公司、萬基公司等ノ拓殖業團體ハ何レモ順調ニ事業ヲ進メツ

ツアリ

新竹廳報告 苗栗ニ南昌拓殖公司アルモ事業不振ニシテ特記スヘキ事項ナシ

臺中廳報告 松岡拓殖合資會社ハ開墾ヲ主トシ良好ノ成績ヲ收メツツアリ又大寶農林部ハ樟樹造林ヲ目的トシ相當ノ好果ヲ得ツ

ツアリ

嘉義廳報告 拓殖業團體ノ狀況左ノ如シ

(イ) 大日本製糖株式會社ハ全部自作法ニ依リ開墾ノ上甘蔗ヲ栽培シ來リシモ大正元年八月ノ暴風雨ニテ流失ノ箇所多ク復舊

ノ見込ナキニ依リ遂ニ部分返地ヲ爲シ其ノ他ハ全部成功セリ

(ロ) 布嶼拓殖公司ハ林月汀外四名ノ合資的共同經營ニ屬シ專ラ本島人移民ヲ招來シ小作法ニ依リ開墾セリ然ルニ大正三年ノ洪水ニ依リ多大ノ被害アリタルモ爾來復舊作業ニ從事セル結果著々成功ニ近ツキツツアリ

(ハ) 東洋製糖株式會社ニ於ケル許可地ハ何レモ低地ニシテ雨水停滯殆ト湖水ノ狀態ヲ爲シツツアル所少ナカラス爾來排水溝ノ掘鑿ニ從事シ全部自作法ニ依リ開墾ノ上甘蔗ヲ栽培シツツアリ

(ニ) 合資會社三菱製紙所ハ模範竹林經營ノ目的ヲ以テ改良繁殖ヲ圖ルノ外油桐、相思樹ヲ造林シツツアリ

ホ 臺灣拓殖株式會社ハ全部小作法ニ依リテ開墾シ主トシテ麥ヲ栽培セリ

阿緞廳報告 拓殖團體事業ノ經營狀況左ノ如シ

(イ) 今村農場ハ元臺灣製糖株式會社ノ許可地ヲ讓リ受ケ全部小作制ヲ採リ主トシテ甘蔗ヲ栽培セリ

(ロ) 臺灣製糖株式會社兼寶湖農場ハ開墾及造林計劃ヲ爲シ熱心事業ノ進捗ヲ圖リシモ明治四十四年以來屢々水害ヲ受ケ成績

良好ナラス

(ハ) 臺灣製糖會社彭厝農場、崇崗農場、下冷水坑農場ハ甘蔗ヲ主トシ陸稻豆類ヲ輪作シツツアリ

第二編 林業 第六章 拓殖業團體

(ニ) 三五公司南隆農場ハ開墾及造林ヲ實行シ農場經營ハ小作制ニシ移民ヲ招來シ以テ開墾ノ進捗ヲ圖リツツアリ造林事業ハ相思樹及チークヲ主トシ活著歩合モ極メテ良好ナリシカ時々火災ノ爲メ多大ノ損害ヲ受ケタリ

(ホ) 鹽水港製糖拓殖株式會社旗尾農場ハ甘蔗ノ栽培ヲ主トシ豆類ヲ輪作シツツアリ

(ハ) 阿緞サイザルヘンブ農場ハサイザル栽培ノ目的ニテ經營シタルモノナルカ明治四十四、五兩年ノ洪水ニ依リ多大ノ損害ヲ受ケ事業甚々振ハサルナリ

(ト) 興農社恒春農場ハサイザル栽培ヲ目的トシ近ク株式會社ニ改ムヘク準備中ニ在リ

(チ) 恒春興農株式會社ハ澗紛製造、開墾及林業ヲ經營セシカ事業不振ノ結果本年ニ至リテ解散セリ

(リ) 臺灣拓殖株式會社老埠農場ハ元臺灣殖產株式會社ノ許可地ヲ讓リ受ケ造林及開墾ヲ以テ目的トセリ

(マ) 臺灣拓殖株式會社恒春農場ハ元臺灣起業株式會社ノ許可地ヲ讓リ受ケ造林及開墾ヲ目的トセルモ蕃人騷擾ノ影響ヲ受ケテ一頓挫ヲ來タシ爾來事業不振ノ狀態ニ在リ

(ル) 臺灣拓殖株式會社蕃薯農場ハ主トシテ相思樹造林ヲ爲スノ計劃ナリシカ近來チーク造林ヲ爲サントシツツアリ

(ナ) 濱村農場ハ熱心開墾ニ從事シツツアルモ土地概々確切ニシテ小作者永續セス爲ニ一旦墾成シタル箇所モ再ヒ原野ノ狀態ニ復スルモノ少ナカラサルノ狀態ニ在リ

(ワ) 大山農場ハ銳意開墾ニ從事セルモ時々蕃害アリテ小作人ノ移住スルモノナカリシカ近來蕃情稍靜穩ニ歸シタルヨリ著シク開墾事業ノ進捗ヲ見ルニ至レリ

(カ) 安藤崇蘭農場ハ甘蔗栽培ノ自作農業ヲ營ミタルモ收支相償ハ本年ニ至リ臺灣製糖株式會社ニ賣渡セリ

(ヨ) 臺灣製糖合資會社水蛙潭農場ハ當初棉花ノ栽培ヲ主トシ造林ヲ爲サントスル豫定ニテ小作者二種子ヲ配付シ直營ト共ニ栽培ヲ試ミタルモ地味瘠薄ニシテ而モ傾斜地ナルヲ以テ雨水ノ爲表土ノ流失少ナカラス收支相償ハサルモノアルヲ以テ將來

ハ相思樹造林ヲ爲サントシ計劃中ニ在リ

(タ) 臺灣興業株式會社土龍灣農場ハ未タ何等見ルヘキノ施設ヲ爲スニ至ラス



第二編 林業 第六節 拓殖業團體

(レ) 岡烈大响營農場ハサイザル栽培ヲ爲シツツアリ

(ソ) 藤倉電線護謨合資會社新庄造林ハチーク、ゴム、相思樹等ヲ造林シツツアリ

(ツ) 安藤加藤堂農場ハ明治四十四、五兩年ノ暴風雨ニ依リ成墾地ヲ流失セラレ其後蕃人ノ騷擾ニ會ヒ少ナカラサル打撃ヲ受ケタリシカ近時順調ニ事業進行中ニ在リ

(ネ) 安部幸兵衛十張墾農場ハ開墾ノ目的ヲ以テ得タル許可地ハ之ヲ返地シ後繼者タル臺南製糖株式會社ニ於テ豫約賣渡出願中ニ在リ

(ナ) 阿蘇農會蕃薯發造林地ハ其ノ成績良好ナリ

臺東廳報告 臺東製糖株式會社ニ於テハ著々開墾事業ヲ進メツツアリ

第三編 鑛業



第二編 林業 第六章 拓殖業團體

(レ) 岡烈大响營農場ハサイザル栽培ヲ爲シツツアリ

(リ) 藤倉電線護謨合資會社新庄造林ハチーク、ゴム、相思樹等ヲ造林シツツアリ

(ツ) 安藤加藤堂農場ハ明治四十四、五兩年ノ暴風雨ニ依リ成墾地ヲ流失セフレ其後蕃人ノ騷擾ニ會ヒ少ナカラサル打撃ヲ受ケ  
タリシカ近時順調ニ事業進行中ニ在リ

(ネ) 安部幸兵衛十張墾農場ハ開墾ノ目的ヲ以テ得タル許可地ハ之ヲ返地シ後繼者タル臺南製糖株式會社ニ於テ豫約賣渡出願中  
ニ在リ

(ナ) 阿蘇農會蕃薯墾造林地ハ其ノ成績良好ナリ

臺東廳報告 臺東製糖株式會社ニ於テハ著々開墾事業ヲ進メツツアリ

第三編 鑛業



### 第三編 鑛業

#### 第一章 總論

本島ニ於ケル既知ノ有用鑛物ハ金、砂金、銀、水銀、銅、褐鐵鑛、方鉛鑛、閃亞鉛鑛、硫化鐵鑛、石炭、亞炭、石油、硫黃、磷鑛等ニシテ就中臺灣鑛業規則ニ據リ既ニ鑛業ヲ許可シタルモノハ金鑛、金銅鑛、金銀銅鑛、砂金、銅鑛、水銀鑛、鐵鑛、砂鐵、石炭、亞炭、石油、硫黃、磷鑛ノ十三種トス而シテ大正六年末現在鑛區數ハ五百九十四此ノ面積一億三千三百四十二萬餘坪ナリ此ノ内同年中稼行セル鑛區ハ二百七十七此ノ面積三千五百五十萬餘坪ニシテ其產額六百六十七萬餘圓ニ達シ前年ニ比シ九十二萬餘圓即一割六分ヲ増産セリ

主ナル鑛ノ報告ヲ摘録スレハ左ノ如シ

#### 臺北廳報告

廳下ノ鑛業ハ近時歐洲戰亂ノ影響ヲ受ケ目覺シキ活躍ヲナシ殊ニ炭業界ハ船腹不足ノ結果撫順及内地炭ノ南支南洋ノ輸出杜絶トナリ之ニ代リテ本島炭ノ輸出激增シタルト一面島内各種工業ノ勃興ニ伴ヒ益々炭價暴騰シ從ツテ鑛業熱ノ勃興ヲ喚起シ本島未曾有ノ盛況ヲ呈スルニ至レリ斯ク鑛業熱ノ旺盛ハ斯界ノ發展ヲ促進シ北部一帶ニ連互セル炭鑛ハ今ヤ管下ヲ通シテ稼業ニ餘念ナク從來交通不便ノタメ放棄シテ顧ミラレサリシ僻陬ノ地モ競フテ探掘ヲ出願スルモノ續出シ本年中總出願件數約六百二十件(内約九分ハ石炭)ノ多數ニ昇リ内許可件數六十九鑛區ヲ算シ鑛業權賣買讓渡亦夥シク其變更朝夕相亞キ之カ處理ニ忙殺サルルノ狀況ヲ見ルニ至レリ



第三編 鑛業 第一章 總論

桃園廳報告 石炭鑛業ハ逐年需要増加ノ爲メ好況ニ向ヒ炭價昂進シ就中製糖開始時期ハ益々暴騰シ引續キ盛況ヲ持續セリ從ツテ採掘出願者續出シ殖産局ノ廻送ニ依ル願書二百七十四件ニシテ例年ノ十數倍ニ達シ面積又頗ル廣大ニシテ將來ノ產額ハ蓋シ活目スヘキモアルヘシ而シテ其經營方法ハ漸次資本ノ合同販賣ノ共同ヲ爲スノ氣運ニ向ヒツツアリテ從來ノ如ク小炭業者ノ執レル姑息ナル採掘方法ニ依リ競争販賣ヲ爲スカ加キハ各自ノ不利ナルノミナラス到底時代ノ要求ニ應スルコト能ハサル狀態トナリ既ニ各所ニ會社組織或ハ公司ト爲シ品質ノ選良及運炭軌道敷設ノ計畫ヲ爲ス者アルヲ以テ本鑛業ハ極メテ多量ノ將來ヲ有ス、石炭以外ニアリテハ本年中大岩塚方面ニ於ケル銅鑛、鐵鑛、中壠楊梅壠方面ニ於ケル鐵鑛ノ採掘ヲ出願セルモノアルモ其價値未ダ判明セス

新竹廳報告

廳下ハ從來石油ヲ除ク外鑛業地ト目スヘカラサリシモ時局ノ影響ニ因リ石炭ノ需要増加セルト之カ價額ノ暴騰トハ企業家ノ鑛業熱ヲ煽リ位置ノ遠近搬出ノ便否炭層ノ厚薄等ニ念及スルトコロナク競フテ之カ採掘ヲ出願シ一面炭層ノ發見ニ許可鑛區ノ賣買ニ東奔西走スルモノアリテ頓ニ活氣ヲ呈スルニ至レルモ此ハ一時ノ鑛業熱ニ乘シ單ニ採掘ノ許可ヲ得權利ノ賣買ヲ以テ利得ヲ見ントスル所謂虛業家其多キヲ占ムルモノノ如キハ却テ將來新業ノ發展上憂フヘキ事態ナルヲ以テ本廳ニ於テハ慎重之カ處理ニ從事セリ

嘉義廳報告

廳下ノ鑛業ハ石油ノミニシテ先年金及石炭ノ採掘ヲ願出タルモノ三件アリシモ採掘價値ナキモノト認メ却下セラレタリ之ニ反シ石油ハ明治三十七年三月木田平作ナル者哆囉囉東下堡六重溪庄方面ニ油層ヲ發見シ之カ採掘ノ許可アリタルヲ嚆矢トシ次テ明治四十二年日本石油株式會社カ六重溪庄ニ油井ノ掘鑿ヲ開始セシ以來頓ニ石油熱勃興シ現在許可石油鑛區ハ二十八此ノ面積千五百十萬八千六百九坪ニ達シタルモ現ニ試掘中ノモノハ日本石油株式會社ト六重溪油田ノ一箇所ニシテ他ハ之レカ形勢ヲ觀望シ徐ロニ事業ニ著手セントスルモノノ如シ石油ノ採掘ニツイテハ一般ニ嚆望サレツツアリ、尙時局ノ影響炭價ノ暴騰ヲ促シタル結果石炭ノ採掘ニ著目シ之カ採掘ニ奔走セルモノ多ク現ニ斗六及竹頭崎支廳管内ニ三件ノ出願アリ

臺南廳報告

管内ニ於テ本年末迄ニ石油鑛區許可件數十四件面積八百九十一萬八千二百二十七坪二合ニシテ内本年中ニ許可セラレタルモノ三件面積三百三十九萬六千三百五坪ナリ而シテ現在ニ於テ採掘中ノモノナシ

阿緬廳報告

廳下ノ地質ハ新高山系ノ高山地帶ニ至ルモ尙水成岩ヲ以テ構成セルカ如ク大部分如上ノ成因ニ依ルモノナルヲ以テ有用鑛物極メテ鮮ク假令蕃地開發ノ曉ニ至リテモ有望ノ鑛脈ヲ發見スルニ至ラサルヘク殊ニ地殼ノ成因ヨリ見ルモ金屬類ノ鑛物ニ至リテハ極メテ貧弱ニシテ偶之アリトスルモ恐ラク稼行ニ堪ユルモノナカルヘシ隨テ從來發見シタル鑛種ハ主ニ石油ニシテ大正六年末現在ニ於ケル許可鑛區ハ石油十六鑛區此面積四百二十萬六千七百二十七坪及阿緬臺南兩廳ニ跨ルモノ石油三鑛區此面積二百二十七萬五千五百七十七坪ニシテ鑛區稅一箇年五千四百三十圓ヲ算ス而シテ如上ノ鑛區ハ單ニ許可ヲ得タルノミシテ未ダ一ツモ事業ニ著手シタルモノナキヲ以テ其成績ニ至リテハ未ダ知レコトヲ得ス

宜蘭廳報告

廳下ハ鑛業地トシテ夙ニ世人ノ矚目セル處ナリシカ近年蕃地ノ開發ハ鑛業熱ヲ喚起シテ頗ル長足ノ發展ヲ爲サシメタリ本年中ニ於テ鑛業許可ヲ出願セルモノ銅鑛四十一件面積六千六百三十四萬九千九百三十三坪金銅鑛三件面積九百五十六萬八千六百坪銀銅鑛二件面積二百三十三萬六千二百八十坪金銀銅鑛一件面積五十五萬四千四百四十五坪硫磺鑛一件面積五十八萬五千六百坪石炭鑛一件面積十九萬坪合計四十九件面積七千九百五十七萬九千七百八十八坪ノ多キニ達シ内鑛業權ノ許可ヲ受ケタルモノ銅鑛六件面積四百九萬三千九百九十坪出願ノ取消ヲ爲シタルモノ金鑛二件面積百八十萬坪銅鑛二件面積百五十萬坪金銅鑛一件面積二百三十八萬坪合計五件總面積五百六十八萬坪ナリ又鑛業權ノ讓渡許可ヲ受ケタルモノ銅鑛九件面積四百七萬六千三百五十八坪砂金一件面積六萬三千五百六坪減區許可ヲ受ケタルモノ銅鑛五件ニシテ爾來引續キ許可出願續出シツツアリテ盛況ヲ極メツツアリ

花蓮廳報告

大正五年ニ於テ三井物産、久原鑛業兩株式會社、藤田組及鹽水港製糖拓殖株式會社等ニ於テ夫々探檢隊ヲ組織シ入山探鑛ニ從事シタル結果鑛業ノ出願連カニ増加シ本年中ノ受理件數ハ八十四件ニ上レリ之ヲ前年ニ比スレハ六十七件ヲ増加セリ願フニ廳下ノ鑛業ハ銅ノ採掘其ノ主ナルモノニシテ金銀、亞炭、砂金等ノ採掘之ニ亞リ

第三編 鑛業 第一章 總論











第三編 礦業 第三章 礦產

本島ノ礦業ハ逐年發達シ大正六年中ノ鑛產額六百六十七萬七千七百五十四圓ニ達シ前年ニ比シ九十  
二萬五千十一圓即一割六分強ヲ増産セリ

左ニ各鑛種別ニ鑛況及鑛產ヲ列記スヘシ

金 金ノ産額從來各種鑛產物ノ首位ヲ占メタルモ石炭ノ好況ニ壓倒サルルトコロトナリテ當年ノ産額第二位ニ下レルモ其ノ産額ハ  
年々二百萬圓内外ヲ往來シ著シキ増減ナク二百五萬三千六百六十六圓ノ産出ヲ見タリ而シテ金ノ産地ハ臺北廳下瑞芳金山及金瓜  
石鑛山ノ二鑛山ナリ、金瓜石鑛山ハ時局ノ影響ニ伴フ船腹不足ノ爲メ煤鑛鑛石ノ移入意ノ如クナラサリシモ製煉法ノ改良ニ  
依リ又瑞芳金山ハ富鑛帶ニ達著シタル等ニ因リテ前年ニ比シ多少ノ増産ヲ示セリ

銀 銀ハ金及銅鑛製煉ノ副産物タルニ過キス當年ノ産額三百二十八貫三百六十二匁其價額六萬三千二百六十一圓ニシテ前年ニ比  
シ十貫七百六匁價額一萬二千圓ヲ増産セリ

砂金 砂金産地ハ臺北、宜蘭、花蓮港廳下ニ互リ其分布廣大ナルモ當今採取セララルルハ基隆川筋及金瓜石瑞芳ニ金山鑛區内諸溪谷  
及ヒタツキリ溪口附近ノ一部分ニシテ當年ノ産額十一萬五千七百七十四圓前年ニ比シ一萬八千三百十圓ヲ増産セリ

硫黃 硫黃ノ産地ハ臺北廳下金包里壁及芝蘭一堡芝蘭二堡地内ニシテ當年ノ産額十三萬六千六百八十四圓前年ニ比シ三千六百七十  
二圓ヲ減産セリ

銅 銅産地トシテハ臺北廳下金瓜石及花蓮港廳下銅文閣ノ二鑛山ニシテ當年ノ産額百十六萬七千四百十圓、前年ニ比シ八萬二千五  
百餘圓ノ減産ヲ見タルモ宜蘭廳下富太銅山、東河銅山、花蓮港廳下大濁水溪上流田中銅山チャカン溪上溪三菱銅山等何レモ  
試掘中ニ屬スルモノアリ木鑛業ハ極メテ多望ナル將來ヲ有ス

石炭 從來鐵道沿線以外ノ炭層ハ運搬費ノ爲メ收支相償ハサルモノトシテ順ミラレサリシモ時局ハ炭價ヲ昂騰セシメ今ヤ有利ニ經  
營セラルヘキ機運ニ到レルヲ以テ從來ノ主要産地タル臺北、桃園兩廳下ハ勿論桃園、新竹、南投等各廳下ノ蕃地ニ至ルマテ

第三編 礦業 第三章 礦產

各廳下ノ産額ヲ鑛種別ニ示セハ左ノ如シ

鑛種別	大正六年		大正五年		比較増減(△印減)	
	數量	價額	數量	價額	數量	價額
金	四一、五四匁	11,153,036.4	三八、一八匁	1,910,977.4	二九、三三匁	1,141,459.0
銅	四〇、九二匁	8,019,200.0	七、一八二匁	7,182.4	三三、七四〇匁	81,547.6
砂金	二七、六九匁	11,577,400.0	一六、〇五匁	9,744,600.0	一六、三三匁	1,832,800.0
銀	三二、八三匁	6,722,600.0	三二、七六匁	5,111.9	一〇、七〇匁	1,211.1
石炭	一六、九三九八五斤	11,264,100.0	一九、八七八斤	13,999,987.4	三三、〇六〇斤	8,257.7
石油	(被査) 四、五〇〇百	(?)	一、九八七八斤	1,905,636.4	三、五一二七噸	1,014,575.5
石炭	六、七三〇八噸	2,930,271.0	五、七五八一噸	1,961,833.4	一、〇七九七噸	2,518.8
石油	一一、二八五	1,700,998.8	一、七五七五	1,400,556.4	九、五三〇	3,642.4
硫黃	四八、三〇四七斤	13,666,684.4	四九、九八一八斤	5,613,383.4	一、五八七四斤	3,642.4
計		六六,八一七,五三三				一〇,五八二,七〇〇

大正六年ノ鑛産額及同價額ヲ前年ト對照スレハ左ノ如シ

鑛業ノ出願産出シ又新ニ探掘ヲ開始セシモノ夥カラス當年ノ産額二百九十三萬二千七百七十一圓ニシテ前年ニ比シ百二萬四千五  
百七十五圓ノ著シキ増産アリテ各種鑛產物ノ首位ヲ占ムルニ至レリ  
石油業ハ今尙試掘時代ニ屬シ採油中ノモノハ新竹廳下出礦坑ノ一油田アルニ過キス當年ノ産額十七萬九千九百八十八圓ナリ、此  
ノ他同廳下錦水及桂竹林嘉義廳下六重溪ノ三油田アリ日本及寶田ノ二大會社力鋭意試掘中ニシテ尙木島ノ油帶ノ分布廣大ナ  
、ハ斯業ノ將來ハ極メテ多望ナリト謂フヘシ



礦種別	臺北		桃臺		新竹		花蓮		計	
	價	數	價	數	價	數	價	數	價	數
金	411,514								205,506	
金銅礦	40,171,110								40,171,110	
砂金	10,001								11,574	
銀	3,283,211								3,283,211	
銅	1,693,985								1,693,985	
石炭	6,131,111								6,131,111	
石油										
硫黃	4,830,077								4,830,077	
計	61,919,191								61,919,191	

主ナル應ノ報告ヲ摘録スレハ左ノ如シ

臺北廳報告

金ハ本島礦產物ノ大宗ナルモ近時瑞芳礦山ノ新坑著手以來著シク產額ニ影響ヲ及ホシ一時月產額平均二十貫ニ達シ田中礦山亦經營健實ニシテ前年ニ比シ二十九貫三百三十一匁價額十四萬二千四百四十九圓ヲ增産シ礦況順調ニアリ砂金採取ハ基隆川筋ヲ主産地トシ其全盛時代ヲ明治三十五年頃ヨリ其原山トモ稱スヘキ金瓜石、瑞芳礦山ノ發展ニ相反シ年ト共ニ衰退シ本年度ノ產額ハ二十六貫餘價額十萬八千餘圓ニシテ前年ニ比シ數量ハ二十六匁ノ減少ヲ來セシモ價額ニ於テハ一萬七百七十圓ノ増加ヲ見タリ蓋シ砂金單價ノ騰貴ニ基因スルモノナルヘシ

嘉義廳報告

銀ハ近時相場ノ暴騰ニ由リ著シキ好況ヲ持續シ生産亦不長ナラスト雖未タ銀礦トシテ特ニ記スヘキモノナク本年度產額ハ三百二十八貫餘價額六萬三千二百餘圓ニシテ前年度ニ比シ產額ニ於テ十貫七百六匁價額一萬二千四百四十二圓ノ増加ヲ示セリ銅ハ前年以來船腹不足ノ結果戰時需要金屬ナルニ係ハラズ產出數量百六十九萬三千九百八十五斤價額百十六萬七千四百十圓ニシテ前年度ニ比シ二十二萬四千八百三十三斤價額八萬二千五百七十七圓ノ減少ヲ來セリ石炭ハ金ニ亞ク重要礦產物ニシテ近時新業空前ノ盛況ヲ呈スルニ至リ當業者ノ銳意稼業ニ餘念ナキ結果生産著シク増加シ而モ從來需要少ナカリシ紛炭ノ加キモ殆ト底ヲ拂フノ取引行ハレ稼行日モ足ラサル好況ハ世人ノ大ニ注目ヲ惹クトコロナリ而シテ本年產出額ハ六十一萬六千三百餘噸價額二百六十一萬九千餘圓ニシテ前年ニ比スレハ十三萬五千二百餘噸價額八十四萬七千六百四十餘圓ノ増加ヲ示セリ硫黃ハ船腹不足並ニ近時炭業盛況ノ結果勞働者ノ炭業ニ奪ハルルノ傾向アリ加之當業者モ亦炭業ニ投資スルノ傾向ヲ生セル等產出ヲ減セシムル原因トナリ本年度ノ產額ハ四百八十三萬四千餘斤價額十三萬六千六百八十餘圓ニシテ前年ニ比スレハ十五萬八千七百七十四斤價額三千六百七十二圓ヲ減産セリ石油ハ目下出願中ニ屬スルモノ三箇所ニシテ礦區トシテハ存在スルモノナク未タ鑿井ヲ試ムルモノナキモ油層ノ存在スルモノナキニ非ス斯界ノ狀勢ニ鑑ミ之カ活動ヲ欲シテ止マサル狀態ニアリ其他金銅礦ニ於テハ從來金瓜石礦山ヨリ内地釜石礦山ニ鑿石ヲ移出シ又同礦山ヨリ煤溶礦石ヲ移入シ以テ製煉ニ便セシモ船腹不足ノ結果著シキ減少ヲ來シ本年度ハ產額四百二萬九千二百七十貫價額四萬二千九百九十圓ニシテ前年度ニ比シ三百十五萬七千二十二貫價額三萬一千五百七十一圓ヲ減少セリ燐礦及水銀礦ハ共ニ本年度稼行ナク從ツテ礦產ナシ

嘉義廳報告

哆囉嘮東下堡六重溪庄ニ試掘中ニ係ル日本石油株式會社ノ三號油井ハ大正四年十二月三十日ロータリー式機械ヲ据付探掘ニ著手以來種々作業上故障發生シタルモ萬難ヲ排シ本年五月ニ至リ四百八間迄掘進セシモ土砂崩壞等ノ爲メ掘進不可



第三編 礦業 第三編 礦業

能ニ陥リ遂ニ十月廢坑スルニ至レリ尙一面本年四月補助金一萬九千二百圓ノ下附ヲ受ケ新ニ第四號井ヲ掘鑿スルコトトシ本年末日迄ニ掘進二百十二間四尺ニ達シ銳意作業ニ從事シツツアレハ遠カラス快報ニ接スルニ至ルヘシ

宜蘭廳報告

本年末現在ノ許可礦區ハ蕃地大南灣龜山ニ於ケル安友時藏外二名ノ銅礦一件面積八萬二千五百坪東灣嶺ニ於ケル波江野吉太郎ノ銅礦一件面積二十五萬九千九百十二坪大白山蘭炭山支脈ニ於ケル藤田礦業株式會社ノ銅礦二件面積五十九萬一千五百八十四坪ブーター社及コロコツ社附近ニ於ケル同會社ノ銅礦五件面積百二十八萬四千坪大濁水溪沿岸(一部花蓮港驅下ニ互リ)ニ於ケル田中鐵山株式會社ノ銅礦一件面積百二十萬坪利澤簡堡新城庄土名武荖坑ニ於ケル江騰光ノ砂金礦一件面積六萬三千五百六坪ノ多キニ達シタリト雖何レモ目下試掘中ニ屬シ礦產ノ見ルヘキモノナシ

前項記載ノ許可礦區中安友時藏外二名ノ銅礦及江騰光ノ砂金礦ハ許可以來殆ント探掘ニ著手セス又波江野吉太郎ノ銅礦モ許可當時ニ在リテハ盛ニ探掘ヲ試ミタルモ礦床及礦量ノ相當豐富ナルヲ確カメタレハ更ニ進ンテ之カ經營方法ニ就キ研究ヲ要スヘキヲ以テ一時探掘中止ノ姿ニアリ其他藏田礦業株式會社及田中鐵山株式會社ノ礦區ハ何レモ目下盛ニ試掘中ニシテ未タ成績ノ見ルヘキモノナシト雖共ニ頗ル有望ナル礦床ヲ有シ殊ニ藤田礦業株式會社ノブーター社方面ニ於ケル礦區ノ如キハ其含銅量極メテ多ク現在試掘中ノ鑽石ノミニテモ億ニ數萬圓ノ價值ヲ有スト云フ斯クノ如キ狀況ナレハ近ク大々的規模ヲ以テ探掘ニ從事スルニ至ルヘク同方面ノ本礦業ハ將來眞ニ多望ナリト謂フヘシ

花蓮港廳報告

探掘製鍊ヲ試ミツツアルモノハ藤田礦業株式會社ニシテ其他ハ何レモ探險試掘中ニアリ

澎湖廳報告

從前ノ舊坑ヲ探炭シツツアルカ目下一日ノ採炭量五、六千斤ニシテ將來需要ノ増加ニ伴ヒ一萬斤内外ハ探掘シ得ヘキ見込アリト云フ

第四編 水產業



第三編 礦業 第三編 礦業

能ニ陥リ途ニ十月廢坑スルニ至レリ尙一面本年四月補助金一萬九千二百圓ノ下附ヲ受ケ新ニ同所ニ第四號井ヲ掘鑿スルコト  
トシ本年末日迄ニ掘進二百十二間四尺ニ達シ銳意作業ニ從事シツツアレハ遠カラス快報ニ接スルニ至ルヘシ

宜蘭應報告

本年末現在ノ許可礦區ハ蕃地大南滬龜山ニ於ケル安友時藏外二名ノ銅礦一件面積八萬二千五百坪東滬嶺ニ於ケル

波江野吉太郎ノ銅礦一件面積二十五萬九千九百十二坪大白山開峽山支脈ニ於ケル藤田礦業株式會社ノ銅礦二件面積五十九萬一  
千五百八十四坪ブーター社及コロコツ社附近ニ於ケル同會社ノ銅礦五件面積百二十八萬四千坪大瀨水溪沿岸(一部花蓮港懸  
下ニ互リ)ニ於ケル田中礦山株式會社ノ銅礦一件面積百二十萬坪利澤簡堡新城庄土名武芝坑ニ於ケル江騰光ノ砂金礦一件面  
積六萬三千五百坪多キニ達シタリト雖何レモ目下試掘中ニ屬シ礦產ノ見ルヘキモノナシ

前項記載ノ許可礦區中安友時藏外二名ノ銅礦及江騰光ノ砂金礦ハ許可以來殆ント探掘ニ著手セス又波江野吉太郎ノ銅礦モ許  
可當時ニ在リテハ盛ニ探掘ヲ試ミタルモ礦床及礦量ノ相當豐富ナルヲ確カメタレハ更ニ進ンテ之カ經營方法ニ就キ研究ヲ要  
スヘキヲ以テ一時探掘中止ノ姿ニアリ其他藏田礦業株式會社及田中礦山株式會社ノ礦區ハ何レモ目下盛ニ試掘中ニシテ未  
タ成績ノ見ルヘキモノナシト雖共ニ頗ル有望ナル礦床ヲ有シ殊ニ藤田礦業株式會社ノブーター社方面ニ於ケル礦區ノ如キハ  
其含銅量極メテ多ク現在試掘中ノ鑽石ノミニテモ優ニ數萬圓ノ價值ヲ有スト云フ斯クノ如キ狀況ナレハ近ク大々的規模ヲ以  
テ探掘ニ從事スルニ至ルヘク同方面ノ本礦業ハ將來眞ニ多量ナリト謂フヘシ

花蓮港應報告

探掘製鍊ヲ試ミツツアルモノハ藤田礦業株式會社ニシテ其他ハ何レモ探險試掘中ニアリ

澎湖應報告

從前ノ舊坑ヲ探掘シツツアルカ目下一日ノ探炭量五、六千斤ニシテ將來需要ノ増加ニ伴ヒ一萬斤内外ハ探掘シ得ハ

キ見込アリト云フ

第四編 水產業



## 第四編 水産業

### 第一章 總論

水産業ハ比年發展ノ機運ニ向ヒ大正五年末漁業專業者四萬五百九十七人兼業者七萬八千七百九十五人養殖業專業者五千四百六十七人兼業者二萬八千二百九十七人合計十五萬三千一百五十六人ニシテ大正二年ヨリ一萬四千三百四十三人ノ増加ナリ本年水産總額ハ五百十六萬二千五百五十三圓ヲ算シ大正元年ニ比シ十二割九分強ノ増加ヲ示セリ本年漁業ニ於テ注目スヘキハ基隆ニ於ケル發動機船漁業ノ發達ニシテ其種類ハ鰹釣鋪旗魚鱸延繩漁業ナリ又汽船トロール漁業ノ中絶ニ代リ發動機船及戎克船ニ據ル赤鯨釣漁業ノ發達ヲ來シタリ鰹漁業ニ在リテハ更ニ漁場ノ擴張ヲ見ルニ至リ同時ニ鰹節製造業ノ發達著シキモノアリ製品亦漸ク聲價ヲ認メラル、ニ至レリ養殖業ニ在リテハ其生産額未ダ格別ノ變化ヲ見サルモ價額ニ於テ著シク増加シタリ水産團體ニテハ從來ノ四會社ノ外新ニ南部臺灣海產株式會社(資本金三十萬圓)ノ創立ヲ見タリ

今水産ニ關スル最近ノ統計ヲ摘録スレハ左ノ如シ

(221)







第四編 水産業 第一章 總論

尙參考ノ爲メ各廳報告ヲ掲クレハ左ノ如シ

臺北廳報告 本廳沿海ハ各種魚族ニ富ミ好漁場ヲ控フルコト他ニ其比ヲ見ス加之年來當局ノ指導獎勵下當業者ノ努力トニ因リ廳下漁業ノ發展著シキモアリ内地人漁業ニアリテハ發動機附漁船ノ延繩漁業鑿釣漁業ノ如キ顯著ナル進步ヲ遂ケタリ就中本年ハ延繩漁業及戎克船漁業ノ勃興注目ニ値セリ之等漁業ハ獨リ内地人ノミニ止ラス本島人モ之カ經營ヲ開始スルモノ漸ク多ク本島漁業ノ前途ニ對シ一生面ヲ開ケリ本朝水產物總額ハ百六十一萬六千圓ニシテ漁獲高百七萬八千圓ニシテ前年ニ比シ三割ノ增收ナリ之發動機船漁業及戎克船漁業ノ發達ト焚入網漁業ノ豐漁ニ因ル

宜蘭廳報告

廳下ハ南北三十餘里ノ海岸線ヲ有シ沙濱險崖相連リ好箇ノ漁場ヲ形成シ水深ク且海流ハ沿岸ニ沿ヒテ流ルルヲ以テ水族ノ分布濃厚ニシテ沿岸漁業者夥ラス本年漁獲高ハ十六萬三千三百三十二圓ニシテ前年ヨリ三萬一千二百四十五圓ヲ増加シ漁船三百五十一隻漁網七百九十七統ニシテ前年ニ比シ漁船ハ十隻ヲ増加シ網數ハ十七統ヲ減シタリ從來蕃地ニ接續セル關係上一般ニ顧ラレサリシ大南澎方面ノ沿岸ハ蕃地ノ開發ニ伴ヒ漁業モ著シキ發展ヲ遂ケ今ヤ延繩及鑿釣網漁場トシテ廳下ニ冠タルニ至レリ加之内地漁民ノ近海ニ出流スルモノ漸ク多キヲ加ヘシニ刺戟セラレ本島人漁民モ漸次漁具漁法ノ改良ニ留意スルニ至レリ將來廳下ノ漁業ハ益發達ヲ見ル見込ナリ

桃園廳報告

沿海漁業地ハ北ハ南嶺港ヨリ南ハ蚵殼港ニ到ル間河川漁業ハ咸榮礮溪大崙溪其他ノ小溪竝ニ池澤ニ行ハルルコト前年ト同シク變遷ナシ

新竹廳報告

廳下ハ二十有餘里ノ海岸線ヲ有スルモ適當ノ港灣ナキ爲未タ著シキ漁業ノ發展ヲ見サルモ都市ノ發展ニ伴ヒ鮮魚ノ需要頓ニ増加シ從テ漁獲高モ年々増加ノ趨勢ヲ示セリ舊港方面ニ於ケル眞鯛鱸漁業ノ如キ將來發展ノ見込アリ

臺中廳報告

本年中廳下ニ於ケル水産業ハ比較的良好ニシテ五月ヨリ七月ニ至ル間ヲ除キテハ一般ニ天候順調ニシテ相當ノ漁獲アリ養殖業モ亦益々發展ノ域ニ向ヘリ

南投廳報告

廳下漁業ハ四手網漁業二十一入築漁業八ヲ主ナルモノトス本年廳下ノ漁獲ハ四千九百九十二圓ニシテ前年ニ比シ四百八十三圓ヲ増加セリ埔里社地方ハ山間ニ僻在シ交通不便ノ爲鮮魚ノ供給甚々不便ニシテ價格不廉ナレハ一般ノ需要ヲ充ス能ハス由テ南投廳農會ニ於テ日月潭ヲ利用シ魚類ノ養殖試驗ヲ行フト共ニ廳下魚類ノ需要ヲ補給セントシ本年度ニ於テ鱈其他五十四萬尾ヲ放養セリ

嘉義廳報告

本年水產總額ハ五十三萬九千三百六十七圓ニシテ前年ノ五十五萬九千九百九十二圓ニ比シ一萬九千七百四十五圓ノ減少ヲ示セリ由來管内沿岸ハ遠淺ナルノミナラス各河川ヨリ排出スル泥沙ニヨリ益其淺度ヲ増シ從テ漁港ノ設備上支障ヲ來シ加之冬季強烈ナル季節風ノ影響ヲ受クルト漁夫ニシテ製糖時期ニ他地方へ出稼スルモノ多キトニ因リ漁撈ノ發達上支障少カラサル状態ニアリ

養殖業ハ粗放ナルモ他ノ水産業ニ比シ其成績大ニ見ル可キモノアリ養殖產額ハ四十八萬五千四百六十六圓ニシテ廳下水產總額ノ八割六分ヲ占ム之ヲ前年ニ比スルトキハ三萬九千二百六十六圓ノ減少ナリ漁業ノ不振ニ伴ヒ製造業モ極メテ微々タルモノニシテ其價額僅ニ一千八百四十九圓ニ過キス製鹽業ハ專賣局ノ獎勵ニ依リ年々遂フテ隆盛ニ趣キ其產額六千五百四十一萬四千二百斤賠償價額十萬五千八百五十七圓ナリ之ヲ前年ニ比スレハ五千八百六十四萬五千五百五十九斤九萬七千四百六十三圓ノ減收ナリ之カ原因ハ製鹽期ニ當リ降雨多量ナリシ爲ナルヘシ  
管内水産業ノ狀態上述ノ如キヲ以テ他廳ヨリ移入セラレル水產物從テ多額ニ上レリ海魚ハ主トシテ基隆打狗東港ヨリ淡水魚ハ臺南廳ヨリ移入セラレ亦鹽乾魚ニアリテハ臺南基隆等ヨリ移入セラレルモノ三百二十九萬七千二百二十九斤三十一萬三千四百九十一圓ノ多額ニ上レリ

臺南廳報告

漁業專業者内地人四百三十六人本島人一萬五千三百七十九人兼業者一萬三千五百十八人養殖業專業者三千八十八人兼業者六千七百三十一人合計三萬九千五百五十二人ナリ  
本島人ニシテ漸次内地式漁業ヲ試ムルモノアルニ至レリ製造品中鯧仔ハ漸次改良ノ實ヲ擧ケ養殖業ハ降雨多量ナリシ結果養



第四編 水産業 第一章 總論

殖漁獲ノ増加ヲ見タリ

阿緞廳報告

廳下沿岸ハ本島南部海面中最好ノ漁場ニシテ鰹鯔鱈鱒其他魚族ノ群游多ク漁業ノ發達ヲ期スヘキモ未其漁業發達ノ跡運々タルモノアリ然共臺灣海陸產產株式會社ノ設立以來漁具漁法ノ改善ヲ計ルアリ又東港漁業組合ノ發動機漁船ノ新造ヲ見ル等漁業上一生面ヲ開ケルモノアリ然共一般ニ本島人ハ竹筏漁業ニ依リ舊套ヲ脱セス漁業ノ指導獎勵ヲ要スルモノカラス最近南部海產株式會社ノ設立ヲ見タルハ今後漁業ノ開發上同社ノ努力ニ待ツヘキモノ多カルヘシ

臺東廳報告

廳下沿岸及火燒島紅頭嶼ハ共ニ魚族富豐ナレトモ波浪常ニ高ク熟練ナル漁夫精巧ナル漁具ニ乏シク漁法極メテ幼稚ナリ從テ漁獲物ハ到底廳下需要ヲ充スニ足ラス然共近時本島人漁業者漸ク増加ノ傾向アリ本年中ニ於ケル漁業ノ種類左ノ如シ

鄉別	免許漁業	屆出漁業
南 鄉	一六	一七
廣 鄉	七	六八
火 鄉	四八	三五七
計 總	六七	四四三

花蓮港廳報告

廳下漁業ハ微々トシテ振ハス現在漁業者ハ僅ニ米崙山下海岸ニ於ケル十數戸ノ本島人及蕃地「ムダ」ニ於ケル數戸ノ内地人等ニシテ釣流網地曳網等ヲ以テ雜魚ヲ漁撈スルニ過キス之等漁獲物ニテハ僅ニ夏季需要ノ一部ヲ充スニ過キサリシカ本年ハ宜蘭廳沿岸ノ鯉待網漁業ノ有利ナルヲ知リ二三本島人カ廳下蕃地新城支廳管内カナガント清水地先ニ待網漁業ヲ試ミシニ真好ナル成績ヲ得タリ之即之等ノ沿岸ニ於テハ夏季鯉ノ魚群來襲スルヲ以テ次年度本漁業者増加ノ模樣ヲ示セル

ハ喜フ可キ現象ナリトス

澎湖廳報告

本年廳下ノ水産業ハ例年ニ比較シ稍活況ヲ呈シ二百六十一萬三千〇三十四斤此價格十萬七百五十九圓水產製造高八十二萬四千四十五斤此價格六萬四千十六圓ニシテ昨年ノ豐漁ニ比スレハ遜色アルモ主要水族ハ一般ニ豐漁ニシテ敢テ悲觀スヘキニ非ス

第二章 漁業

本島東岸ハ水深大ニシテ黑潮流域ニ接シ鰹鯔等沖合魚族ハ殆周年洄游シ殊ニ北部海面ハ好漁場ヲ以テ目セラレ就中彭佳嶼周圍ハ連子鯛ノ好漁場トシテ知ラレ蘇澳沖與那國島先閣列島附近ノ海面ハ鰹漁場トシテ重キヲ爲セリ臺灣海狹ハ鯛及鮫魚ノ棲息多ク中南部沿岸ハ各季鰹ノ廻游アリ尙紅頭嶼火燒島龜山島ノ如キ離島及全島沿岸一帶ハ惣田鰹鯔鱈鱒ニ富ミ東海岸ハ廣ク飛魚ヲ分布スル等魚族ノ棲息夥カラス明治四十三年鯉漁業ノ創始以來發動機漁船漁業ハ著シキ發展ヲ遂ケ大正二年ニハ「トロール」漁業大正六年ニハ戎克船漁業ノ創始ヲ見漁港ノ關係上北部ハ基隆南部ハ打狗ヲ根據トスル各種ノ漁業長足ノ進步ヲ示セリ各廳漁業ノ狀況ヲ見ルニ臺北宜蘭再廳下ハ鰹釣鯉待網焚入網地曳網鯽刺網石滬連子鯛釣及延繩鱈鮪旗魚延繩等行ハル桃園ヨリ臺南ニ至ル西海岸一帶ハ地曳網鱈建網立干網石滬搖鐘網鱈刺網鮪捲網鱈空釣等行ハレ海岸各所遠淺ナル爲メ吃水深キ木造船ノ使用ニ適セス專ラ竹筏ヲ使用セリ打狗ヨリ大板埕ニ至ル南海岸ハ搖鐘網地曳網飛魚流網鮪旋網及鱈鯛ノ延繩夜光



貝採集行ハレ漁船ハ主トシテ竹筏ナルモ東港ニハ内地漁船ヲ用フルモノアリ打狗附近ニ於テハ發動機漁船ヲ使用シ延繩漁業ニ從業セリ澎湖廳下ニ至リテハ石滬搖籠網二艘曳打瀬網鯉鮪鮫建網地曳網磯魚狩網等行ハル近年澎湖水産會ノ指導ニヨリ沿岸漁業ノ改良發達シ延繩及地曳網ノ如キ行ハルルニ到レリ臺東及花蓮港廳下ハ沿岸漁業ニ乏シク漁業ノ發達最遲々タルモノナリシカ在來夜光貝採集ノ外近來小敷網刺網惣田鯉待網等漸次行ハルルニ至レリ

第一節 沖合漁業

一、鯉釣漁業 明治四十三年ノ創業ニシテ基隆ヲ根據トセリ漁船ハ發動機漁船ニシテ本年度ハ二十一隻ヲ算シ餌料豊富ニシテ二十六萬貫ヲ超ヘシモ前年ノ豐漁ニ比スレハ約五割ノ減少ナリ漁場ハ前年ヨリ擴大シ赤尾嶼火燒島ニ迄出漁スルニ至レリ漁獲物ハ全部節ニ製造セラルル  
二、連子鯛漁業發動機船ヲ以テスル連子鯛延繩漁業ハ盛況ヲ呈シ從業船ハ基隆ノミニテ五十隻ニ増加シ漁獲高二十三萬五千圓ニ及ヒ前年ニ比シ五割九分ノ増加ナリ從來内地人ノミノ經營ニ係リシモ本年ハ本島人ノ經營ヲ見ルニ至リ戎克船ニヨリ連子鯛漁業ハ本年創始セラレ十九隻ヲ算セリ戎克船ハ厦門ヨリ購入シ漁夫ハ支那人ヲ使用セリ漁場ハ彭佳嶼周圍三四十哩ノ圈内トス本年漁獲高ハ五十萬七千斤價格六萬三千圓ニ上レリ之等連子鯛漁業ハ汽船トロール漁業ノ中絶ニヨ

リ益盛況ヲ呈スルニ至レリ

- 三、汽船トロール漁業 大正二年ノ創始ニシテ大正四年ニハ從業船四隻ナリシカ時局ノ影響ヲ受ケ内地ニ賣却セラレ前年既ニ二隻ニ減シ本年ハ臺灣水産株式會社第二九一隻ニ減シトロール漁業ハ一噸座ヲ來セリ本年漁獲高ハ六十七萬斤價格七萬五千八百圓ナリ
- 四、鮪鱈及旗魚延繩漁業 發動機漁船ニ依ル之等漁業ハ鯉釣漁業及連子鯛延繩漁業ト共ニ漁期ニ應シ轉々操業セラレ漁場ハ基隆ヨリ五十哩圈内ノ近海トス本年ハ旗魚及鱈ノ來游多ク好成績ヲ舉ケタリ
- 五、曳繩漁業 十月ヨリ翌年三月ニ至ル期間北部海面基隆港外彭佳嶼及蘇澳沖等ニ出漁シ漁獲物ハ鱈旗魚鮪ナリ
- 六、旗魚突捕漁業 打狗ヲ根據ニシテ大板埕附近ノ漁場ニ出漁シ漁期ハ十月ヨリ翌年四月ニ至ル期間トス

第二節 沿岸漁業

一、惣田鯉持網 臺北宜蘭花蓮港臺東ノ各廳沿岸ニ行ハル漁期ハ四月上旬乃至八月上旬ニシテ本年ハ東海岸一帶惣田鯉ノ來游頗ル多ク殊ニ宜蘭廳沿岸ニ於テ豐漁ナリキ



- 二、小敷網 臺北宜蘭廳花蓮港廳下ニ行ハレ臺北廳下ノモノハ主トシテ鯉餌料鯉ノ漁獲ヲ目的トシ宜蘭廳及花蓮港廳ニアリテハ惣田鯉ノ漁獲ヲ主トス
- 三、小臺網 臺北宜蘭兩廳下ニテ鯉餌料ヲ捕獲ス
- 四、鯉刺網 本島人在來ノ漁業ニシテ臺北宜蘭花蓮港臺東ノ各廳ニ在リ漁期ハ十月下旬ヨリ三月頃ニ至ル期間トス
- 五、立干網 臺北桃園新竹臺中嘉義等ノ西部海岸及澎湖島ニ在リ漁獲物ハ雜魚ヲ主トス
- 六、地曳網 殆ト各廳下ニ在リ宜蘭廳下ニハ好漁場ヲ有シ廳下漁獲物ノ大部分ヲ占ム漁獲物ハ鯉ヲ主トス
- 七、囊待網 西部海岸ニ行ハル漁獲物ハ雜魚ナリ
- 八、焚入網 臺北宜蘭澎湖ノ各廳下ニ在リ主トシテ鯉鯉ヲ捕獲ス
- 九、四艘張網 基隆ヨリ龜山島ニ至ル海岸ヲ好漁場トシ八九月ノ候ヲ盛漁期トス
- 一〇、鰓捲網 臺中嘉義臺南ノ各廳ニ在リ漁期ハ十一月中旬ヨリ翌年一月下旬ニ至ル間ニシテ漁獲物ヨリハ臘仔ヲ製造ス
- 一一、鰓中眷網 大正三年ヨリ開始シタリ之カ漁具漁法ハ尙研究ヲ要スルモノアリ未充分ナル漁獲ヲ見ス

- 一二、鯉刺網 西部海岸桃園以南ニ行ハルル特殊ノ漁具ニシテ中層及下層ニ隨意ニ使用ス漁期ハ周年トス
  - 一三、搖鐘網 西部海岸臺中ヨリ阿緱廳下大板埕ニ至ル間及澎湖島ニ行ハルル沖取網ニシテ漁獲物ハ小ハ鯉ヨリ大ハ小鮪迄捕獲スルヲ得ヘシ在來漁業トシテ唯一ノ沖合漁業ナリ
  - 一四、石花菜採取業 臺北廳宜蘭廳及澎湖廳主產地トス本年ハ發育不良ナリシト採集者ノ減少セシ爲前年ヨリ八割八分ノ減收ニシテ數量十七萬七千七百八十七斤價格一萬一千三百四十圓ナリ漁業ニ關シ主ナル廳ノ報告ヲ摘録スレハ左ノ如シ
  - 一、汽船トロール漁業  
歐洲戰亂ノ影響ヲ受ケ船舶不足ノ結果ハ船復不足ヲ來シ爲ニトロール汽船ノ賣却セラルルモノ續出シ基隆根據ノトロール汽船ハ前年末二隻本年春期更ニ一隻ニ減シ當ニ隆盛ニ赴カントスル斯業ハ一頓挫ヲ來シタリ本年漁獲高ハ一萬〇九百兩六十七萬圓價格七萬五千八百圓ニシテ前年ニ比シ七割ノ激減ナリ
  - 二、鯉釣漁業 廳下鯉釣漁業ハ近年同業者ノ節製造業ヲ兼營スルモノ増加シタル結果益々堅實ナル發達ヲ遂クルニ至レリ
- 前年ノ豐漁ニ鑑ミ本年ハ鯉節製造工場ヲ増設シ又新ニ鯉漁船ノ激増ヲ見前年從業船十一隻ナリシモ



本年ハ二十一隻ニ上リ其漁獲能力ハ二倍半ニ達セリ之等漁船ノ船體及補助機關馬力ノ増大ハ益々沖合漁場ノ開發ヲ促進シ前年ニ比シ遠海迄出漁スルニ至リ東北ハ基隆ヨリ約二百哩ナル赤尾嶼ニ南ハ臺東廳下火燒島ニ出漁スルモノヲ生スルニ至レリ又一方漁期ノ延長ト成リ五月中旬ヨリ十月迄從業スルニ至レリ本年ハ餌料タル鯧鯨ノ漁獲多ク漁獲高二十六萬六千三百貫價格十萬一千二百圓ニシテ餌料供給ハ潤澤ナリシモ前年ノ大漁ニ比スル時ハ約五割ノ減少トス之天候及漁況ノ變調ニ基因スルモノナラン

三、延繩漁業 本漁業ハ進歩殊ニ著シク時局ノ影響ニテ船價石油發動機石油ノ昇騰ヲ示シ延テ企業資金及經費ノ膨脹ヲ來セルニ係ラス從業船ノ激増ヲ見ルニ至リシハ内地ニ於ケル鮮魚供給ノ不足ト「トロール」漁獲ノ減少ニ伴ヒ魚價ノ昇騰ヲ來セシトニ因ル之等發動機附漁船ハ其漁期ト漁場トニ應シ四季鯧鯨旗魚及連子鯛延繩及鱒曳繩漁業ニ從事シ漁場ハ沿海三、四十哩圍内ノ近海トス本漁業ハ年々豊凶アルハ免レサルモ本年ハ旗魚鯧連子鯛ノ來游殊ニ多ク殊ニ連子鯛漁業ハ四五兩月ニ於テ最モ盛況ニシテ一般ニ一箇月最高漁獲高ハ四千七百斤價格五千七百圓ノ水揚ヲ示セリ之カ從業船五十二隻總漁獲高二十三萬五千圓ノ多キニ達シ前年ニ比シ從業船ハ二十隻漁獲高ハ五割九分ノ増加ナリ本漁業ニ就キ特筆スヘキハ從來内地人ニ依リテノミ營ミシモノ新ニ本島人ニシテ發動機船ヲ購入シ延繩漁業ヲ經營スルモノ續出セル一事ニシテ本島人ノ通弊トシ

テ舊來ノ幼稚ナル漁法ヲ墨守スルノ風アリシモノ漸ク本漁業ノ有望ナルヲ自覺シ漁船ヲ購入シ經營スルモノ九隻ニ及ヒタリ

四、戎克船連子鯛釣漁業 戎克船漁業ハ本年創始ノ漁業ニ係リ本漁業ハ元來支那沿岸及臺灣海峽ニ於テ支那人ノ經營セルモノナルカ廳下近海ニ好漁場アルト本島魚價ノ不廉ナルトニ着目シ内地人及本島人カ廈門ヨリ戎克船ヲ購入シ企業スル者アルニ至レリ漁夫ハ全部支那人トス漁期ハ周年ナリ

斯業ハ經營僅少ナルト「トロール」漁業ノ中絶ト當局ノ獎勵トニヨリ忽チ許可戎克船ハ一舉十九隻ノ多キヲ算スルニ至レリ

總漁獲高五十萬七千斤價額六萬三千餘圓ニ上レリ然レトモ本漁業ノ缺點トシテ風向風力ノ如何ニ依リ航行ヲ左右セララルカ爲出漁上幾多ノ不便アリ一方支那人漁夫ノ技術ヲ本島人ニ傳習セシメ本島人漁夫ヲ使用スルニ至ラハ將來經營者ノ利スル處大ナルモノアル可シト信セララル

五、鯧鯨焚寄網漁業 本漁業ハ本島人ノ主要漁業ナルモ未舊態ヲ脱セス其漁獲ノ豊凶ハ沿岸漁村ノ消長ニ關スルモノ大ナルヲ以テ進歩改良ヲ要スルモノアリ明治四十四年末本漁業ハ不振ヲ累ネシカ本年ハ季節風變換期ナル盛漁期ニ當リ強風降雨ノ影響ナカリシ爲魚群來游夥シク總漁獲高十六萬九千圓ニ達シ前年ニ比シ約三割ノ豊漁ナリキ



第四編 水産業 第三章 漁業

六、赤鯨釣漁業 本年赤鯨釣漁業ハ天候ノ順調ナリシ爲好況ヲ呈シ總漁獲高四十五萬一千斤價額五萬三千圓ニ上リ前年ニ比シ數量ニ於テ五割ヲ増シ價額ハ二倍弱ニ上レリ

七、石花菜採集業 石花菜本期總採集高ハ十萬九千三百斤價額八千二百二十圓ニシテ前期ニ比シ二割六分ノ減收ナリ之カ原因ハ天草發育ノ不良ナリシノミナラス主要採取者タル琉球人ノ大部分カ採見ノ目的ニテ南洋方面ニ渡航シ採集能力ヲ激減セルコト及内地ニ於ケル寒天市價ノ不況ナリシコト等ナリ

宜蘭廳報告

廳下ニ於ケル主ナル漁業ハ鹽特網鱈鱈焚入網地曳網刺網赤鯨鱈ノ延繩ニシテ漁船ハ專ラ小型ノ支那型木造船ヲ用ヒ漁獲物ノ主ナルモノハ鱈惣田網鱈連子網鐵甲鱈鮫秋刀魚魴魚飛魚鱈ニシテ鱈ノ三萬二千五百七十二圓ヲ宰トシ烟仔魚ノ三萬一千七百七十七圓之二次ク本年總漁獲高ハ十六萬三千三十二圓ニ達シ沿岸線一里ニ對スル漁獲高五千四百三十八圓強漁業者一人ニ對シ十六圓七十錢餘ニ當レリ漁獲高ニテハ頭圍堡ノ七萬一千九百二十六圓利澤簡ノ五萬一千五百十五圓壯圍堡ノ萬四千二百七十三圓ノ順ナリ

桃園廳報告

大正六年中免許セラレタル特別漁業ハ石滬漁業五件ニシテ又届出漁業ニ對シテハ三百二十八件ノ繼札ヲ下附セリ本年漁獲高ハ四萬四千四百四十二圓ニシテ前年ノ三萬四千五百六圓ニ比シ九千九百三十六圓ノ増加ナリ

臺中廳報告

本年一月ヨリ三月迄ハ海面平穩ニシテ例年ニ比類少キ漁獲ヲ見ルモ六月以後ハ荒天屢ニシテ概シテ不況ヲ告ケタリ 鱈漁業ハ前年ニ比シ漁期五日早ク十一月十八日初漁ヲ見十二月月上旬盛期ナリシカ魚群ハ一般ニ稀薄ナリキ本年ハ主トシテ平切庄ヨリ西港庄ニ至ル地先及大安港附近ニ漁獲多ク鹿港街下貝口庄地先ハ不漁ナリキ

第四編 水産業 第三章 漁業

嘉義廳報告

沿岸遠淺ニシテ一望坦々タル平野ニ連リ防風防波ニ對シ避難所タル可キモノ更ニナシ之レ廳下ノ漁業ヲ不振ナラシムル主因ニシテ漁船ノ如キモ小型ナル竹筏ニシテ只地曳網刺網及立干網竝ニ空釣ノ如キ沿岸漁業ニ過キス加之約半年強烈ナル季節風ノ影響ヲ受クルト製糖期他地方へ出稼スヘキモノ多キト及陸上ニ何等目標トナスヘキモノ無キノミナラス市場ハ遠隔タル等地理交通上ノ關係等アリテ斯業發展ヲ阻害スルコト至大ナリ然レトモ大正元年漁業規則ノ公布ニヨリ漁業權ノ確定漁場ノ整理等ニヨリ漸次覺醒ノ機運ニ向ヒツツアリ

漁業規則ニヨル業體別漁業

	大正二年末	同三年末	同四年末	同五年末	同六年末
届出漁業	1,909	1,910	1,220	1,284	1,253
許可漁業	35	36	35	36	37
免許漁業	35	35	33	36	33

臺南廳報告

本島人漁業ハ從來ト大差ナク搖籠網流網刺網捲網地曳網ノ竹筏漁業最モ多カリシカ新ニ發動機附漁船及木造船ニヨリ内地式延繩及一本釣等ノ漁業就ニ事スルモノ亦増加ノ傾向アリ且ツ之等技術ノ進歩見ルヘキモノアリ本年ハ昨年ニ比シ鱈鱈ノ回游少カラサリシヲ以テ數量ニ於テハ減收セルモ魚價ノ騰貴ニ依リ價格ニ於テハ反テ増加ヲ示ス

昨年秋季南部海面ノ漁業季節ニ入りテ以來打狗港ヲ根據トシ石油發動機附漁船又ハ木造船ニ依ル漁業ヲ爲セル内地人ハ引續キ本年三四月頃旗魚鱈鱈等ノ釣及流網ニ從事シタリシカ五月以降ノ不漁期ニ入り大部分内地或ハ臺灣北部ニ去リ晚春日夏季ニ至ル迄ハ内地人漁業亦頗ル寂寞ノ状態ナリキ初秋ニ入り復來港スルモノ日々増加シ冬期ニ入りテハ再ヒ以前ニ倍加スルノ活況ヲ呈シ發動機附漁船十隻木造船百餘隻皆相當ノ漁獲ヲ得タリ

阿緞廳報告

漁業者ハ專業兼業ヲ合シ本島人三千二百十三人内地人八人合計三千二百二十一人漁船ハ發動機船三木造船三十八竹







- 一、鯉節 眞鯉ハ其漁期ノ氣溫高キ爲生賣困難ニシテ全部節ニ製造セラル製造工場ハ何レモ基隆支應管内ニ在リ昨年ハ未曾有ノ豐漁ナリシニ鑑ミ本年ニ入り魚船激増シ工場モ亦四箇所ノ増加ヲ見タリ即臺灣水産株式會社臺灣海陸産業株式會社吉井商店及樹田商店等ナリ然ルニ上述ノ如ク漁業ハ前年ヨリ五割ノ不漁ナリシ爲節製造高モ是ニ伴ヒ増加セズ。本業ハ職工ヲ内地ヨリ招來スル爲生産費嵩ミ斯業經營上極メテ困難ナルヲ以テ當局ニ於テハ大正二年ヨリ本島人職工ヲ養成シテ内地人職工ニ代フルノ方針ヲ取り來レル結果近年生産費ヲ減スルト共ニ漸次品質モ改善セラレ經營狀態次第ニ堅實ヲ加ヘツツアリ
- 二、鯪仔 鯪仔製造ハ鯪ノ産額多キ臺南應ヲ主トシ嘉義阿緞新竹ノ各應ニ行ハレ漸次内地式製法ノ普及ヲ見ツツアリ主トシテ内地ニ移出セラル
- 三、魚翅 主トシテ澎湖宜蘭臺北臺南ノ各應ニ於テ各種鱸鰻ヨリ製造ス又惟翅ニ精製スルモノ漸多ク品質佳良ニ向ヒツツアリ
- 四、熟魚 本島氣候ノ關係上腐敗シ易キ鯧鯨惣田鯉ノ如キハ熟魚ニ製セラル其製法ハ少量ノ食鹽ヲ加ヘ水煮ト爲シテ取揚ケ乾燥スルモノトス
- 五、鹽干魚 種類ノ如何ニ係ラス多漁ノトキ腐敗ヲ避クル爲メ鹽干魚トス然トモ濕度大ナルト用鹽ノ結晶粗大ナルトニヨリ良品ヲ得難キ缺點アリ

- 六、惣田鯉節 内地式ニ模倣シ荒節ノ程度ニ迄製造ス臺北宜蘭澎湖ノ各應ニ産出少カラス
  - 七、魚介類罐詰 氣候ノ關係上一般水産製造品ハ良品ヲ得ルコト困難ナルニヨリ罐詰ノ如キ理想的ノ製法ナリト雖モ俄ニ確實ナル販路ヲ求難ク相等資金ヲ要スルニ因リ未タ成績ノ見ル可キモノナキモ將來見込ナキニアラス
- 製造業ニ關シ主ナル應ノ報告ヲ摘録スレハ左ノ如シ
- 臺北應報告

一、鯉節製造業 本業ハ大正二年來當局ノ指導獎勵ノ結果本島人製造職工ノ養成及品質ノ改良ニ努力シタルニ因リ前期ニ於テ内地良品ニ劣ラサル製品ヲ製出シ得ルニ至リ製造業者ハ相當ノ利益ヲ擧ゲ得タリシヲ以テ斯業ノ基礎漸ク確實トナリ且前年ハ未曾有ノ豐漁ナリシ爲各製造工場ハ設備ノ狹隘ト職工ノ不足ヲ告ケタルニ鑑ミ臺灣水産株式會社ハ一日最大能力原料五萬貫ヲ處理シ得ルノ設備ヲ爲セルヲ宰トシ同業者何レモ其設備ノ増大ト完全トナ期シ更ニ二三ノ製造工場ノ新設ヲ見ルニ至レリ又督府ハ本島人女工養成ヲ委託スル等大二期待スル處アリシカ鯉漁業ハ比較的不振ナリシ爲原料ノ供給潤澤ナラス豫期ノ成績ヲ擧ケルニ至ラス總製造高五萬二千九百貫價額二十八萬二千三百圓ニシテ前年ニ比シテ前年ニ比シテ九歩ノ減收ナリ然共本年内地鯉漁業不振ノ結果市價頗ル好況ナリシ爲相當ノ利益ヲ收メ得タリ

二、其他製造業 鯉節製造以外重要ナルハ乾魚煮干ノ製造ニシテ原料ハ沿岸焚入網ノ漁獲ニ仰ケリ本期ハ鯧鯨豐漁ナリシ結果産額二十二萬圓ニ達セリ前記ニ比シ約七割ノ增收ナリコノ外鹽魚堆翅ノ製品アレ共産額僅少ナリ

宜蘭應報告

一般漁撈ノ發達ニ伴ヒ製造業ノ増設ヲ見タリ本年中ノ製造高ハ三萬四千九百二十圓ニシテ之ヲ前年ニ比スレハ一萬四千九百九十三圓ノ激増ナリ之ヲ製品別ニ示セハ煮干魚ノ一萬二千三百八十圓ヲ最多トシ鯉節ノ九千八百四圓乾魚ノ六千六



第四編 水産業 第三章 製造

百七十五圓之二次ク其他製品モ漸次増加ノ傾向ヲ示セリ

臺中廳報告

鱈鱈漁船不況ノ爲其製造數少カリシカ鱈仔製造ハ一千二百七十圓ニ上レリ

嘉義廳報告

本年漁業ノ不振ニ伴ヒ製造品モ同様不振ヲ免レヌ製造物中主ナルモノハ魚翅鹽魚乾蝦干魚ノ數種ナリ

臺南廳報告

水産製造品ノ主ナルモノハ鱈仔鱈鱈乾魚及鹽魚ノ四種ニシテ鱈仔ハ臺灣漁業株式會社及臺南打狗在住内地人並ニ本島人ニヨリテ製造セラレ本島在來ノ製法ニヨルモノモ漸次品質ノ向上ヲ見タリ其他鱈鱈堆翅共ニ良品少カラス

阿緬廳報告

製造物ハ鱈仔魚翅鹽魚乾魚ニシテ産額甚々僅少ニシテ遞減ノ傾向アリ之鮮魚ノ供給不足ノ結果原料ヲ得易カラサルニ基ク

臺東廳報告

水産製造物ハ鹽魚乾魚魚翅ニシテ本年産額ハ三千五百七十二斤二百七十五圓ナリ

澎湖廳報告

本年廳下水産製造高ハ六萬四千六百圓ニシテ昨年ニ比シ六分強ノ増加ナリ之鱈鱈鹽魚ノ製造多カリシコト煮干鱈ノ昇騰セシコト及其製造盛ナリシニ起因ス一般ニ水産製造業ハ年々盛況ニ趨キツツアリ本年主ナル製品ハ鹽魚五十四萬九千九百九十斤鹽干魚三萬七千二百五十一斤煮干魚十萬三千五百八十五斤煮干魚六萬五千四百三十斤トス

第四章 養殖業

本島ノ養殖業ハ改隸前ヨリ發達シ過去八年前ニアリテハ養殖産額ハ漁獲高ト伯仲ノ間ニ在リシ如キハ他ニ其例ヲ見サル所ナリ養殖方法ハ疎放的ナルモ其規模頗廣大ナルモノアリ

地勢ノ關係上牡蛎虱目魚鳥魚蝦等ノ鹹水養殖ハ本島西南部地方即嘉義臺南臺中ニ盛ニシテ草魚鯉魚鯉魚等淡水養殖ハ西南部地方ノミナラス埤地ニ富ム桃園廳及海魚ノ供給不足ナル南投廳ニモ行

ハレ本年鹹水養殖漁獲高ハ蝦ヲ除キ百十九萬二千七百十九圓淡水養殖漁獲高ハ三十六萬四千七百二十四圓ニ上レリ然レトモ其經營方法ニ到リテハ未タ改良ノ跡ナク養魚生産ハ持合ノ姿ニシテ魚價ノ騰貴ニヨリテ價額ノ増加ヲ見タルニ止ル本年養魚ノ成績ヲ見ルニ養鰻及淡水養殖成績ハ各廳良好ナリシモ虱目魚養殖ニアリテハ魚苗不足及池水腐敗ノ爲前年ヨリ數量ヲ減シタリ鯉魚草魚鯉魚ノ三者ハ未タ孵化繁殖セシムルコト難事ニシテ對岸廣東肇慶地方ヨリ每春魚苗ヲ購入ス

養殖業ニ關シ主ナル廳ノ報告ヲ摘録スレハ左ノ如シ

臺北廳報告

廳下水産業ハ地勢ノ關係上適地ニ乏シク其面積百三十甲步ニ達ス年々縮小ノ傾向アルハ一般ニ農業ノ發展ニ伴フ地淨整理ノ結果ニシテ年額約一萬圓ニ過キス

宜蘭廳報告

廳下水産業ハ沿海漁業ノ比較的發達セルト魚苗ノ供給困難ナルトニ因リ未タ著シキ發展ヲ見ルニ至ラスト雖モ近時鹹水魚不漁ニ於ケル補足ヲ目的トシ池沼ヲ利用スル淡水養殖ハ漸次盛ナラントスル傾向アリ即本年中ノ養殖場數ハ十六箇所面積八十八甲九分餘ニシテ面積ニ於テ前年ノ一倍半以上ニ達シタルモ産額ハ既ニ二百二十四圓ニ過キニシテ前年ヨリ二十一圓ノ減少ナリトス

桃園廳報告

養殖場數ハ三千三百八十三其面積一萬三千三百三十五甲餘ニシテ本年ノ取上高鯉魚草魚鯉魚其他ノ雜魚ヲ通シテ十二萬五千四百一十一斤價額三萬八千四百一十一圓ニ前年ノ三萬三千七百八十三圓ニ比較セハ五千三百五十八圓ノ増加ナリ前記ノ取揚高二十二萬五千四百一十一斤ノ内十月ヨリ十二月ニ至ル三箇年間ニ廳下各縣ヨリ臺北枋橋方面ニ汽車積ニテ搬出セルモノ五萬二千五百五十三斤ナリ

本年中嘗程水産試業所ヨリ鯉兒ノ配付ヲ受ケ各廳ニ放養シタルモノ六十萬五千尾ニシテ内五十四萬五千尾ハ埤池ニ放養シ殘



第四編 水産業 第四章 養殖業

餘六萬尾ハ三角湧礁溪庄ニ於テ一區域ヲ形造ル適當ノ稻田三十甲ヲ選シ相當設備ヲ施シ一萬二千尾ヲ放養シ蕃地八結ニ於ケル三井開墾地内水田八十甲ニ四萬八千尾ヲ放養シ稻田養鯉ヲ驗シ其結果稻田ニテ成長セシ四、五寸ノ鯉兒ヲ池澤ニ放養セハ養殖上有利ナルヲ知リタルヲ以テ今後稻田養鯉ノ獎勵ヲナサントス  
左ニ淡水養魚獎勵事業開始以來鯉兒配付狀況ヲ示セハ左ノ如シ

年 別	配 付 尾 數	放 養 尾 數	同 上 面 積
大 正 三 年	四六、一八八	一七九	五九、八八〇
同 四 年	四〇、〇〇〇	一八一	五九、〇〇〇
同 五 年	四一、〇〇〇	一八一	八三、〇九〇
同 六 年	四〇、〇〇〇	一七〇	五〇、〇〇〇

臺中廳報告

本年魚苗採取高ハ二百四十二萬尾ニシテ前年ニ比シ百八十萬ヲ減シタルヲ以テ廳下ニ於テ烏仔魚百九十八萬二千六百尾ヲ採取シテ之ヲ補ヘリ本期收穫ハ前年ニ比シ約一割五分方減少セリ

南投廳報告

本年ニ於ケル養殖場數ハ百二十七箇所面積十七甲三分ニシテ前年ニ比シ場數三十三箇所面積三甲三分ヲ増加シタリ  
養殖魚類ハ鯉魚草魚鯉魚等ニシテ數量二萬九千六百四十斤價額七千二百二十二圓トス前年ニ比シ數量一萬一千九百三十三斤價額四千二百圓ヲ増加シタリ尙前述ノ如ク廳農會ニテ日月潭ニ鰻其他五十四萬尾ヲ放養セリ

嘉義廳報告

淡水養殖ハ極テ粗放のニシテ春季池沼及雨期ノ積水中ニ魚苗ヲ放養シ大汛期ナル一二月ノ候池水ヲ排除シテ之ヲ收納ス魚苗ハ殆ント他廳ヨリ供給ヲ仰ク鹹水養殖ハ稍集約のニシテ產額モ廳下養殖總額ノ約八割五分ヲ占メ廳下水産業中最盛ニシテ年々隆盛ノ域ニ進ミツツアリ養殖ノ種類ハ虱目魚ヲ主トシ牡蠣蝦ノ養殖モ行ハル介類養殖業ハ改良ノ餘地多キヲ認ム  
蠟ハ海岸沙泥中ヨリ採捕スルニ止リ養殖スルニ至ラス

廳下水市場ニ於テル牡蠣ノ取扱高ハ四萬三千八百二十三斤ナルニ比シ蠟ハ六萬九千六百八十二斤ニシテ價額モ亦前年ノ上位ニ在リ廳下沿岸ハ遠淺ニシテ漁業ノ發展ヲ阻害スルコト大ナルヲ以テ養貝業ノ發達ヲ計ルヲ利益トス

臺南廳報告

鹹水養殖場面積四千七百二十八甲產額六十一萬六千九百四十一圓淡水養殖場面積一萬二千二百三十四甲產額三十二萬三千五百四十六圓ニ達セリ本年ハ暴風其他天然ノ障害少カリシ上魚價騰貴ノ爲一般ニ淡水並ニ鹹水養殖ハ好結果ヲ示セリ  
殊ニ淡水養殖ニ於テハ昨年ハ水量不足ヲ告ケ往々養魚不可能ノ池ヲ出シタルトモ本年ハ降雨多カリシヲ以テ養魚池ノ水量亦割合ニ豐ニシテ產額ヲ増加セリ

阿緬廳報告

鹹水養殖ニテハ場數二十七面積七百三十五甲餘淡水產ニテハ場數三十二面積九甲餘ナリ種類ハ虱目魚鯉魚草魚鯉等ニシテ前年ニ比シ漁獲高ハ價格ニ於テ約三割減ナリ  
之比較的大規模ノ養魚池ニ於テハ池水腐敗シ養魚ノ斃死セルト害魚タル鰻ノ發生多カリシ等主ナル原因ナリ本年中ノ漁獲高ヲ前年ト比較セハ左ノ如シ

年 次	數	量	價 格
大 正 六 年		四三〇、四九五	六二、一七七
同 五 年		六九六、五九〇	八六、六七三
同 四 年		四九二、五八二	五二、〇〇〇

第五章 製鹽業

製鹽業ハ專賣局主管ノ下ニ指導獎勵ヲナシ著シク發展ヲ遂ケツツアリ製鹽地ハ新竹臺中嘉義臺南ノ



第四編 水産業 第五章 製鹽業

四廳下トス

本年ハ製鹽時期多雨ナリシ爲製鹽高ヲ減セリ

製鹽業ニ就キ各廳報告ヲ摘録スレハ次ノ如シ

臺中廳報告 本年ニ於ケル製鹽日數ハ二百一日ニシテ之ヲ前年ハ比スレハ七日間ヲ減シ加フルニ一般ニ濕潤ナル日數多カリシ爲

成績良好ナラス昨年ニ比シ約二割五分ノ減收ヲ示セリ

嘉義廳報告 廳下東石港支廳内ニ新設鹽田四百四十九甲竣切シタリ本年ハ製鹽時期ニ當リ降雨多量ナリシ爲製鹽高六千五百四十

一萬四千二百斤價格十萬五千八百五十七圓ニシテ前年ヨリ減少セリ右ノ内搬出數量六千七百九十七萬〇八百五十八斤ニシテ

島内下渡鹽一千九百九十九萬七千五百九十二斤内地移出鹽五千五百九十七萬三千二百六十六斤ニシテ之ヲ前年ニ比スレハ島内

渡ニ於テ二百十九萬五千四百十斤ヲ増シ内地移出ニ於テ三百十二萬六千七百三十四斤ヲ減少セリ

第五編 工業



四廳下トス

本年ハ製鹽時期多雨ナリシ爲製鹽高ヲ減セリ

製鹽業ニ就キ各廳報告ヲ摘録スレハ次ノ如シ

臺中廳報告 本年ニ於ケル製鹽日數ハ二百一日ニシテ之ナ前年ハ比スレハ七日間ヲ減シ加フルニ一般ニ濕潤ナル日數多カリシ爲

成績良好ナラス昨年ニ比シ約二割五分ノ減收ヲ示セリ

嘉義廳報告 廳下東石港支廳内ニ新設鹽田四百四十九甲竣切シタリ本年ハ製鹽時期ニ當リ降雨多量ナリシ爲製鹽高六千五百四十

一萬四百二十斤價格十萬五千八百五十七圓ニシテ前年ヨリ減少セリ右ノ内搬出數量六千七百九十七萬〇八百五十八斤ニシテ

島内下渡鹽一千九十九萬七千五百九十二斤内地移出鹽五千五百九十七萬三千二百六十六斤ニシテ之ナ前年ニ比スレハ島内

渡ニ於テ二百十九萬五千四百十斤ヲ増シ内地移出ニ於テ三百十二萬六千七百三十四斤ヲ減少セリ

第五編 工業



## 第五編 工業

### 第一章 總論

大正六年度ノ本島工業ハ前年通り内地經濟界殷賑ノ影響ヲ蒙リ益々順調ノ發展ヲ見タリ就中其大宗タル糖業ハ天候ノ順調ト糖價昂騰ノ爲メ各製糖會社ノ收益未曾有ノ額ニ達セリ、糖業ニ關聯スル糖蜜加工業ニ於テハ酒精、酒類(主トシテ糖蜜ヲ原料トスルモノ)モ多大ノ増産ヲ示シ殊ニ前者ノ如キ

ハ前年ニ比シ數量二萬八千九百二十二石價額三百八十五萬餘圓ノ増加ヲ見ルノ盛況ニ達セリ  
糖業關係以外ノ工業ニシテ發展ノ著ルシキモノハ精米業、鐵工業製茶製帽等ニシテ精米ハ米價騰貴ト動力普及ノ爲メ機械使用者ヲ多カラシメ茶モ其有利ナルヲ確知スルト共ニ山方機械製茶業者ヲ多カラシメタリ、鐵工業ハ時局ノ齎ラセルモノニシテ鑛山業製糖業ノ發展ニ連レ部分製品及修繕ヲ益々多カラシムルニ至レリ、若シ夫レ製帽業ニ至リテハ林投帽益々不振ニ陥リタルカ反之紙帽製造頗ル旺盛ヲ極メ大甲帽亦復活ノ機ニ向ヒ總體ノ價額前年度ヨリ減セシト雖モ製造箇數著ルシク増加セリ、其他諸工業ニ於テ十萬圓以上ノ増進ヲ見タルハ染色、油、油糟、織物、瓦土管陶器類、木工、麵類等ニシテ製氷、金銀紙ヲ除クノ外ハ價額ニ於テ何レモ一齊ニ増進セリ

昨年中ニ新設セラレタル打狗ニ於ケル淺野「セメント」工場及錫口ニ於ケル「カーバイト」等幾多ノ困



第五編 工業 第一章 總論

難ニ遭遇セシニ拘ハラス發達ヲ遂ケツツアリ加里工場ハ本年モ各地ニ新設セラレツツアルカ打狗ニ本年新タニ臺灣肥料會社ノ曹達工場ノ工場設備ノ竣成ヲ見ルニ至レリ其他醬油釀造ニ著目スルモノ漸次多カラントスルノ傾向アリ

要之本年ニ於ケル本島工業界ハ原料品ノ騰貴アリシト雖モ戰時ノ好影響ニ刺激セラレ一般ニ良好ノ成績ヲ收タリ

各種工場數及生産一覽表

種類	工場數		生産高(斤)		價額(圓)	
	大正六年	同五年	大正六年	同五年	大正六年	同五年
分蜜糖	三五	三五	六六,七〇九,五三三	一八,〇〇〇,〇〇〇	一三,四九三,八三三	九,四六〇,九一九
含蜜糖	二六五	二四〇	八六,五三三,二〇〇	五〇,八五五,八八八	一〇,六七八,一九四	六,八七八,二九四
米	七〇三	六七三	七,八〇九,四〇〇	六,〇一三,五五〇	一,七四二,〇三三	六,六六〇,五七七
粗米	二四,一七三	二二,七九九	二,六〇七,八七九	二,五二九,一八二	五,五一六,二八一	五,一八七,六四四
烏龍茶	五八	六二	一四,〇五五,四五五	一四,六四三,三三三	一,六七六,八二二	五,四一四,〇〇九
包種茶	三六	三五	一六,五〇七,四四四	一五,六三九,一九九	八,九六八,二五五	二,三九六,四三三
酒類	四,四五	四,四九	一,七二九,〇〇〇	一,四七九,二三三	二,三三六,七	二,一〇〇,三三三
酒類	一一	一一	九,三三二,五〇〇	六,四九〇,三三三	一,一五二,二五五	七,五〇六,六六一
油類	五元	四七	三,九五一,八六四	四,二四九,四六六	一,〇五二,二五五	七,四二二,五
油類	五元	四七	一,四八八,〇九六	一,七三三,七九八	四,四〇八,六六	三,九八五,一九

第五編 工業 第一章 總論

尙參考ノ爲メ各廳ノ報告ヲ左ニ記載スヘシ

臺北廳報告 廳下ノ工業ハ概シテ各種小工業ニ互リ年々多少ノ消長ヲ免レズト雖近年各種產業ノ順調交通運輸機關ノ整備其ノ他

種類	工場數		生産高(斤)		價額(圓)	
	大正六年	同五年	大正六年	同五年	大正六年	同五年
麵類	一,〇九〇	一,〇五八	一三,三三三,〇九九	一二,五二八,八五六	一三,三六六,八六	九,三三六,三四
蜜餞	九六	八七	三,七三三,四〇〇	二,七五九,五五〇	一〇,七九九,九六	七,七九九,六
鳳梨罐	五	六	八,三三三,九〇〇	九,二一八,四〇〇	一,九一五,六八	一,三三六,三四
紙物	一一〇	一〇一	一,九一一,一九一	四,一五八,八	四,一七〇,五	三,四〇七,四
紙類	四四	四七	四,四六〇,九	三,九四六,二八〇	二,五三三,三六	一,九六八,八五
織物	四四	四七	七,六三九,六四四	七,六三九,六四四	五,四〇七,九四	五,六九六,〇九
金銀	三三	三三	五,一〇二,八八	七,六三九,六四四	二,五三三,三六	一,九六八,八五
帽	二五	二五	五,八五〇,六〇	二,五九四,四五	一,九〇〇,七三	二,三四八,三三
七島	九六	九五	三,二四九,四	三,三九七,七	九,五九四,五	五,五九四,五
風土管、陶器類	五八	五一	一,八四〇,五七〇	一,六〇七,七九四	一,六七四,八九六	一,一五二,三八七
鐵工	九〇	九五	一,八四〇,五七〇	二,二七三,八〇	二,五四七,七〇	一,四四八,一四
木工	九〇	九五	一,八四〇,五七〇	二,二七三,八〇	六,八五一,四三	五,七七八,七五
竹器	二四六	二四九	二,六三三,二二四	二,六三三,二二四	三,〇三三,三三	二,〇六七一
石灰	二五	二五	二,六三三,二二四	二,六三三,二二四	一,六四四,三三	一,五九八,六四
靴	二五	二五	二,六三三,二二四	二,六三三,二二四	二,四九九,一一	二,七六六,四
蓮草	二五	二五	二,六三三,二二四	二,六三三,二二四	四,九一一,四	三,一四〇
藍紙	二五	二五	二,六三三,二二四	二,六三三,二二四	一,八二二,〇	二,一四〇
染色	二五	二五	二,六三三,二二四	二,六三三,二二四	一,八二二,〇	二,一四〇
製冰	二五	二五	二,六三三,二二四	二,六三三,二二四	一,八二二,〇	二,一四〇



第五編 工業 第一章 總論

世運ノ進歩ニ伴ヒ自然發展ノ域ニ進ミ而シテ本年ハ各種工業共概シテ時局ノ影響ニ因ル原料品ノ價額騰貴ノ打撃ヲ受ケタル  
モ鐵工業其ノ他製造工業ノ活躍ヲ見又化學工業原料品トシテ新ニ勃興シタルカーバイト及加里製造ハ前年來著シキ進歩ヲナ  
シ殊ニ加里製造ハ新設工場各所ニ起リ頗ル盛況ヲ示シ大ニ注目ニ値ス

宜蘭廳報告

廳下ノ工業ハ逐年各種機械的工業ノ創設ヲ見ルニ至リ是等工業ノ開發促進ハ益々地方的企業心ヲ刺激シ一面ニ於テ  
既設工業ノ規模狹小ナルモノハ漸次擴大又ハ改善セラレ著々堅實ナル域ニ進ミツツアリ就中製糖業ノ如キハ近年著シキ發展  
ヲ爲シ今ハ一大工場ノ建設ヲ見ルノ機運ニ達著セリ其ノ他ノ諸工業ニ於テモ時ニ盛衰ノ免ルヘカラサルモノアリト雖モ本年  
ノ如キ急劇ニ諸物價暴騰シ原料品ノ騰價ハ一般製品ノ需要額減ヲ來セシ割合ニ概シテ前年ニ比シ成績不良ナラサリシハ誠ニ  
僥倖トスル處ナリ

桃園廳報告

近年産業ノ發達並經濟界ノ好況ニ伴ヒ從來萎靡振ハサリシ工業ハ本年ニ於テ製糖工業茶工業等ノ勃興ヲ來シ其他ノ  
企業心ヲ刺激シ加之時局ノ影響ヲ受ケ各種工業ノ創設進展ヲ見ルニ至リ漸次規模ヲ大ニシ從來ノ家内工業ハ工場組織ニ移ラ  
ントスルノ趨勢ニシテ原料ノ缺乏ニ伴フ製品ノ減少セル製糖業ノ外概ホ發展ノ域ニ進ミツツアリ

新竹廳報告

時局ノ關係ト一般本島人智識ノ向上ト著シク其ノ企業心ヲ煽リ年々斯業ノ興隆ヲ促シ家庭的ヨリ工場的ニ手工的  
ヨリ機械的ニ漸次推移ノ傾向アリ

臺中廳報告

廳下ニ於ケル工業ノ重ナルモノハ製糖業ニシテ之ニ亞クテ製帽事業トス製帽事業ハ林投帽甚シク不振ノ狀態ニ陥リ  
當業者ハ紙製帽ノ流行ニ從ヒ之カ製造ヲ爲シツツアルモ常ニ挽回ノ策ヲ講シツツアリ其他製糖業ハ外國產黃麻ノ價額騰貴  
ニ依リ苦痛ヲ感シツツアリト雖歐洲戰亂ノ影響ヲ受ケ製糖品ノ注文續々トシテ來リ價格亦昂上ヲ見タレハ利益増加シ順調ノ  
成績ヲ收メタリ

嘉義廳報告

工業生産力ハ四千六百萬圓ニシテ其ノ中砂糖產額ハ四千三百萬圓(甘蔗代ヲ控除ス)ヲ占ム製糖工業ハ實ニ島内機械  
工業ノ先驅ニシテ又會社經營ノ基礎ヲ形成シ更ニ諸工業ノ發達ヲ促進スル狀態ニアルハ既ニ製糖工業ニ於テ顯著ナル例證ヲ

第五編 工業 第一章 總論

示シ留餘ノ動力ヲ使用スル諸工業ノ勃興モ亦間接ノ影響ヲ蒙レリ如此之レカ盛衰ハ經濟界ニ波及スル所尠ナラズ

本年七月終了セシ製糖業ハ實ニ空前ノ產額ヲ致シ前期ノ砂糖產額三千九百萬圓ニ比較シ四百萬圓ヲ増加スルニ至レリ

製糖以外ノ工業產額三百四十四萬圓ニシテ前年ノ二百七萬圓ニ比シ百三十七萬圓ノ増產ヲ呈セリ之レ天候概ホ順調ニシテ工  
業原料一般ニ豐收ナリシト戰亂ノ關係上農產價額暴騰シ經濟界ノ順調ヨリ自然產額ヲ増加シタル酒精工業ノ如キモノアルニ  
基因スト雖モ一面苦力賃ノ漸騰原料用品ノ暴騰ノ結果產額減少シタルモノヲ出シ盛衰一様ナラス

臺南廳報告

廳下ノ工業中最モ重要ナルモノハ製糖工業ナルカ去ル明治四十四年稀有ノ暴風雨アリシ以來大正元年、二年、三年  
ニ至ル四箇年間毎年秋季ニ於テ暴風、豪雨アリ原料甘蔗ニ大被害ヲ受ケ遂ニ蔗苗不足ヲ訴ヒ一面亦米價暴騰ニ伴ヒ蔗作ヲ廢  
シテ米作、蕃薯作ニ改ムル者續出シ爲メニ蔗園面積著シク減縮シ加フルニ作況不良ニ因リ產糖高減產ヲ來セリ爾來大正  
四年、大正五年ニ至リ天候ノ適順米價ノ恢復蔗苗供給ノ圓滑等ニ依リ漸次蔗作面積ノ増加ト作況ノ佳良トニ依リ產糖高減  
恢復シ大正六年ニ至リテハ蔗作面積及產糖高共ニ最多新記録ヲ造リ近年稀有ノ好況ヲ見ルニ至レリ製糖以外ノ工業トシテハ  
從來粗摺精米製酒精料等生産額ノ大ナルモノノ外歐洲戰亂ノ影響ニ因リ内國工業ノ勃興ニ伴ヒ廳下ノ諸工業モ電動カノ供給  
ト相俟テ一般ニ活氣ヲ呈シ就中セメント、アルカリ、冰糖、化學工業ノ方面ニ向テ新起業ノ一生面ヲ開キタルハ喜フヘキ  
現象ナリ

阿緞廳報告

廳下工業ハ製糖工 ヲ除キテハ甚々幼稚ニシテ顯著ナル發展ヲ示サスト雖酒造及酒精製造、粗摺及精米、製酒製麵  
醬油及味噌製鹽、染色、鐵工、竹器製造、木工業、林投纖維製造、瓦製造、製糖業等相當ノ業態ヲ維持シ廳下ノ工業トシテ  
ハ又逸シ去ルヘカラサルモノアリ

臺東廳報告

主タル工業ハ製糖及製腦ニシテ酒造、精米、木工藤細工及石灰製等之ニ次クモ製糖業ヲ除クノ外微々トシテ多額  
ノ生産ヲ見ス

花蓮港廳報告

廳下ノ工業ハ製糖業ヲ主トシ次テ加里製造業、蕃木製材業、酒精、精蜜酒及米酒釀造業、醬油味噌釀造業、鐵工











廠別	機械能 力噸數	原料使用高 (斤)		製糖高 (斤)		歩留 (割)	
		大正六年期	同五年期	大正六年期	同五年期	大正六年期	同五年期
鹽水港製糖株式會社	1,000	333,031.150	194,509.610	30,824.855	20,411.033	0.95	1.05
新營庄	550	289,603.300	92,324.660	11,753.000	9,490.111	0.87	1.03
岸內第一	700	196,681.900	149,881.330	16,337.890	14,100.044	0.83	0.94
岸內第二	1,200	252,935.500	153,753.320	19,896.648	14,501.103	0.92	0.94
旗尾	500	182,338.800	79,366.389	17,048.849	7,281.990	0.95	0.92
鯉魚尾	650	257,707.400	196,477.000	25,559.101	21,075.534	1.07	1.07
後壁林	1,000	177,336.200	71,648.860	16,242.604	7,099.899	0.94	0.98
灣裡	1,800	98,856.950	197,888.111	9,445.000	7,099.929	1.03	1.11
三峽店	1,100	262,945.500	64,182.260	26,047.300	22,751.279	1.07	1.10
阿里	3,000	56,757.400	39,075.210	48,568.070	36,542.700	0.92	0.94
埔里	500	98,186.080	68,899.570	10,107.440	7,000.910	1.03	1.02
北	500	55,405.050	40,381.530	4,970.200	3,788.850	0.90	0.94
臺灣製糖株式會社	2,500	101,661.600	61,555.600	9,870.900	6,081.203	0.96	0.98
新南製糖株式會社	500	29,133.750	100,844.430	28,731.000	19,595.600	0.99	0.98
新東製糖株式會社	350	29,133.750	100,844.430	28,731.000	19,595.600	0.99	0.98
總計	27,600	706,988.370	442,996.693	68,194.209	47,691.250	0.97	1.01

赤糖生產額表

**臺北廳報告** 本期ノ製糖業ハ前年ト同シク臺灣製糖株式會社臺北製糖所並ニ舊式糖廠二箇所ニシテ會社ハ一月二十六日ヨリ製糖ヲ開始シ四月十五日ヲ以テ終了シ其ノ作業日數八十日ニ涉レリ機械能力ハ五百噸製造高四百九十七萬餘斤ニシテ之ヲ前期ニ比スレハ八十餘萬斤ノ増加ナリ又本期甘蔗栽培面積ノ二千四百餘甲步ニ擴大セシハ會社努力ノ結果ナルモ一ハ前年來米價低落シテ糖價ノ昂騰ヲ見タルニ因ルナリ又本期ハ暴風雨ノ襲來ナク又病蟲害少カリシ等甘蔗ノ發育良好ナリシニ加ヘ時局ノ影響トシテ糖價ハ益々騰貴シ商況頗ル順調ニシテ好果ヲ收タメリ舊式糖廠モ亦相應ノ成績ヲ示シ五萬餘斤ノ產額アリタリ

**宜蘭廳報告** 廳下ハ未ダ赤糖產地ノ域ヲ脫セス本期作業セシ製糖場ハ改良糖廠一舊式糖廠六、其ノ產糖高七百三十八萬七千九百

第五編 工業 第三章 製糖業

廠別	改良糖廠		在來糖廠		計		改良糖廠生產高		在來糖廠生產高		計	
	大正六年期	同五年期	大正六年期	同五年期	大正六年期	同五年期	大正六年期	同五年期	大正六年期	同五年期	大正六年期	同五年期
臺北	1	2	10	6	11	8	195,976.1	118,714.3	1,111,467.7	739,979.0	489,511.5	503,553.5
桃園	1	2	10	6	11	8	195,976.1	118,714.3	1,111,467.7	739,979.0	489,511.5	503,553.5
新竹	1	2	10	6	11	8	195,976.1	118,714.3	1,111,467.7	739,979.0	489,511.5	503,553.5
新中	1	2	10	6	11	8	195,976.1	118,714.3	1,111,467.7	739,979.0	489,511.5	503,553.5
嘉義	1	2	10	6	11	8	195,976.1	118,714.3	1,111,467.7	739,979.0	489,511.5	503,553.5
南義	1	2	10	6	11	8	195,976.1	118,714.3	1,111,467.7	739,979.0	489,511.5	503,553.5
臺南	1	2	10	6	11	8	195,976.1	118,714.3	1,111,467.7	739,979.0	489,511.5	503,553.5
阿東	1	2	10	6	11	8	195,976.1	118,714.3	1,111,467.7	739,979.0	489,511.5	503,553.5
臺東	1	2	10	6	11	8	195,976.1	118,714.3	1,111,467.7	739,979.0	489,511.5	503,553.5
花蓮	1	2	10	6	11	8	195,976.1	118,714.3	1,111,467.7	739,979.0	489,511.5	503,553.5
總計	26	33	226	156	252	189	2,775,000.0	1,957,900.0	12,096,121.1	8,187,543.5	5,033,577.6	4,891,511.5



第五編 工業 第三章 製糖業

一斤ニシテ此ノ原料七千四百九十九萬六千二百斤ヲ算シ歩留九分八厘五毛強ノ好結果ヲ示セリ而シテ前年ノ製糖高三百十八萬二千八百九十一斤原料甘蔗三千九百二十七萬八千九百三十三斤ニ比較セハ實ニ倍額ノ進展ニシテ歩留亦二分ニ近キ向上ヲ見ルノ盛況ヲ呈ス之レ本朝ハ氣候適順原料甘蔗ノ作柄良好ナリシト一面製糖業者ノ努力ニ貢フ處ノモノ多シ騰テ來期ハ臺灣製糖株式會社宜蘭製糖所ニ於テハ裝置ヲ變更シテ分蜜糖工場ニ改ムヘク赤糖工場ハ督府ノ能力製限開放ニ依リ新設セル宜蘭製糖製糖株式會社アリ外ニ出願中ニ係ルモノ一件アリ既設舊式糖廠ハ六箇所ニシテ茲ニ產糖高ハ分蜜糖六萬俵赤糖一萬六千俵ノ見込ナリ尙益々進展ノ氣配ナレハ遠カラズシテ廳下ハ東部臺灣ノ糖業地トシテ有力ナル地步ヲ占ヘキヲ信ス

桃園廳報告

年末工場數舊式糖廠三十二箇所砂糖生產見込高六百七十七萬六千七百斤(原料ニ對シ製糖高ノ夥キハ臺北製糖所ニ屬スルモノハ臺北工場ニ鈴木商店桃園農場ニ於テハ自營製糖以外ノモノハ他工場ニ搬出セルニ依ル)ニシテ前年糖廠數十箇所ニ比シ二十箇所產糖四十七萬二千五百五十八斤ニ比シ六百三十萬五千四百四十七斤即チ約十三倍ヲ增加シタルハ是レ臺北製糖所採取區域ノ擴張並ニ合名會社鈴木商店カ廣大ナル土地(千七百餘甲)ノ買取ヲナシ糖業經營ノ爲メ舊式糖廠十六箇所臺北製糖所々々屬ノ分チ岡本福太郎ノ名義ヲ以テ三箇所其他本島人ノ經營三箇所新設セラレタルニ由ル廳下ノ糖業ハ前述ノ如ク長足ノ進步ヲ爲シタリト雖モ近時糖價ノ下落ト米價ノ昂騰ハ製糖業者及蔗農者ニ大打撃ヲ與ヘ來期ニ於ケル產糖ハ自然減少ヲ免レサル可シ

新竹廳報告

新業ハ新式工場トシテ帝國製糖株式會社ノ新竹中港ニ工場アリ又平高寅太郎經營ニ係ル大湖製糖所(改良糖廠)アリ此ノ他舊式糖廠百〇四箇所ヲ算ス

臺中廳報告

製造工場本期ノ製糖ハ新式四會社五工場此ノ能力二千八百五十噸改良九工場此ノ能力九百噸ニシテ其外舊式四十八箇所アルヲ以テ總計六十二箇所ナリキ而シテ之カ原料使用高ハ新式工場九億七千五百七十四萬五千六百六十斤改良糖廠ニ於テハ二億六千五百三十三萬二千四百二十三斤舊式糖廠ニ於テハ一億三千三百三十三萬四千四百八十八斤計十三億七千四百二十萬三千四百三十一斤ニシテ產糖高一億三千九百七十四萬五千四百斤(內分蜜糖九千七百六十二萬七千三百三十三斤)ニ達シ歩留九分五厘九毫

強ニ當レリ

大正六年五月十日製糖能力制限撤廢發表セラレルヤ改良糖廠(赤糖工場)設立計畫者續出シ出願二十四件(十一箇所)ノ多キニ達シ内設立許可ヲ受ケタルモノ四箇所(二百四十噸)既設新式製糖場(分蜜糖工場)ニ於テ千二百噸ヲ增加シ總計四千五百噸トナリ改良糖廠ニ於テ二百噸ヲ增加シ千二百噸トナレリ改良糖廠ハ一箇所(六十噸)ノ外何レモ工事ニ著手シタルヲ以テ大正七年ニ入り早々製糖開始ノ豫定ニアリ本期ノ產糖ハ原料收穫豫想高ニ對シ約一割減トシ歩平均九分見當トスルトキハ凡ソ一億四千二百二十一萬二千八百五十一斤ヲ算セラル次ニ廳下重ナル製糖場ニ就キ概況ヲ記スレハ左ノ如シ

帝國製糖株式會社臺中第一第二工場能力合計一千五百噸ナルカ蔗園甲數三千九百五十七甲九分七厘三毫ニ絲アリ大正六年五月十三日(製糖終了日)迄ニ受ケ入レタル原料總數量三億四千六百八十五萬斤(甲當八萬七千五百五十八斤)ニシテ石糖三千八百十九萬九千四百四十五斤ヲ製造シ實ニ歩留一割一分一毫ヲ算スル好成績ヲ舉ケタリ原料運搬ノ爲メニハ三十哩三十二鎖ノ專用鐵道(二十五封度)外尙豫備ノ軌道五哩分ヲ以テ各地集團蔗園ニ臨時轉管敷設シテ貨車ノ手押シヲ爲シ又散在セル蔗園ニハ原料採取ヲ敏速ニスル爲メ輕便軌道二十八哩ヲ轉管使用シ軌道敷設困難ナル地方ハ牛車ヲ使用シ貨車ハ五百三十臺ノ原料車四十臺ノ蔗苗車輕便車五十臺ヲ使用シ汽罐車八十三噸七臺十噸一臺ヲ使用シ一日裕ニ百九十萬斤乃至二百萬斤ノ原料ヲ搬入シタリ

南投廳報告

當廳下ニ於ケル工業中重ナルモノハ製糖業ナリ今本期ノ概況ヲ略述セシニ前年期ニ於ケル米價ノ下落ハ甘蔗植付甲數ノ增加トナリ之ニ加フルニ各製糖會社ニ於テモ植付獎勵ニ極力努メタル結果前年期ニ比シ良好ナル結果ヲ來セリ大正七年製糖モ今ヲ終了ノ期ニアリ前年製糖價ノ好況ニ因リ植付甲數著シク増加セシモ六年四月五月ノ候雨量過シタル爲メ排水ト除草ニ困難ヲ來シタルト九月以來過度ナル乾燥トノ結果生育順調ヲ缺キ爲メニ全體ヲ通シテ約四割ノ減收ヲ見ルニ至レリ來期即チ大正八年期ニ於テハ米價騰貴ノ影響ヲ受ケ植付勸誘ニ努メタルモ尙前年期ニ比シ幾分ノ減少ヲ來セリ

嘉義廳報告

本期ハ歐洲戰亂繼續ノ影響ヲ受ケ糖價概シテ高位ニアリ加フルニ原料頗ル豊富ニシテ產糖ノ增加著シク當業者ハ何

第五編 工業 第三章 製糖業



地五編 工業 第三章 製糖業

レモ莫大ノ利益ヲ擧ケ斯界ハ未會有ノ活況ヲ呈セリ

本期製糖當時ニ於ケル製糖場數及其ノ能力ハ新式製糖場十一箇所能力九千八百九十噸改良糖廠八箇所能力八百噸合計能力一萬六千九百九十噸外ニ舊式糖廠ナリ所アリ新式製糖場及改良糖廠ハ前期ニ比シ異動ナキモ舊式糖廠ハ一箇所ヲ増セリ而シテ此ノ内改良糖廠六箇所能力六百六十噸ハ操業上ノ都合ニ依リ作業ヲ休止セシモ其ノ他ハ何レモ本期製糖ニ從事セリ

各製糖場ノ本期作業延日數ハ二千六百八十一日ニシテ之ヲ前期ニ比スルトキハ三百五十八日ヲ増加セリ又一工場ノ平均作業日數ハ新式製糖百五十八日改良糖廠百〇七日舊式糖廠七十三日ナリ而シテ其ノ總消費原料ハ三十億一千七百八十五萬六千一斤此ノ平均製糖歩留九分一厘ニシテ分蜜糖二百七十萬七千九百五十三擔赤糖五萬二千七百七擔合計二百七十六萬六千六百六十擔ヲ產出セリ之ヲ從來最モ產額多カリシ前期ニ比スルモ尙六十萬四千八百七十四擔ノ増加ニシテ實ニ本廳下ニ於ケル最高記録ナリトス

本期消費ノ原料甘蔗ハ生育期間中概シテ天候順調ナリシカハ發育旺盛ヲ極メ未會有ノ豐收ヲ示セリ、サレハ收穫豫想改良種二十三億九千二百八十五萬斤餘在來種三千六百八十七萬斤餘合計二十四億二千九百七十二萬斤餘ナリシカ實收量ハ改良種二十八億四千四百五十六萬斤餘在來種五千一百萬斤餘合計二十八億九千六百五十五萬斤餘ニ増加シ其ノ甲當收量ハ改良種六萬一千六百八十四斤在來種三萬七千五百五十五斤平均六萬九千九百九十九斤ニ上リ之ヲ前期ノ四萬八千八百斤ニ比スルトキハ實ニ二萬二千斤餘ノ増加ナリトス

本期原料買收價額ハ前期ト同シク各製糖業者ヲシテ之ヲ定メシメ本廳ニ於テ認可ヲ與ヘタルモノナルカ其ノ買收價額ハ千斤當改良種二圓九十六錢二厘在來種二圓二十八錢七厘平均二圓九十四錢八厘ニシテ之ヲ前期ニ比スルトキハ一錢八厘ヲ減シタリ

本期植付蔗園中新式製糖場並改良糖廠ニ於テ施用セシ金肥ハ其ノ價額百六十七萬一千七百十八圓施用面積三萬五千七百二十六甲ニシテ前期ヨリ價額ニ於テ十萬四千二百五十八圓ヲ増シ面積ニ於テ千二百九十八甲ヲ減シタリ又其ノ施肥面積ハ第二期蔗園調査ニ於ケル全面積ノ約八割ニ歩ニ該當シ前期ヨリ四分ノ増加ヲ示セリ

臺南廳報告

本期中他廳管内ヨリ搬入セシ蔗苗ハ四千七百九十一萬八千八百十本他廳管内へ搬出セシ蔗苗ハ三千七百二十四萬二千二百四十一本搬入超過數一千六十六萬本餘ニシテ前期ニ比シ一千八百萬本ヲ増加セリ又本期製糖原料中一億六千六百六十二萬五千六百四十六斤ヲ臺南臺中南投ノ三廳管内ヨリ引取り三千三百三十一萬九千四百四十斤ヲ臺南廳管内へ搬出セシニ依リ差引一億二千八百三十一萬四千七百六斤ノ搬入超過ナリトス

本期中製糖場ノ主ナル異動ヲ示メサンニ新高製糖株式會社カ廳下打貓東頂堡三角庄ニ設立ノ上來ル十年期ヨリ製糖開始ノ豫定ナリシ第二期工場八百噸ノ位置ヲ事業經營上ノ都合ニ依リ臺中廳下線東堡中寮庄ニ移轉ノ許可ヲ受ケ又東洋製糖株式會社ハ事業經營上ノ都合ニ依リ其ノ經營ニ係ル斗六製糖所赤糖工場三百噸ヲ廢止セリ

次期原料タル甘蔗ハ植付當時久シク早魃ニ遭ヒ加フルニ其ノ後霖雨打續キ氣溫低ク天候不順ナリシ爲發育遲緩ナリシモ六月中旬ニ至リ天候順調ニ復セシカハ稍恢復スルニ至レリ尙一部蔗園中ニ露菌病並萎縮病ヲ發生セシト雖モ幸ニシテ被害大ナラス而シテ當初四萬六千四百三十三甲ノ植付ヲ見シカ其ノ後二千四百九十六甲廢耕セシニ依リ第二期蔗園調査ニ於テハ四萬三千六百四十七甲トナリ其ノ收穫見込二十三億九千九百六十一萬一千三百六十七斤一甲當見込五萬二千九百斤餘ニシテ其ノ植付面積ヲ前期ニ比スルトキハ三千八百四十四甲ノ減少ナリトス

大正七年期製糖ハ十一月及十二月中ニ新式製糖場全部十一箇所及改良糖廠一箇所ハ作業ヲ開始セリ而シテ改良糖廠五箇所ハ經營上ノ都合ニ依リ製糖休止ノ答ニ付本年中ニ作業未開始ナルハ改良糖廠一箇所ノミナリ

臺南廳報告 廳下ノ工業中最モ主要ナル製糖工場ノ大正六年期作業セルモノハ新式九箇工場改良糖廠一箇工場舊式糖廠六箇所ニシテ大正五年十一月ヨリ大正六年六月ニ至ル間ニ原料十五億二千六百八十七萬七千三百三十八斤（鹽水港製糖拓殖會社ニ搬出消費セル原料一億七千八百七十六萬一千二百二十斤ヲ除ク）ヲ消費シ糖產額一億五千六百八十二萬二千七百四十四斤（百五十六萬八千二百二十七擔）價額一千八百七十六萬四千四百九十二錢ヲ製出セリ

本年期ハ前年期ニ比シ原料消費高ニ於テ四億四千八百四十一萬一千二百九十一斤、產糖高ニ於テ四千六百六十五萬六千四百五十五斤



第五編 工業 第三章 製糖業

十斤糖價ニ於テ五百四十八萬七千二百三十七圓九十八錢ノ増産ヲ示シ前年平均ニ比シ原料消費高ニ於テ八億三千〇五十  
二萬五千七百七十六斤産糖高ニ於テ八千四百二十二萬五千三百二十二斤糖價ニ於テ九百九十萬九千八百七十八圓四厘ノ増産  
ヲ示セリ即製糖工業ハ其原料タル甘蔗作ノ消長ニ伴ヒ其産糖高増減スルハ當然ナルカ明治四十四年ヨリ大正三年ニ至ル四箇  
年間ハ每年秋季ニ於テ大暴風雨ニ遭遇シ甘蔗作ハ多大ノ被害ヲ受ケタル爲メ最近五箇年間ノ産糖高ハ大正四年期ニ至リ天候  
ノ平靜ト共ニ稍恢復シ大正五年期及本年期ニ至リ頓ニ増産ヲ示セリ而シテ來期原料トシテ本年植付ノ甘蔗作々付面積ハ三萬  
一千七百五十二甲ニシテ既往ニ於ケル作付最多新記録ヲ示セルモ生育期中降雨多ク作況不長ナリシ故來年期ノ産糖高本年ヨ  
リ多少減産ノ見込ナリ

阿緬廳報告

製糖工場事業成績ノ揚ルト揚ラサルトハ主トシテ區域内原料ノ消長ニ依ル工場能力ヲ充分ニ發揮シ得ルト得サルト  
ニ基因ス而シテ明治四十四年以來一時沈衰ノ悲境ニ陥リタル廳下ノ糖業ハ大正三年以降ニ於ケル米價ノ下落及糖價ノ騰貴ニ  
加フルニ蔗作上最モ恐ルヘキ暴風水災數年間ニ互リ殆ント終息ノ姿ニアリ糖業上極メテ順境ノ氣運ニ際會シタル結果年ト共  
ニ蔗作ノ勃興ヲ見從ツテ略機械能力ニ對スル原料ノ充實ヲ得ルニ至リタルカ爲メ各工場共比較的順調ニ作業ヲ了セリ只々臺  
南製糖株式會社内埔及十張犁製糖所ニ於テ燃料不足其他ノ關係上作業著シク遲延シ終ニ指定期日内ニ製糖作業ノ終了ヲ見ル  
能ハス爲メニ多少ノ損失ヲ見タル外特記スヘキ事項ナク其産糖額七千二百二十八萬一千六百七十七斤ニシテ之レハ前期ノ五千三  
百二十七萬二千九百九十四斤ニ比スルニ一千八百九十萬八千七百七十三斤ノ増收ニシテ未曾有ノ盛況ヲ見ルニ至レリ而シテ來  
年期ニ於ケル産糖豫想ハ蔗作ノ項ニ於テ記述セシカ如ク原料作付面積ノ擴張ニ伴ヒ更ニ多大ノ増産ヲ期待セシモ天候其他ノ  
關係ヨリ原料ノ收穫著シキ減收ヲ來シ其ノ産糖豫想別表ノ如シト雖モ最近ニ至リ更ニ幾分ノ減收ヲ見込マレ結局八十萬擔ヲ  
出テサルヘク本期ノ七十二萬一千餘擔ニ比シ僅カニ八萬擔ノ増加ニ過キサルノ狀況ナリ

臺東廳報告

廳下ノ製糖業ハ臺東製糖株式會社新工場一箇所及成廣源支廳下ニ廣郷産業合資會社ノ舊式糖廠七箇所及廣郷糖廠  
社南郷巴衛庄ニ個人經營ノ舊式糖廠各一箇所アリ臺東製糖株式會社專南工場ハ新式工場ニシテ製糖能力三百五十噸ヲ有シ新

郷新開園庄及里壠庄改良糖廠二箇所アリシモ專南里壠間ニ鐵道ヲ布設シ專南工場ニ原料ヲ運搬シテ壓搾スル爲メ本期ヨリ是  
レヲ廢止ス

花蓮港廳報告

廳下ノ製糖工場ハ新工場ハ新式工場一、改良糖廠三、及舊式糖廠五箇所ニシテ何レモ極力事業ノ經營ニ勉メ順調  
ナル發達ヲナシツツアリ即チ大正三年歐洲戰亂突發以來糖價ノ昂騰ニ伴ヒ漸次原料作付ノ擴張ヲ致スニ至レリ而テ本年期製  
糖原料消費高二億九百七十八萬八千六百九十九斤、製糖高一千九百五十四萬四千六百九十一斤ニシテ之レハ前年ニ比スルニ原料  
消費高一億二千四百四十三萬二千四百七十四斤製糖高一千三百三十五萬九千六百八十八斤ノ増額ヲ見タリ是レ糖界ノ大ニ喜フヘ  
キ盛況ト謂フヘシ尙ホ近キ將來ニ於テ大和村ノ開墾ニ伴ヒ同地方ニ新式工場ノ設立ヲ見ルニ至レハ廳下ノ糖業ハ益々振興發  
展ノ域ニ進ムヘク延テ地方産業開發上好影響ヲ及ホスコト鮮少ナラスト信ス

第三章 製茶業

本年春季ハ氣溫著ルシク低下シ濕潤ナリシヲ以テ製茶期ヲ遲引シ品質稍劣レルヤノ感アリシカ夏茶  
期以後ハ天候恢復シ比較的優良茶ヲ市場ニ出スヲ得タリ、只船腹不足ノ爲メ著ルシク輸出ヲ阻害シ  
烏龍茶ニ就テ殊ニ甚タシキヲ見、晚春迄烏龍茶館ノ如キハ殆ント休業ノ姿ニアリシヲ以テ昨年度ニ  
比シ小許ノ減退ヲ告ケタリ、包種茶モ亦船腹不足ノ事實アリシカ烏龍茶ノ如ク甚タシカラス全期ヲ  
通シテ比較的好況ノ裡ニ始終セリ其産額左ノ如シ

粗茶製造戶數及産額別表

ハ蕃地ニ於ケル事實ナリ



廳別	製茶戸數				數量	價額
	春	夏	秋	冬		
臺北	11,111	11,111	11,071	8,271	5,843,710	1,299,668
宜蘭	9,741	9,741	9,741	5,741	3,564,866	750,033
桃園	5,691	5,691	5,691	1,841	1,841,906	3,189,635
新竹	9,341	9,341	9,341	1,841	1,841,906	4,494,478
臺中	4,000	3,985	3,800	1,741	1,741,906	3,351,443
嘉義	1,741	1,741	1,741	1,741	1,741,906	2,512,741
南臺灣	8,271	8,271	8,271	8,271	4,064,651	1,336,488
嘉義	511	511	511	511	1,022,422	499
計	24,175	24,043	23,871	20,483	26,606,606	5,516,046
大正五年	23,791	23,791	23,791	17,711	25,169,181	5,187,644
同四年	23,488	23,555	23,554	17,057	25,932,116	5,333,330
同三年	22,791	22,791	22,791	16,051	23,735,655	4,433,541
同二年	22,633	22,633	22,558	16,071	22,516,244	4,587,711
同元	22,666	22,666	22,233	15,921	22,787,666	4,678,005

粗茶ノ産額及品質ハ敍上ノ如クナルカ此カ製造方法ハ漸次改良ノ域ニ進ミツツアルハ山方ニ於ケル製茶機使用ノ實況ニ照シテ知ルヲ得ヘシ、即チ採捻機ハ昨年ノ九百六十臺ヨリ一千百三十一臺ニ進ミ其他炒熱機、茶凋機、玉解機ニ於テモ著ルシク増加シ總計ニ於テ一千三百二十一臺ヨリ二千百十

廳別	採捻機				炒熱機				茶凋機				玉解機				計
	五年	六年	五年	六年	五年	六年	五年	六年	五年	六年	五年	六年	五年	六年			
臺北	1,361	1,361	1,361	1,361	1,361	1,361	1,361	1,361	1,361	1,361	1,361	1,361	1,361	1,361			
宜蘭	6,571	6,571	6,571	6,571	6,571	6,571	6,571	6,571	6,571	6,571	6,571	6,571	6,571	6,571			
桃園	2,161	2,161	2,161	2,161	2,161	2,161	2,161	2,161	2,161	2,161	2,161	2,161	2,161	2,161			
新竹	3,571	3,571	3,571	3,571	3,571	3,571	3,571	3,571	3,571	3,571	3,571	3,571	3,571	3,571			
臺中	4,000	4,000	4,000	4,000	4,000	4,000	4,000	4,000	4,000	4,000	4,000	4,000	4,000	4,000			
南臺灣	8,271	8,271	8,271	8,271	8,271	8,271	8,271	8,271	8,271	8,271	8,271	8,271	8,271	8,271			
計	24,175	24,175	24,175	24,175	24,175	24,175	24,175	24,175	24,175	24,175	24,175	24,175	24,175	24,175			

三臺即チ七百九十二臺ノ激增ヲ見ルニ至レリ是即チ機械使用ノ成績良好ニシテ之カ實益ヲ確知シタル爲ナラズンハアラス木業改良上好望ノ趨勢ニアリトスヘシ機械使用數左ノ如シ

然リト雖モ市場搬出ノ製茶ノ大部分ハ今尙舊式製法ニ據ルモノニシテ機械製茶ト鑑別シ得ル迄ニ特色ヲ發揮セシムルニ至ラサルハ遺憾トスヘク茶園經營其他改良ノ餘地多々アリ製茶再製業ハ前敍セル如ク氣溫低下ノ爲メ春茶ノ出廻リ幾分後レタルガ烏龍茶ハ五月初旬取引開始ト同時ニ船腹ノ不足其極ニ達シ之カ爲メ洋行ノ買入自然手控トナリ商況頗ル不味ニ陥リタリ其後辛フシテ船腹ヲ得ラレタリシカ運賃暴騰ノ結果標準茶ノ供給不可能トナリ市場ハ上中等茶ヲ限リ供給



第五編 工業 第三章 製茶業

スルコトトナレリ然ルニ其後七月ニ至リ市況頗ル良好ニ轉シ夏茶ノ品質優秀ナリシカ爲メ退勢ヲ挽  
回シタルヲ得前年度ニ比シ數量、價額ニ幾分ノ減退ヲ告ケ越年セリ、包種茶モ烏龍茶ニ劣ラサル變  
動アリシト雖モ比較的良好ノ結果ヲ收メ前年度ニ比シ數量ニ於テ八十九萬餘斤價額ニ於テ四十七萬  
餘圓ノ増加ヲ見タリ

烏龍茶及包種茶再製業者ノ戶數及再製高ヲ示セハ左ノ如シ

廳別	製造戶數		量(斤)		價額(圓)	
	烏龍茶	包種茶	計	計	烏龍茶	包種茶
臺北	五〇	三三	八三	九一八八六六五	五〇三四二二	二八六三五七六
桃園	六	一	六	七五二七四	二二二九九六	—
臺中	二	三	五	一五、一五〇	八〇〇	四五四五
計	五八	三六	九四	一〇、六六六、九一	五三、四四、〇七	二、八六八、一三
大正五年	六二	三五	九六	一〇、三二七、〇六	五、四一四、〇〇	二、三九六、四三
同四年	六二	二六	八八	一〇、〇六三、三三	五、四一八、八〇	二、七六七、二七
同三年	六二	三六	九八	一〇、〇六三、三三	五、四一八、八〇	二、七六七、二七
同二年	六八	三九	一〇七	一〇、〇六三、三三	五、四一八、八〇	二、七六七、二七
同元年	七〇	三五	一〇五	一〇、〇六三、三三	五、四一八、八〇	二、七六七、二七

今本年期ニ於ケル烏龍茶包種茶及再製業者ノ戶數及再製高ヲ示セハ左ノ如シ

以上製茶戶數ノ内本品中心市場タル臺北大稻埕並ニ同地附近ニ於テ工場ヲ有シ籍ヲ臺北茶商公會ニ  
有スルモノハ烏龍茶再製業者四十六戶包種茶再製業者ハ三十三戶ニシテ烏龍茶包種茶再製業者十  
戶ヲ算ス即チ左ノ如シ

烏龍茶再製業者一覽表

商號	行	主	國籍	營業所
新新	發記	牛龍	國	擺接堡員林庄土名員林一〇七
新裕	發興	同	同	同 柑林埠庄三五九
合裕	發興	同	同	大稻埕建興後街三六
新和	發陳	同	同	擺接堡溪洲庄土名頂溪洲六
成和	發陳	同	同	大稻埕六館街二〇二九
捷保	發陳	同	同	同 法主公街一九
裕新	發陳	同	同	興直堡新庄街五〇九
裕新	發陳	同	同	同 三三三
裕新	發陳	同	同	擺接堡枋橋街三二
裕新	發陳	同	同	文山堡內湖庄木柵七〇
裕新	發陳	同	同	同 下崙尾二七
裕新	發陳	同	同	大稻埕建興後街三七
裕新	發陳	同	同	同 朝陽街二五
裕新	發陳	同	同	同 建興後街五三

第五編 工業 第三章 製茶業











商號	行主	國籍	管內	管外
金瑞發	洪瑞程 外一名支	那	大稻埕新興街八	英領新嘉坡及暹羅
長發	鄭彥桐 帝	國	同 建興後街三〇三一	同 蘭領スマラン市
綿計	隆金聲 外一名同	帝	同 太平橫街二九	同
	內支那國一九			

右ニ示セル烏龍茶商五十七戸ハ何レモ皆烏龍茶ヲ再製シ之ヲ洋行ニ賣却ス而シテ輸出業者トシテノ洋行モ亦再製業者ト等シク製茶再製ニ要スル設備ヲ爲シ一面再製茶ノ買收ヲナシ他面自ラ粗製茶ヲ再製ニ付シ之等製茶ヲ輸出スルモノナリ洋行名即チ左ノ如シ

洋行ノ部 (現時烏龍茶ヲ買入レノ海外ニ輸出スルモノ)

商號	營業代表者及買辨氏名	國籍	營業所
三井茶行	永井 又二郎	帝	大稻埕建昌後街二
野澤組出張所	中村 勝次郎	同	同 六館後街一三
德記洋行	エフビロ、マール	英	同 港邊街一
和記洋行	買辨、洪輔	同	同 千秋街一二

紅綠茶	製造戸數		數量 (斤)		價額 (圓)	
	大正六年	同五年	大正六年	同五年	大正六年	同五年
	二六	三三	一七三九三	二六六六五	七五七六	九三五
			五七四四二	三二四一五	一九五九三	一〇三九〇

綠茶及紅茶生産高

尙以上烏龍茶、包種茶ノ外ニ綠茶、紅茶ノ產出アリ綠茶ノ製造戸數六戸ヲ算シ二三ノ内地人之ヲ營ムト雖モ微々トシテ振ハス紅茶ハ日本臺灣茶株式會社ノ專ラ製造スル所ニ係リ桃園廳下安平鎮及新竹廳下三叉河ニ工場ヲ有シ右ニ工場ニ於テ粗茶ヲ製造シ安平鎮工場ニ於テ之カ再製作業ヲ營ムモノナルカ漸次製法ヲ改良シ良好ノ成績ヲ擧ケタリ即チ左ノ如シ

商號	營業代表者及買辨氏名	國籍	營業所
義和洋行	エム、カウ	英	建昌街一ノ七〇
美時洋行	シ、エス、ヒ	米	同 六館後街五七
華利洋行	シ、エス、エ	同	同 一九
惠利洋行	エス、買辨、陳長	同	同 六館街一ノ一六
計		內帝國米國	
		八庚ト	



尙參考ノ爲メ各廳ノ報告ヲ左ニ掲ク

臺北廳報告

再製茶業ハ例年ニ比シ特ニ變動ヲ認メスト雖前年來船腹ノ不足ハ益々其ノ度ヲ加ヘ一時製茶上ノ頓挫ヲ來シ烏龍茶館ノ如キハ晚春ノ候殆ント休業ノ姿ニアリシモ夏茶ノ季節ニ入り船腹問題漸ク解決シ輸出ノ殷盛トナルニ伴ヒ製茶工場亦常態ニ復シ景氣ヲ挽回セリ包種茶モ亦船腹不足ノ影響ヲ蒙リシモ烏龍茶ノ如キニ至ラス全期ヲ通シ好況ヲ以テ經過セルハ幸ナリト謂フヘシ職時ノ影響トシテ茶箱板、紙、鉛箔、釘、其他原料品ノ價額騰貴ハ斯業者ニ打擊ヲ與ヘ生産費戰前ニ比シ四割七分強ノ増加ヲ來セシモ製品額亦六分三厘ノ騰貴ヲナシ得意地ノ需要好況ヲ持續セルヲ以テ大ナル影響ヲ蒙ラス製茶高ハ前年ニ比シ烏龍茶六分二厘減少シ包種茶一割五分七厘増加シ計約三分五厘ノ増産トス尙製茶工場ハ前年ニ比シ三月増加ヲ示シ九十七トス

宜蘭廳報告

本年中ニ於ケル製茶業ハ茶園ノ著シキ擴張ト各期ヲ通シ氣候適順ニシテ發芽良好ナリシ爲産額一躍三十五萬六千四百八十六斤價額七萬三千三十三圓ニ上リ之ヲ前年ニ比スレハ實ニ二十五萬四千七百七十七斤價額五萬二千七十圓ヲ激増シ製茶戸數亦十月ヲ増加シテ九百七十四トナレリ

桃園廳報告

近年ニ至リ山方製茶業者ハ製法ノ良否ニ依リ市價ノ高低ニ甚タ大ナル關係アルコトヲ痛切ニ經驗セルヲ以テ概シテ製法ニ多大ノ注意ヲ拂ヒ形狀香味等大ニ改マリタルコトハ事實ナリト雖モ本年春季ハ氣溫低下シ陰鬱タル氣候ナリシヲ以テ製茶期ヲ遲延シ茶芽ハ伸ヒ過キ其製品ハ自然粗大ニ失シ形質稍々劣惡タリシヲ免レサリシモ越テ夏茶期ニ入りテハ天候恢復シ香氣馥郁水色亦佳良ニシテ年中ニ於ケル最良茶ヲ產出シ七月以後ニ於テハ所謂六月白ノ氣節ニ當リ製品ノ形狀香味並ニ色澤モ一層佳良ニシテ秋茶以降ハ浮塵子ノ發生アリ幾分品質ニ影響ヲ及ボスヘク豫想シタルモ平年ニ比シ遜色ナカリキ再製烏龍茶 蕃莊ハ從來廳下海山堡彭福庄ニ三軒アリシ本年春季更ニ彭福庄ニ二軒三角湧ニ一軒ヲ増設スルニ至レリ此ノ再製業者ハ何レモ四月下旬ヨリ新茶買入ト製焙ニ著手シ來順調ニ本年期製茶ヲ終了セリ其再製高ハ七十五萬二千七百八十三斤價額二十二萬三千九百九十六圓ニシテ之ヲ前年ニ比スレハ數量ニ於テ二十五萬八千二百五十一斤ヲ増シ價格ニ於テ六萬六千五百八十七圓ヲ増加セリ近來諸物價及勞銀ノ騰貴ニ伴ヒ大稻埕ニ比シ經濟上得策ナルノミナラス粗製茶蒐集上ノ便利ナル關係ヨリ將來益々増加ノ趨勢ニアリ

百八十七圓ヲ増加セリ

種茶 日本臺灣茶株式會社ノ製造ニ係リ其作狀況ハ前年ト異ナル所ナシト雖モ前年來品質向上ニ種々ノ研究ヲ重ネツツアルヲ以テ其ノ製品ハ從來ノ製品ニ比シ遙カニ優秀品ヲ產出シ本年期ニ於ケル産額ハ三十三萬五千三百一十一斤層茶六萬六千四百二十三斤計三十九萬六千九百五十四斤價格九萬六千九百二十五圓ニシテ前年ニ比シ數量ニ於テ十九萬九千九百九十二斤價格ニ於テ五萬二千六百七十七圓ノ増加ナリ  
機械ニ依ル製茶法ハ手製ニ比シ生産費ノ節減ト品位ノ優良ナルモノヲ生産スルニヨリ去ル明治四十四年以來當廳農會ヲシテ製茶機械使用ノ獎勵ヲナサシメタルニ一般ニ該器ヲ利用スノ有利ナルヲ確信シ漸次使用數ヲ増加スルニ至レリ  
臺中廳報告 葫蘆墩沙轆東勢角支廳下ハ主ナル產地ニシテ近時望月式機械ヲ製造セリ栽培甲數ノ増加ヲ見サルモ茶樹ノ栽培製茶ノ技術向上ニ伴ヒ品質ノ向上ヲ見ツツアリ

第四章 糶摺精米業

本業ハ逐年發達ノ跡顯著ナルモノアリテ舊式糶摺及精米法ハ漸次其影ヲ沒シツツアリ、專業者トシテノ機械ノ使用者ヲ増加シツツアレド本年ハ特ニ米價昂騰ノ影響ヲ受ケ益々増加セリ、加フルニ各地ニ電力供給裝置ノ完成シツツアレハ當局ノ獎勵ト相俟テ愈旺ナラントスルノ傾向アリ今左ニ動力ニヨリ本業ヲ營ムモノノ數ヲ掲クヘシ

糶摺業者數及使用動力二年對照表 (×ハ精米業者) 大正六年







第四編 工業 第四章 粉摺及精米業  
粉摺及精米業廳別表 (ハ) 貨摺 (ウ) 貨摺ナリ

廳別	粉		摺		精		米
	戶數	職工	摺上高數量	戶數	職工	精米高數量	
臺北	六二	一七	1,426,000 (1) 1,400,000	一四八	二五九	三二九,九七〇 (2) 二四九,七三〇	
宜蘭	三三	一五〇	1,057,000	二五	六	三三〇,七四三	
桃園	三八	二〇〇	1,058,000	二九	一四八	二一七,六八〇 (2) 一九五,六二〇	
新竹	三六	九六	五二六,五八〇	五三	八三	一五五,四三三 (2) 一三三,七二〇	
臺中	五五	三〇〇	1,897,000 (1) 五九一,一七〇	一四二	二五一	一三九,六九五 (2) 四八八,六六〇	
嘉義	二六	七四	一八〇,六〇〇	一九	二五	五〇,〇〇〇	
南義	一五〇	五〇〇	1,673,000	八五	一六四	四〇六,五〇〇 (2) 五七二	
臺南	一六一	六三三	1,905,000	一一七	二五五	六六六,九一一 (2) 一〇八	
阿緬	八三	五三三	二,二七九,七四〇 (1) 一,五九六,三三〇	六二	一六四	二二七,九二二 (2) 二四六,六六〇	
臺東	一	一	一〇〇	六	一〇	二一,七六〇	
花蓮	一	一	一〇〇	六	一〇	二一,七六〇	
花蓮港	一一	一〇	一,一七〇	一七	三〇	七七,五〇〇	
總計	六七七	二,二五〇	11,111,110 (1) 10,500,000	七〇七	一,一五八	七,一八〇,九四〇 (2) 九七九,一三〇	

尙參考ノ爲メ名廳ノ報告ヲ掲ケレハ左ノ如シ

**臺北廳報告** 廳下ニ於ケル粉摺業及精米業ハ其ノ多クハ專業者ニヨリ經營セラレテ電氣ヲ動力トスル新式機械ヲ運用シ居レリ大稻埕、艋舺、基隆等ハ主要地ナリ

**宜蘭廳報告** 廳下ニ於ケル粉摺業ノ趨勢ハ前年既ニ報告セシ如ク在來式ニ依ル小規模ノ粉摺及精米業ハ漸次減少シ同時ニ專業ノ機械工場ノ増設ヲ見ルニ至レリ即チ本年未ニ於ケル粉摺業者ハ三十二戶精米業者ハ二十五戶ニシテ前年未ノ粉摺業者四十六戶ニ比シ十四戶精米業二十七戶ニ比シ二月ヲ減シタルモ機械工場ハ反テ六月ヲ増加シ生産高ハ粉摺十萬五千七百四十七石價格百三十七萬四千七百七圓餘精米三萬二千七百四十三石價額五十四萬二千六百六十圓餘ニ上リ前年ニ比シ粉摺ニ於テ一萬百五十五石價額四十四萬四千四百六十五圓餘精米ニ於テ二萬五千二百七十七石ノ激增ヲ見タルハ米價騰貴ノ影響ヲ受ケ機械工場ノ増設アリタルトニ因ル

**桃園廳報告** 機械的粉摺及精米業ハ益々其ノ數ヲ増加シ廳下ノ主要地ニハ悉ク普及スルニ至リ舊來ノ手摺ニ依ルモノハ全ク跡ヲ絶チタリ前年ニ比シ米石數ノ減少シタルハ米價ノ好況ニ乘シ賣買盛ニ行ハレタル結果當業者カ多量ノ粉摺管外ニ搬出シタルカ爲メナリ

**新竹廳報告** 内地移出ノ劇増ト本島人機械力利用ノ發念トハ此方面ニ電力、汽力等ヲ應用スルモノ漸次増加シ期業八十九戶中是等ノ動力ニ依ルモノ十箇所アリ本年中粉摺高一〇三、八八三石精米高五九、二九三石ニ上レリ

第四編 工業 第四章 粉摺及精米業



第四編 工業 第五章 製粉業

臺中廳報告 粗摺及精米業粗摺ハ從來主トシテ各農家ニ於テ施行セラレツツアリシカ近時人力ニ依リ作業スルモノ次第ニ減少シ水力電力若シクハ機械力ヲ用ヒ粗摺精米ヲ行フモノ著シク増加セリ而シテ精米ハ地方ノ需用ヲ充ス外管外へ移出スル者次第ニ増加セリ

南投廳報告 米ハ廳下重要產物中ノ第二位ヲ占ム大正六年中ニ於ケル產額十八萬四千五百ニシテ價額二百五十九萬九千六百七十五圓ニ上レリ之ニ附隨スル粗摺精米業者ノ業務狀態ニ付テ一言セシニ管內ニ於テハ工場ハ五十一箇所ニシテ其製造數量粗摺一萬八千六百九十九石價格二十五萬九千六百八圓精米五千二十四石其價七萬九千八百六十一圓ニ上ル

嘉義廳報告 斯業ハ製糖業發展ノ過渡期ニ當リ改良糖廠ノ驅逐セララルルヤ其ノ機器機關ヲ利用シ轉シテ之ヲ營ムモノヲ出シ爾後石油發動機ノ普及ニヨリ俄ニ企業盛況ニ向フ然レトモ概ネ米價ノ變動ニ左右セララルル所アリシモ本年ハ米價ノ好況ニ伴ヒ一層盛大ニ趣キタリ

臺南廳報告 粗摺及精米業ハ其生産數量ニ於テ前年ニ比シ大差ナキモ米價騰貴セル爲メ生産額著シク多額ニ上レリ  
花蓮港廳報告 驅下ニ於ケル機械的粗摺及精米業ハ僅方ニ二箇所ニ過キスシテ其他ハ水車ニヨル舊式ノモノヲ襲用スルノ狀態ナリト雖比年管內消費米ノ増加ト時勢ノ要求ニ伴ヒ機械的精米業ノ勃興セントスル傾向アルニ至レリ

第五章 製粉業

製粉中麥粉最モ多ク豆粉之ニ亞ク、之カ製產地トシテ最モ盛ナルハ臺中廳下ニシテ全島製粉ノ約五割ヲ占メ臺中製粉精米株式會社ハ其雄ナルモノナリ本業ハ主ニ原料ヲ嘉義臺中兩廳下海岸地方ヨリ仰キツツアルカ未タ豊富ナリト云フヲ得ス若シ其供給潤澤ナルニ至ラハ將來有望ナル工業タルヲ失

ハス、本年度ハ未タ前數年ノ產出額ト比較スヘキ統計ヲ缺クヲ遺憾トス、左ニ各廳ノ產出額ト動力使用ノ製粉工場ヲ摘出スヘシ

製粉業者及產額應別表

廳別	製造戶數	職工	產額 (斤)					價額 (圓)				
			麥粉	糕粉	白玉粉	豆粉	蕎麥粉	麥粉	糕粉	白玉粉	豆粉	蕎麥粉
臺北	10	11	300,000	200,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000
宜蘭	1	1	100,000	50,000	20,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000
新竹	1	1	100,000	50,000	20,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000
臺中	11	12	1,000,000	800,000	400,000	200,000	200,000	200,000	200,000	200,000	200,000	200,000
南投	1	1	100,000	50,000	20,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000
嘉義	1	1	100,000	50,000	20,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000
臺南	1	1	100,000	50,000	20,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000
阿緞	1	1	100,000	50,000	20,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000
花蓮	1	1	100,000	50,000	20,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000
計	27	29	3,000,000	2,200,000	1,100,000	500,000	500,000	500,000	500,000	500,000	500,000	500,000

其ノ中動力使用ノ主ナルモノヲ掲クレハ左ノ如シ

工場名稱	所在地	資本金	職工及徒弟一日平均使用數	原動數種類	馬力
臺中製粉製米株式會社	臺中廳臺中	1,000,000 円	19	水力 電動數	1,000 馬力

第四編 工業 第五章 製粉業



第四編 工業 第五章 製粉業

工業名稱	所在地	資本金	職工及徒第一日平均使用數	原動機種類	馬力
二林乾益製粉工場	同二林庄	3,100	九	石油發動機	500
源成萬製麵所	同葫蘆墩街	1,300	二	水力	1,500
復彰發製粉工場	同彰化街	1,200	二	電動機	200
郭登(持主)	嘉義廳北港街	4,300	二	瓦斯發動機	600
瑞發製粉工場	同土庫庄	3,500	五	石油發動機	400
萬致合資會社	臺南廳鳳山街 同觀音中里楠梓坑街	3,650	二	電動機	300
		10,000	二	同	3,000

第六章 酒造業及酒精製造業

本島ノ酒造業ハ年々發達ノ狀勢ニシテ漸次新式經營ニ移ラントシツツアリ、中釀造酒ノ大部分ハ臺北廳管内日本芳釀社ノ釀造ニ係ルモノニシテ移入酒ノ騰貴ハ同社ニ有利ナラシメ釀造ノ改良ト共ニ聲價ヲ博シ生産高ヲ増加セシメツツアリ、蒸餾酒ハ後ニ述フルカ如ク主ニ酒精原料トナリ再造酒ハ主トシテ本島人ノ多數ノ需要ヲ充タシツツアルカ蒸溜酒(白酒)ノ減少セルニモ拘ハラズ再造酒ノ需要多ク其生産額ノ増加セシハ嗜好ノ向上ト共ニ移入酒ノ奔騰モ與ツテ力アリトスヘシ  
酒精製造業ハ戰時中ニ發展セル工業中最モ顯著ナルモノニシテ數量、價額共驚クヘキ數字ヲ示セ

リ即チ前年度ノ出產額六萬四千九百三十七萬五千六百六十一圓ニ對シ本年ハ九萬三千八百二十五石一千百三十六萬五千六百十七圓ニ達スルノ盛況ニアリ、即チ左ノ如シ

酒類製造石數廳別表

廳別	釀造酒	蒸餾酒	再造酒	合計
臺北	六六六	一一二	一一五	二九三
宜蘭	—	八六八	五五四	一四二二
桃園	—	三九七	三五二	七四九
新竹	一一三	三九七	三八一	九八六
臺中	一一〇	三九三	七二六	一四七三
嘉義	一四八	四九四	一三九	一七八一
臺南	一九六	六八七	四一七	一三〇〇
阿緞	六五四	三〇二	一九	三〇八八
臺東	二六	三八九	三三	三九二
花蓮	—	一七五	三九	二一四
澎湖	九二	一〇七	二七	二二六
計	九六六	三三三	一七〇	一四六九
大正四年	九二三	一八〇	二二八	一三三二
同	八六七	一四八	一〇五	一〇八〇

第四編 工業 第六章 酒造及酒精製造業



第四編 工業 第六章 酒造及酒精製造業

應名	同三年	同二年	同元年
應名	七五四五	六三四〇	四〇四八
釀造酒	一一〇八六	一一三三四	一〇、一九九
蒸餾酒	二七、三三三	二七、一〇〇	二七、〇〇〇
再造酒	二四、八八八	二四、八八八	二四、八八八
合計	一四、五七四	一四、八八八	一四、七二六

酒製造石高表

應別	大正六年度	同五年度	同四年度	同三年度	同二年度
應別	一八八〇元	一五、一九七	七、五一一	六、四〇〇	八、八七
臺中	三八、五三三	一七、七四三	一三、四六六	三、一九九	二、五五二
嘉義	一、四四八	九、〇一七	一、一〇三	一、一〇九	一、一〇〇
臺南	二、一〇五	三、九四六	一、五三三	七、七七〇	四、八三三
阿緱	九、三八五	六、四〇三	三、六三三	一、四〇八	一〇、四八二
計					

尙參考ノ爲メ各應ノ報告ヲ左ニ掲ク

**臺北廳報告** 廳下ニ於ケル釀造酒業ハ近年著シク發達シ殊ニ日本芳釀株式會社製出ノ銘酒胡蝶蘭ハ品質優良ニシテ益々聲價ヲ擡メ一般ノ嗜好ニ適シ需要增加ノ傾向ヲ示セリ然レトモ物價騰貴ノ影響ハ諸材料ノ昂騰ヲ來シ就中原料米ノ如キハ前年ニ比シ石十餘圓ノ暴騰ヲ示シ爲メニ前後三回ノ値上ヲ敢行シ以テ收支ノ均衡ヲ保ツニ腐心セルモノアリシモ本島經濟界ノ順調ニ依リ幸ニ好況ヲ持續シ本期ノ生産高四千九百三十三達シ前年ニ比スレハ約五百石ノ増産ニシテ多少内地移入酒ニ打撃ヲ與フルモノアルカ如シ尙燒酎、清涼飲料水及本島人向人參延年酒ノ製造ハ相當實行ヲ見タリ蒸餾酒及再製酒ハ多ク本島人經營ニ係

リ舊來ノ製造法ニ據レリ本年ハ財界ノ順調ニ伴ヒ一般需要增加ヲ促シ前年ニ比シ二千六百餘石ノ増産ヲ見タルモ原料米暴騰ノ結果生産費約五割ノ昂騰ヲ來シ製品亦著シク値上ケシタル爲メ價額低廉ナル糖蜜酒ノ需要激増ノ趨勢ヲ示シ從テ米酒ハ産額減シ糖蜜酒ノ産額増加セル等變調ヲ呈シタリ而シテ茲ニ注目ニ値スルハ嘉義大正製酒株式會社製出ノ糖蜜酒ノ侵入ニシテ價額幾分低廉ナルヲ以テ相當實行アリシカ如ク爲メニ廳下同業者ハ大ニ狼狽ノ態ナリシモ掛賣代金ノ回收圓滑ニ行ハレ新業一般概シテ良好ニ經過セリ今本期酒造高ヲ示セハ左ノ如シ

釀造酒	六、七八五石九斗七升
蒸餾酒	一一、二一一石六斗二升
再製酒	一一、二五六石八斗八升
計	二九、二五四石四斗七升

宜蘭廳報告

廳下ニ於ケル本業ハ前年既ニ報告セシ處ナルカ本期末現在ノ當業者ハ宜蘭、羅東、叭哩沙、蘇澳、大溪ノ五公司、各工場ト宜蘭製酒公司ノ頭園分工場及本年十月中羅東製酒公司ニ合併シタル元利澤簡製酒組合ノ工場トノ七箇所ニシテ何レモ本島式米酒ノ製造ヲ專業トシ比年順調ノ發達ヲ遂ケツツアリシカ本年ハ米價騰貴ノ影響ヲ受テ産額減少シテ一萬二千百九十四石價額二十七萬一千四百九十五圓トナリ前年ニ比シ一千二百七十七石價額八千八百九十七圓ヲ減少セリ

桃園廳報告

本年ニ於ケル酒造高ハ左表ノ如ク蒸餾酒(白酒)ノ減少セルニ反シ再製酒ノ増加セルハ時世ノ進歩ト前年來一般ノ好景氣ニ伴フ嗜好ノ昂上ニ依ルモノニシテ一面ニハ下等品(白酒)ノ需用減少セルニ不拘其原料タル糧食米ノ騰貴ハ益々白酒製造業者ノ不利益トナリシ結果其製品ニ手控ヘテナシタルニ依ル

臺中廳報告

人口増加ト内地製酒ノ騰貴トニ依リ近時本島酒ノ需用増加ヲ告ケ酒精ハ歐洲亂突發以來噸ニ需用ヲ促シ共ニ良好ニ



第四編 第六章 酒造及酒精製造業

向ヒ其製造盛ナリ

嘉義廳報告 戰亂勃發以來俄ニ其ノ組織並工場ノ規模ヲ擴張シタルモノハ酒精工業トス從米豐富ナル糖蜜ハ主トシテ糖蜜酒ノ醸造ニ供セラレシカ時局ノ轉變ニ伴ヒ酒精價額暴騰シ砲兵工廠其ノ他ニ供給シタルモノ本年二五、三三六石最近ニ至リテハ對岸輸出劇増セリ是レ彼ノ地ニ於テ之ヲ稀薄ニシ混成酒トナス原料ニ供スルモノニシテ其ノ輸出高一萬四千三百三十一石ニ達セリ酒類ハ專ラ管内若ハ島内各地ニ供給スル目的ニ出テス其ノ製法モ在來式ノ小規模ナルモノ多シト雖モ前記酒精工場ニ於テ兼營スル產額亦尠カラズ

臺南廳報告 内地移入酒ノ奔騰ハ比較的廉價ナル島内生産酒ノ需用ヲ増シ廳下生産酒類ノ製造高ヲ益々増額ヲ促シタリ

阿緱廳報告 酒精工場ハ大正製酒株式會社阿緱工場及臺灣製糖株式會社阿緱酒精工場ノミ作業ヲ爲セリ製造高二萬二千二百五石餘ニシテ前年ノ二萬二千九百四十六石餘ニ比シ七十四十一石減シ價額合計五十八萬八千四百五十六圓ナリ

臺東廳報告 廳下ニ於テ製造スル酒類ハ蒸餾酒ノミニシテ廣鄉產業會社其他個人經營ノモノ等六箇所ニシテ本年中製造高ハ一千六百八十石價格四萬七千四百圓トス

花蓮港廳報告 酒精及糖蜜酒ノ醸造ハ製酒公司壽工場ヲ主トシ花蓮港玉里兩市街ニ各二、三ノ醸造業者ヲ有ス壽工場ハ新式蒸餾器ヲ以テ年額三千石ノ糖蜜酒及四十萬封度ノ酒精醸造ニ著手シツツアリ其他市街醸造業者多クハ舊式醸造ニヨルモノニシテ其產額著シカラズト雖醸造酒二百四十七石蒸餾酒四千七百七十石再製酒百九十四石ヲ醸造セリ之前年ニ比スルニ蒸餾ニ於テ百二十石再製酒ニ於テ二十石増シ再製酒ニ至リ二十八石減シタリ而シテ醸造酒ノ減シタル前年ニ比シ物價暴騰ノタメ生活難ヲ感スルモノ多ク一般ニ需要ヲ減少セルニ因ル

第七章 製油業

本島ニ於ケル植物性製油原料ノ主ナルモノハ落花生ニシテ胡麻、菜子之ニ亞ク、之カ主產地ハ臺中、嘉義、新竹、宜蘭ノ各廳管内ナリトス、油ハ本島人ノ日用食品トシテ缺クヘカラサルモノニ屬シ到ル處多少ノ產出アリト雖モ島内ノ需要ヲ充スニ足ラサルナリ、本年ハ製造戸數、從業者共頗ル増加シ生産額ハ油、油糟共多大ノ増產ヲ見タルカ他ハ減退セリ、作柄良好ナラサリシニ本ツク、左ノ如シ製油戸數及產額廳別表

廳別	製造業者數	產額(斤)			價			額(圓)		
		落花生	胡麻	其他	落花生	胡麻	其他	計	落花生	胡麻
臺北	110	1,110,000	1,110,000	1,110,000	1,110,000	1,110,000	1,110,000	1,110,000	1,110,000	1,110,000
宜蘭	110	1,110,000	1,110,000	1,110,000	1,110,000	1,110,000	1,110,000	1,110,000	1,110,000	1,110,000
桃園	110	1,110,000	1,110,000	1,110,000	1,110,000	1,110,000	1,110,000	1,110,000	1,110,000	1,110,000
新竹	110	1,110,000	1,110,000	1,110,000	1,110,000	1,110,000	1,110,000	1,110,000	1,110,000	1,110,000
臺中	110	1,110,000	1,110,000	1,110,000	1,110,000	1,110,000	1,110,000	1,110,000	1,110,000	1,110,000
南投	110	1,110,000	1,110,000	1,110,000	1,110,000	1,110,000	1,110,000	1,110,000	1,110,000	1,110,000
嘉義	110	1,110,000	1,110,000	1,110,000	1,110,000	1,110,000	1,110,000	1,110,000	1,110,000	1,110,000
臺南	110	1,110,000	1,110,000	1,110,000	1,110,000	1,110,000	1,110,000	1,110,000	1,110,000	1,110,000
阿緱	110	1,110,000	1,110,000	1,110,000	1,110,000	1,110,000	1,110,000	1,110,000	1,110,000	1,110,000
總計	110	1,110,000	1,110,000	1,110,000	1,110,000	1,110,000	1,110,000	1,110,000	1,110,000	1,110,000







第四編 工業 第七章 製油業

ス

工業ノ發達ニ伴ヒ粗製香油ノ精練方法本島又ハ内地ニ於テ完全ノ域ニ達シ得ハ本業ノ將來ハ甚タ有望ナルモノニ屬ス

嘉義廳報告 原料作物豐凶ニヨリ消長一定セス然レトモ落花生ハ其甘肅ノ輪作物トシテ好適シ胡麻油ト共ニ其ノ油粕ハ施肥ノ普及ニ伴ヒ之カ發達ヲ助長スルモノトス膏製油法全ク舊套ヲ脱セス年來ノ舊式器物ヲ使用スルニ止マレリ茶油ハ竹頭崎支廳管内山間ニ産スルモ其ノ産額油千二百九十七斤粕三千二百四十三斤價額油四百三十五圓粕百三圓ニ過キサレトモ支那輸入品ノ如ク混入品ナク純真ナル點ニ於テ食料並調理用品トシテ賞用セラル此ノ外少量ノ菜種油アリ即チ其ノ産額ハ油一萬五千八百斤價額三千七百六十二圓粕六萬三千二百斤價額千八百八十五圓ナリ

臺南廳報告 製品質格騰貴ニ因リ落花生油ハ前年ニ比シ生産激増シ其生産價格モ約七倍ヲ増セルモ胡麻油ノ原料價格暴騰ノ爲メ却テ産額ヲ減セリ

阿緬廳報告 本業ハ港西上里大部ヲ占メ港西中里之ニ亞キ其他羅漢外門里港東上里港東中里等ニ産ス港西中里及港東中里ニハ少額ノ落花生油ヲ産シ他ハ皆胡麻油ナリ本年ノ製造戸數ハ前年ニ同シク産額ハ著シク減少セリ

第八章 製麵業

本島ノ麵類ハ之ヲ大別シテ麥粉製、米製及豆粉製ノ三種トス、麥粉製最モ多ク餛飩及索麵トシテ其需要多ク何モ比年増加ノ傾向アリ、機械製麵業者モ從ツテ年々遞増シツツアリ本年ハ原料盡ク上昇シタリシガ米粉ノ昨年ヨリ少シク減退セルノ外他ハ需要良好ニシテ増産セリ、殊ニ價額ハ孰レモ増進セリ左ノ如シ

麵類製造戸數及産額廳別表

廳別	製造戸數	産額 (斤)				價額 (圓)			
		職工又ハ 從業者	麥粉製	米製	豆粉製	計	麥粉製	米製	豆粉製
臺北	一八〇	四四〇	二六六、三〇一	一四九、九四九	三九、〇〇〇	四、一六九、二五二	一、五七五、二二五	二、五〇〇	三、六九八、八八
宜蘭	三三	八一	五、四七二	一〇五、〇〇〇	—	六、四五一、七三	二、八二四	—	五、六四一、五
桃園	四二	一三五	五〇、五八八	二九、九一〇	—	七、三一四、六	三、〇一六〇	—	七、四三〇、五
新竹	二七	三六六	四、四七五	五、四九〇	一、〇〇〇	五、五二〇、一〇	五、八五八	一、七	一、一〇四、五
臺中	一〇一	四四六	一、五四、四六〇	五二、七六〇	一、五、〇〇〇	二、〇七九、〇一〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、六〇〇	一、八九四、〇
嘉義	三六	六五	二、五九、九四	五、四一〇	一、五、〇〇〇	一、八三九、二四	六、三三三	三、五	二、〇四四、五
臺南	一五六	四八	一、〇七、五五八	六、三、〇一〇	一、六、五八七	一、八九四、一五	七、三六九	一、七〇、九	二、〇四四、五
阿緬	一八九	四八一	一、〇七、五五八	四、〇、〇一〇	一、六、五八七	一、七三三、四九	六、六〇六	一、八九四、一五	二、〇四四、五
臺東	七五	一六三	三、三、三三三	一、八、〇八七	七、〇一〇	五、八八四、一三	二、六八〇	二、六、七	七、七〇九、六
花蓮	二	四	三、三、三三三	—	—	—	—	—	—
澎湖	三	五	三、三、三三三	—	—	—	—	—	—
總計	一〇九〇	二、六九三	八六、二、五九五	四二、〇、八九三	四四、二、六〇	一、三、二、六、三〇九	七、七〇、三三四	六、七、二、九五	一、三、二、六、三三四
大正五年	一〇八五	二、六〇〇	七、七〇、一、三三六	四、三、九、八二〇	四、二、〇、五〇	一、三、二、六、三〇九	七、七〇、三三四	六、七、二、九五	一、三、二、六、三三四
同四年	一〇八七	二、七五二	八、四、三、三九	四、三、七、五〇八	五、〇、一、五〇	一、三、二、六、三〇九	七、七〇、三三四	六、七、二、九五	一、三、二、六、三三四
同三年	一〇七三	二、五八三	九、一、四、五、六六	三、三、二、一〇三	五、一、五、九〇〇	二、九、八、一、五九九	六、二、三、三三	四、八、八四	九、八、七〇五
同二年	一〇〇五	二、三六七	八、七、〇、一、四四五	二、六、一、七、八〇〇	四、九、四、四、二七	二、一、八、一、四、四三三	五、八、六、六、七	二、四、三、三、八二	八、九、五〇五
同元年	九二	二、三〇九	八、三、四、四、四四	二、六、一、七、八〇〇	八、〇、一、五、五	二、七、五、五、五七	七、八、一、〇、二	二、六、三、三、〇〇	七、七、一、〇、五

第四編 工業 第八章 製麵業



第四編 工業 第八章 製麵業

尙參考ノ爲メ左ニ各廳ノ報告ヲ掲クヘシ

臺北廳報告 新業ハ廳下各地ニ散在シ少數ノ機械使用者ヲ除ク外ハ悉ク在來ノ製造法ニ依ル需要ハ年々増加ノ趨勢ヲ示シ產額漸

次増大シ今々其ノ額三十餘萬圓ノ多額ニ達セルモ本年ハ原料麥粉ノ價額前年ニ比シ約二割五分ノ昂騰ヲ來セシヲ以テ製品大

麵及麵線額ヲ五割乃至六割ノ値上ヲナシ大稻埕卸相場大麵百斤九圓麵線百斤十五圓ニ上リ從テ需要減少ノ傾向ヲ示シ不況ノ

觀アリタリ米粉製造モ原料米暴騰ノ打撃ヲ蒙リタルハ勿論ナレト該品ハ原料安値ノ碎米ヲ使用シ得ルノ便宜アリ價額ハ前年

ニ比シ約三割高ニシテ百斤十六圓ヲ唱ヘタルモ一般需要良好ニテ特ニ變動ヲ認メス

宜蘭廳報告 本業モ亦最近著シク勃興シ小規模ノ機械製麵業者ノ頗出スルニ至リ比年產額増加ノ趨勢ナルコトハ前年既ニ報告セ

シ處ナルカ本年ハ原料騰貴ノ影響ヲ蒙リ產額六十四萬五千七百七十二斤ニシテ前年ニ比シ十一萬二千六百七十斤ヲ減少シタ

ルモ幸ニ價格ニ著シキ昇騰ヲ見タル爲價額ハ五萬六千四百五十二圓ニ上リ前年ヨリ一萬一千四百四十圓ヲ増加セリ

宜蘭廳報告 種類ハ大麵、麵線、米粉ニシテ米、麥粉等原料ノ騰貴ニ依リ前年ニ比シ著シキ増產ナク價格ハ之ニ反シ平均五割高

ヲ示セリ

新竹廳報告 新業亦前年ニ比シ十餘萬斤ノ増加ニテ本年中ノ產額一、〇三一、六三三斤此價額一一〇、〇四五圓ニ達ス

臺中廳報告 人口増加ニ伴ヒ麵類ノ需用促進シ產額増加ヲ爲シツツアリ製品ハ地方ノ消費ニ止マリテ移出スルニ至ラス

嘉義廳報告 一般ノ需要増加ニ伴ヒ其ノ產額ヲ増加シツツアリ但シ本年ハ其ノ原料タル製粉暴騰シ著シキ増產ナシト雖モ價額ニ

於テハ著シク増加セリ製法概ネ在來式ニヨリ種類略ホ同様ニシテ往々人力製麵機ヲ使用スルモノアリト雖トモ尙顯著ナル發

達ヲ見ス

臺南廳報告 製麵業ハ其產額ニ於テ前年ニ比シ多少減セルモ製品價昂騰ノ爲メ生產價額ハ却テ増額ヲ示セリ

阿緞廳報告 本年中ノ製造戶數七十五戶產額五十八萬八千四百十三斤價額七萬七千九百四十四圓ナリ大部分在來式製造法ニシテ製品

ハ饅飽大麵索麵線、米粉、豆簽ナリ前年ニ比シ戶數三月產額二萬五千四百四十七斤ヲ増加セリ

第九章 澱粉製造業

元來本島ニハ之カ原料タル甘藷ノ生產額莫大ナルカ食品ノ騰貴ニ連レ甘藷モ價格上進シ採算上引  
キ合ハサル如ク依然トシテ不振ノ狀態ヲ免レス雜穀類ノ製粉業亦同シ、只「アロールト」及「キヤ  
ツサバ」等ノ栽培ハ本島ニ適シ殊ニ前者ハ漸次其生產額ヲ増加シツツアリ嘉義廳下及臺南廳下ニハ  
新式製造ノ下ニ經營シ相當ノ成績ヲ舉ケツツアリ、  
本年ハ昨年ニ比シ數量價額共幾分増加セリ左ノ如シ

澱粉製造戶數及產額別表

廳別	製造業者		消費原料使用高		製造高	
	戶數	職工數	數量	數量	價額	價額
臺北	六	六	一八、〇一〇斤	二、一七〇斤	二、六三四	二、六三四
臺中	三	六	〇、〇〇〇	二、〇〇〇	三、八七	一、五四八
嘉義	一五	二二	一九、五〇〇	一、八〇〇	一、五四八	四、九九一
宜蘭	四	五	二六、八二〇	三、八八〇	三、五〇九	四、九九一
臺南	一	四	三、七九〇	五、六九六	三、五〇九	三、五〇九
阿緞	一	四	五、〇一三	五、八七六	五、五三八	五、五三八
計	五〇	三八	四八、七五二	四七、七二六	四、五三三	四、五三三

第四編 工業 第九章 澱粉製造業



應別	製造業者		消費原料使用高		製造高	
	戶數	職工數	數量	數量	價額	高
大正五年	五三	三三三	四、五二七、四二二斤	四、四一五、八八斤	三、四〇七、四	
同四年	五九	四二五	七、二七六、七三三	六、九〇二、四三	四、三九二、五	
同三年	七二	四六四	七、九〇八、八〇	七、三三三、〇五	五、〇〇〇、四	
同二年	五七	三三八	七、三二四、六四三	七、四六五、五	五、一九七、三	

本年度斯業ヲ營ムニ汽機又ハ石油發動機ニヨリ新式機械ヲ利用シ其規模比較の大ナルモノヲ掲クレハ左ノ如シ

住 所

氏名又ハ商號

臺南廳下茄冬南堡竹仔門庄

金子熊吉

臺南廳觀音內里溪埔庄

平野復男

阿緞廳港西中里老埠庄

江崎與太郎

尙參考ノ爲メ各廳ノ報告ヲ次ニ掲ク

宜蘭廳報告

應下ニ於ケル本業ニ對シテハ臺ニ督府ヨリ手廻機械ノ保管轉換ヲ受ケ之ヲ希望者ニ貸附ク一面農會ニ於テハ試製ノ成績ヲ周知セシムル等相獎勵ノ途ヲ講シタルモ從來原料ノ生産不足ノ爲依然トシテ不振ノ狀態ニアリシト雖モ近來澱粉ノ需用増加ト價格ノ著シキ騰貴トニ依リ有利事業ノ一タルヲ自覺シ最近「アロールト」キアツサバ等ノ栽培ヲ試ムルモ漸次多キヲ加フルノ傾向アルヲ以テ近ク發展ノ機運ニ達著スルヲ疑ハス本年中心ノ產額ハ僅カニ二千四百五十斤ニシテ前年ニ比シ一千六百三十斤ノ減少ヲ來シタルモ價格騰貴ノ結果總價額ニ於テハ大差ナキヲ得タリ

新竹廳報告

特記スヘキ產額モ目今製粉目的ヲ以テ二三地方ニ「アロールト」種苗ノ養成中ニ屬スルモノアリ不日其ノ產額ヲ見ルニ至ルヘシ

臺中廳報告

近時甘藷ノ騰貴セル爲メ澱粉製造ノ不利ナル狀態ヲ示シ斯業著シク衰微ヲ呈セリ

嘉義廳報告

澱粉ノ製造ハ原料タル甘藷暴騰ニ基キ一時比較的規模ノ大ナル工場ノ勃興ヲ見タルモ全然中絶シ副業的ニ製造セシモノモ產額ヲ増大スルニ至ラス獨リ「アロールト」澱粉ハ其ノ價額ノ好調ヲ見發達ノ過程ニアレトモ原料尙豐富ニ至ラス產額多カラス店仔口支廳下金子熊吉經營ノ工場ハ石油發動機ヲ以テ製造中ナリ將來原料ノ栽培増加ニ伴ヒ相當ノ產出ヲ見ルニ至ルヘシ

雜穀類ノ製粉業ハ牛力ニヨリ小規模ノ製造ニ從事シツツアリテ一ニ他事ト兼營ヲ以テ動力ヲ使用スルモノヲ見ルニ至レリ

應下ハ豆類麥類豐富ナルヲ以テ斯業ノ發達ヲ見ルニ至ルヘシ

臺南廳報告

澱粉ハ主トシテ甘藷ヲ原料トシタリシモ本年ハ甘藷異常ノ高價ヲ稱ヘタル爲メ產額ヲ減セリ反之「アロールト」澱粉ハ原料廉ナルト製品價格高値ナルニ因リ甚シク好況ヲ呈セリ管内鳳山支廳下拓南社ノ如キハ工場設備ヲ改メ能力ヲ増加シ本年中心十萬斤以上ノ製品ヲ出セリ

### 第十章 糖菓製造業

本島ニ於テ製造セラル、糖菓ノ主ナルモノハ蜜餞糖菓ト鳳梨罐詰ノ二種ナルカ前者ハ普通菓子商ノ副業トシテ製造セラレツ、アルモノニシテ近時之カ包裝其他ニ意ヲ用ヘタルカ爲メ販路ヲ開拓シ漸次生産額ヲ増加シツ、アリ鳳梨罐詰業ハ武力罐ノ騰貴ト原料果生産少シク前年ニ比シ衰ヘシ爲メ幾分ノ減退ヲ見タリ、左ノ如シ



蜜餞製造及鳳梨罐詰戸數及産額應別表

廳別	蜜			鳳梨罐詰		
	戸數	職工數	産額	戸數	職工數	産額
臺北	11	40	1,389,310	1	5	10,000
宜蘭	15	15	62,400			
新竹	10	31	199,110			
臺中	24	37	265,550	2	3	29,339
嘉義	5	7	74,600			
南義	13	18	106,110			
嘉南	8	23	1,201,110	2	3	320,000
計	96	168	3,714,000	5	16	829,339
大正五年	87	151	2,759,540	6	10	921,840
同四年	92	145	1,962,408	7	17	1,835,550
同三年	81	121	1,625,770	7	15	1,823,440
同二年	86	123	992,233	6	17	1,180,559
同元年	101	143	1,471,110	6	9	654,000
計			10,749,000			19,658,000

尙參考ノ爲メ各廳ノ報告ヲ掲クヘシ

臺北廳報告 砂糖其ノ他原料價額益々騰貴シ當業者多大ノ打撃ヲ蒙リ價額ノ値上又ハ量目ノ減少等總ユル手段ヲ講シ收支ノ均衡ニ腐心セルモノアリシモ一般需要ハ減退ヲ告ケ賣上金額ハ前年ニ比シ寧ロ多カリシニ反シ利益ハ却テ減少シ概シテ好況ナラ

サリシカ如シ蜜餞製造ハ品質額ル向上セララルトコロアリト雖容器鍍力罐ハ戰前七八錢ノモノ漸次騰貴シ前年十五六錢トナリ本年三十四五錢ノ高値ヲ告ケルニ至リ斯業經營上最モ困難トスルトコロナリ販路ハ島内需要ノ外本島特産品トシテ内地ハ移出セララルモノ増加シ相應景況ナ早セリ尙容器ハ年末ニ及ヒ木箱ヲ以テ鍍力罐ニ代用スルモノアルニ至レリ鳳梨罐詰業ハ原料果實ノ作柄不長ナラサリシモ容器鍍力罐暴騰ノ打撃ニ依リ前年應下ニ工場アリシモノ本年一箇所ハ廢業ノ己ムナキニ至リ産額自然減少セリ

宜蘭廳報告 金柑及李ノ蜜餞ハ産額未タ夥多ナラスト雖モ其ノ起及古ク且品質佳ナル故ヲ以テ今ヤ應下ノ一名産タルニ至リ賣行額ル良好ニシテ比年産額ノ増加ヲ見ル即チ本年中ノ産額ハ六千二百四十斤價額二千四百九十六圓ニシテ前年ニ比シ一千百十斤價額六百四十九圓ヲ増加セリ

臺中廳報告 砂糖及麥粉ノ騰貴ニリ依然賣行額ク利益減少ヲ招キ商況ハ衰微ノ状態ヲ示セリ

臺南廳報告 糖菓ハ單ニ工場票ヲ徵シタルモノ及蜜餞類ノミニ就テ見ルモ逐年増産ヲ示シ即チ大正五年ノ生産高五萬六千四百七十圓ニ對シ本年ハ六萬五千三百四十七圓ヲ生産セリ

### 第十一章 織物業

本業ハ從來企畫サルル所アリ興ルヘクシテ興ラサルノ状態ニアルハ動力、原料其他機運ノ熟セサルニ職由スヘシ、只臺中ニ設立セラレタル臺灣製麻會社ノ新式ニ經營セラルルアリテ發展ノ機ニ際會セルアルノミ、最近原料高ニ制セラレ豫定ノ生産額ヲ擧クルヲ得サルヲ憾ミトスヘシ、宜蘭廳下ニ於ケル利澤簡機業組合ノ如キハ整理改善ニ努ムト雖モ依然成績不良ニシテ經營困難ヲ加ヘツツアリ、各種織物中地方ニヨリテハ増加シタルモノナキニシモ非レド概シテ不況ヲ免レス、生産費昂騰セル



カ爲ナリ、本年度生産高左ノ如シ

機業戸數及生産價額別表

廳別	木		樟		麻		黃麻		鳳梨纖維		合計	
	戸數	機數	戸數	機數	戸數	機數	戸數	機數	戸數	機數	戸數	機數
臺北	二五	一三	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
宜蘭	五	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
桃園	四	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
新竹	一七	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
臺中	二	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
南投	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
嘉義	七	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
臺南	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
計	四三	四七	四	四	八	五	六	六	六	六	一	一
大正五年	五三	五九	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三
同四年	七六	八〇	四	四	七	六	五	五	五	五	五	五
同三年	二	九	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
同二年	三	九	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
同元年	二八	二五	四	四	六	七	七	七	七	七	七	七

尙臺灣製麻會社ノ大正六年四月ヨリ同年九月ニ至ル六箇月間ノ生産額左ノ如シ

麻袋 三六六、一六〇枚

麻布類 七四四、六二二碼

麻絲 一二四、三九七封度

參考ノ爲メ左ニ各廳ヨリノ報告ヲ掲ク

臺北廳報告

廳下ノ機織ハ微々トシテ振ハス少許ノ黃麻布織ノ外脚白及帶仔ヲ産スルモ近年本島婦女ノ天然足及解纏足者ノ増加ニ依リ需要大ニ減退シ衰退ニ向ヒツツアリ

宜蘭廳報告

廳下ニ於ケル本業モ依然トシテ不振ノ状態ニ在リ就中利澤簡機業組合ハ之カ整理改善ニ努メ辛フシテ事業ヲ繼續ス下雖モ之レ亦成績良好ナラスシテ前途頗ル憂慮ニ堪ヘサルモノアルコトハ前年既ニ報告セシ處ナリ然ルニ同組合カ養成セル織工ハ各自家庭ニ於テ芭蕉布ノ織出シニ従事スルモノ年々増加ノ傾向ヲ生シ來リシカ近年ハ織物モ稍々進歩シ其ノ製品ハ本島人ノ夏著用トシテ恰好ナルヲ以テ一般ニ歡迎セラレ需用漸々増加ノ趨勢ニ赴キ爲ニ本年中ノ生産ハ主トシテ芭蕉交織ニシテ木綿織之ニ亞キ其ノ總價額六千八百八十圓ニ上リ前年ニ比シ實ニ五千二百七十七圓ノ増加ヲ見ルニ至レリ

臺中廳報告

麻織物ハ原料黃麻ノ産額増加ト需要ノ激増トニ依リ益々好況ヲ呈シ産額増加シ比較的成況ヲ呈セリ

臺南廳報告

輸入棉花ノ暴騰ニ因リ一般ニ綿布ノ騰貴セル爲メ廳下ノ綿布織物業ハ前年ニ比シ著シク産額ヲ増セリ

第十二章 製紙業

本業ハ今尙幼稚ニシテ從來原料トシテ幼竹ヲ用ヒ粗唐紙ヲ製造シツツアリ、之カ主ナル産地ハ嘉義廳ヲ第一トシ南投廳之ニ亞ク、遺憾乍ラ製法ハ何レモ小規模ニシテ舊式タルヲ免レス本業ハ有望ナル將來ヲ有スルモノニシテ早晚企業サルヘキカ數年前三菱ニテ大規模ノ「バルブ」製紙工場中止以來何等面目ヲ改ムル如キ新式ノモノ起ラス、但シ本年度ノ生産高ハ昨年ニ比シ良好ナリ、左表ノ如シ







第四編 工業 第十三章 金紙製造業

昂騰シ生産費亦二三割ノ騰貴ヲ唱ヘタル爲メ産額、價額共昨年ヨリ減退セリ左表ノ如シ

金銀紙製造戸數及産額應別表

廳別	戸數	職工數	産額	價額
臺北	一八	一五三	八六四八八斤	一七六六八
宜蘭	一	五三	一〇五、一〇〇	一六、一五〇
新竹	四	四〇九	一、六八、一〇四	一、一、九八四
臺中	三三	五三	一九二、六八〇	一、七、七四八
嘉義	三〇	八九	九二五、〇〇〇	四八、二一五
南義	一六	四二	一、一、一、五〇〇	一、三、一、六八七
嘉南	三	九〇	五〇、五、〇五八	一、一〇、四七
計	三、四	一、三、五、六	五、一〇、二、一八	五、四〇、七、四
大正五年	三、六	一、三、六八	七、六、三、九、六九四	五八、二、五、四
同四年	三、五	一、三、三、四	七、九、八、二、九七	六、三、七、七、五八
同三年	三、四	一、一、四、六	五、六、三、〇、〇三	四、六、〇、〇、九一
同二年	三、三	一、一、一、八	五、五、七、八、八五三	四、七、四、二、六三
同元年	三、二	一、一、一、一	五、三、二、七、五二	四、八、六、三、三

尙參考ノ爲メ左ニ各廳ノ報告ヲ掲ク

臺北廳報告 本業ハ本島製竝輸入粗唐紙ヲ原料トス神佛禮拜用トシテノ需要ハ今尙衰ヘサルモアルト雖本年ハ銀價暴騰ニ依リ

對岸輸入原料紙價額著シク昂騰セルヲ以テ主ニ本島産原料紙ヲ使用スルニ至リシカ之レ又約二割ノ高値ヲ唱ヘ其ノ他諸類ノ騰貴等生産費増加ニ伴フ製品價額前年ニ比シ三割以上ノ昂騰ヲ示シ加フルニ本年下半年ニ於ケル一般物價騰貴ノ影響ハ購買力ヲ減殺シ斯業概シテ閑散ノ狀ヲ以テ終始セリ

宜蘭廳報告 金銀紙ノ消費額ハ人智ノ啓蒙ニ伴ヒ漸次減少ノ機運ヲ有スヘキモノナルモ信仰ニ基ク舊慣ノ因襲ハ容易ニ之ヲ脱却スルコト能ハサルモノノ如ク廳下ノ本業モ亦比年盛況ヲ呈セリ即チ本年中ノ製造高ハ十萬五千二百斤價額一萬六千二百六十圓ニシテ前年ニ比シ十萬九千八百六十斤價額五千七百六圓ヲ増加セリ

臺中廳報告 本島舊價上金銀紙ヲ使用スルモノ今尙多クシテ相當需用アリ祭典等ノ場合實行良好ナリ  
南投廳報告 之又林圯埔地方ノ特産ニシテ大正六年中産額九十二萬五千三百斤ニシテ其ノ價額四萬八千百十五圓ニ上ル竹紙中其ノ大部分ハ彼ノ冠婚葬祭ニ燃焼スル金銀紙ノ材料トナリ殘餘ハ粗紙ノ儘雜用ニ供セラル

今試大正五年中ニ島内ニ燃焼セシ金銀紙ノ量ヲ見ルニ一千二百五十萬二千七百三十二斤ニシテ其ノ價額百十二萬六千九百八十九圓ノ多キニ達シ其ノ内四百八十六萬三千三十八萬斤價額五十四萬四千四百七十五圓ハ海外ヨリ輸入ニ係ル本業ハ其ノ製造方法尙幼稚ナル爲メ其ノ製品モ粗惡ニシテ價值遙ニ輸入品ニ及ハス

嘉義廳報告 樸仔脚街及北港街ノ住民ニシテ農閑時ヲ利用シ山地及嘉義街ヨリ原料竹紙ヲ購入シ副業的ニ之レニ從事シツツアリ本年ノ産額及價額ノ減少セシハ原料竹紙ノ不廉ニ歸シタルモノト文化ノ進歩ニ連レ漸次此ノ種ノ古習ヲ脱スル傾向アルニヨルヘシ尙北港街媽祖廟ハ全島中參拜者ノ多キ故ヲ以テ有名ナルガ此ノ消費モ近次經濟ノ順應セルヨリ富裕ナル人士ノ來往多ク消費高多シ然レトモ之レ等多クハ支那人輸入品ヲ使用スルヲ常トス

臺南廳報告 金銀紙ハ逐年本島人ノ風俗改良ニ伴ヒ數年前ニ比スレハ其需要ヲ減セリ本年ハ前年ニ比較スレハ産額ニ於テ大差ナキモ紙價騰貴ノ爲メ出産價格ニ於テハ倍額以上ヲ示セリ







同元	同二年	同三年	同四年	同五年	大計	臺中			嘉義			阿羅			其他類似			
						總計	男	女	總計	男	女	總計	男	女	總計	男	女	
1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100
1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100
1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100
1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100
1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100
1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100
1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100
1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100
1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100

尙參考ノ爲メ各廳ノ報告ヲ左ニ掲ク

臺北廳報告

本島婦女ノ手工業トシテ近時急速ナル發達ヲ遂ケタル林投帽ハ前年來紙帽ノ爲メ壓倒セラレ本年ハ全ク製造ヲ見ス  
紙帽ノ製造ハ一般使用流行ト共ニ產額增加ノ傾向ヲ示セルモ戰時ノ影響ヲ受ケ輸出ヲシカラス從テ製品ノ停滯ハ價額ノ低  
落ヲ來タシ豫想ノ好況ヲ見ル能ハス僅ニ二百四五十打ノ產額アリシニ過キス

宜蘭廳報告

廳下ニ於ケル本業ハ曾テ宜蘭纖維組合及其他二三有志ニ依リ林投帽製造ノ經營ヲ試ミラレタルトコロアリシモ數年  
前帽價暴落以來其ノ業務ヲ休止シ居ルコトハ前年既ニ報告セシ處ノ如クシテ今尙再興ノ機運ニ達著セス

新竹廳報告

近時需要盛ナル紙帽島內產額ノ大部分ハ實ニ廳下ノ生産ニ係リ廳下各地家庭婦女唯一ノ内職トシテ一般ノ歡迎ス  
ルトコロニシテ廳下家庭工業ノ大宗タリ唯其ノ原料タル紙條カ内地ノ移入ニ係リ島內生産ニアラサルヲ遺憾トスルモ其工賃  
ノミニテモ一箇年約二十萬圓ヲ超ヘ爲之本島人中流以下ノ家庭經濟ニ裨補スルトコロ決シテ尠ナラス林投帽大甲帽モ殆ン  
ト廳下ノ特產出トシテ一時其ノ隆盛ヲ見タルコトアルモ其ノ好景氣ニ連レ粗製濫造ニ陥リ爲之價額ノ暴落ト原料ヲ本島ヨリ  
移入シ岡山廣島神戸等内地ニ於ケル斯業ノ發達トハ漸次廳下ノ製帽業ヲ衰境ニ導キ之ニ代フルニ近時ノ如キ紙帽ノ發展ヲ見  
ルニ至リシモノニシテ林投大甲製帽ハ紙帽用額ノ五分ノ一ニモ當ラス甚數衰退ニ趣ケルモ紙帽ハ一般需要ノ増加ト共ニ其ノ  
產額ヲ加フヘク將來家庭工業トシテ最モ好望ナル事業ノ一タルヘシ本年中ノ產額ハ紙帽大甲林投帽ヲ合セ此價額五一五、五  
五八圓ニ上レリ

臺中廳報告

本品ハ明治四十四年頃全ク極メ大正元年以降次第ニ不振トナレリ今ヤ林投帽ハ殆ント製造セラレシテ紙原料ヲ  
以テセル帽子ハ盛ニ製造セラレルニ至レリ然レトモ粗製ノモノノミ取引行ハレ上等帽ノ販路ナキハ遺憾トス

臺南廳報告

製帽業ハ第一章總論ニ詳述セルヲ以テ本章ニ省略ス  
數年來林投帽商況不振ノ影響ヲ受ケ粗製原料ノ需要減退シ價額亦低落セル爲著シク其ノ產額ヲ減シ製造戸數五戸產  
額僅ニ百三十萬四千本價額二千餘圓ノ生産アリタルニ過キス

阿緬廳報告

廳下縱貫鐵道以西ノ平野ニ繁茂セル林投葉ノ採取ハ各地製帽地ニ供給スル目的ヲ以テ相當發達セシ近年紙帽子ノ製  
造旺盛ニ向ヒタル爲メ不況ニ陥リタルヲ以テ之レカ挽回ニカムル爲メ斯業者ハ進シテ製帽業ヲ兼營スルニ至リ相當ノ女工ヲ養  
成スルニ至リタルモ尙製品粗惡ナルト一般製帽界ノ不振ナルトニヨリ充分ノ成績ヲ擧ゲ得サル狀態ニアリ

嘉義廳報告

廳下縱貫鐵道以西ノ平野ニ繁茂セル林投葉ノ採取ハ各地製帽地ニ供給スル目的ヲ以テ相當發達セシ近年紙帽子ノ製  
造旺盛ニ向ヒタル爲メ不況ニ陥リタルヲ以テ之レカ挽回ニカムル爲メ斯業者ハ進シテ製帽業ヲ兼營スルニ至リ相當ノ女工ヲ養  
成スルニ至リタルモ尙製品粗惡ナルト一般製帽界ノ不振ナルトニヨリ充分ノ成績ヲ擧ゲ得サル狀態ニアリ

(1) 林投葉採取業



第四編 工業 第十六章 製蓆業

年別	製帽		製蓆	
	戸數	職工本數	戸數	職工本數
大正二年	一九	四六七	一六	三三六
同三年	六四	三二九	一七	三三三
同四年	一九	六七	一七	三三三
同五年	三	八三	一七	三三三
同六年	五	四三五	一七	三三三
合計	一一一	一,一〇七	一七	三三三
大正三年	三	一八四	一	一〇〇
同四年	三	一	一	一〇〇
同五年	三	一	一	一〇〇
同六年	三	一	一	一〇〇
合計	一二	一八六	四	四〇〇

第十六章 製蓆業

本業ハ主トシテ大甲蘭蓆ノ編製ト七島蘭蓆ノ織製ノ二種ニシテ後者ハ前年度ニ比シ幾分増産ヲ見タリト雖モ前者ニ至リテハ本島獨特ノ産物ナルニモ拘ハラズ價額ノ高價ナルカ爲メ販路狭少ニシテ年々衰退ノ一途ニアルハ惜ムヘシ、但シ前者ノ新竹廳下ニ限ラルルニ反シ後者ノ各廳ニ栽培サレ本島

ニ好適スルモノアレハ製蓆機械貨下等ノ獎勵ニヨリ漸次増産ヲ期スルコト難カラサルヘシ、本年度ニ於ケル之ガ産額左ノ如シ

製蓆業者及産額廳別表

廳別	大甲蘭草		七島蘭草		合計	
	戸數	産額	戸數	産額	戸數	産額
臺北	二	七四三	一六	三三六	一八	四〇九
宜蘭	二	三三六	一	一七〇	三	五〇六
桃園	二	三三六	一	一七〇	三	五〇六
新竹	二	七四三	一	一七〇	三	九一三
嘉義	二	三三六	一	一七〇	三	五〇六
南義	二	三三六	一	一七〇	三	五〇六
嘉南	二	三三六	一	一七〇	三	五〇六
臺南	二	三三六	一	一七〇	三	五〇六
合計	一四	二,一三三	二二	一,一〇七	三六	三,二四〇
大正五年	二	七四三	一六	三三六	一八	四〇九
同四年	二	三三六	一	一七〇	三	五〇六
同三年	二	三三六	一	一七〇	三	五〇六
合計	六	一,四一五	一七	六七六	二三	二,〇九一

参考ノ爲メ各廳ノ報告ヲ左ニ掲ク

第四編 工業 第十六章 製蓆業



第四編 工業 第十七章 窯業

**臺北廳報告** 廳下ニ於テハ七島蘭帶ニ限ラレ本業ハ督府ノ製糖機貸下等奨励ノ結果近時著シク發達シ本年産額八萬枚價額約三萬圓ニ達シ其ノ約半數ハ臺北製糖合資會社ノ製造ニ係リ製品ハ島内消費ノ外内地へ移出セラレ價額比較的低廉ニシテ内地ニ於ケル地方向需用トシテ觀迎セラルルモノノ如ク同社ハ益々業務ノ擴張ニ努メ原料植付ケ及植付適地ノ收得ニ苦心シツツアリ別ニ同業者トシテ北投庄陳詠仁經營工場ハ島内需要ノ好調ニ伴ヒ業務擴張相應利益ヲ擧ケツツアルモ同地許德定場ハ經營宜シキヲ得テ業務中止ノ姿ニ在リ

**宜蘭廳報告** 廳下ニ於ケル本業ハ七島蘭帶ニシテ未ダ微々タルニ家庭工業ニ過キスト離モ近年需要ノ増加ニ伴ヒ漸次好況ニ向ヒツツアリシカ本年ハ七島蘭ノ他ニ多少ノ需用起リタルト價格ノ騰貴セルトニ因リ製造戸數四十三戸トナリ前年ヨリ八月ヲ減シ産額亦四百八枚ヲ減シテ一萬五千七百八十二枚トナリシモ原料ノ騰貴ニ連レ價額亦昂騰セシ結果四千四百二十四圓ヲ算シ前年ヨリハ四百三十圓ヲ増加セリ

**臺中廳報告** 七島蘭帶ハ農民ノ副業トシテ行ハレ製品ハ本島人ノ眠床或ハ捆包用ニ使用セラル大甲蘭帶ハ價格廉ナラス從テ需用少シ

**臺南廳報告** 製糖ハ主トシテ本島人ノ廢棄用蘭帶ナルカ近來風習ノ内地化スルニ伴ヒ逐年其需用ヲ減セリ

第十七章 窯業

本業ハ之ヲ分チテ二種トス、一ハ陶磁器ヲ製造シ他ハ土木建築材料ヲ製造スルモノナルカ前者ハ嘉義、阿緱、臺南、花蓮港、澎湖ヲ除ク各廳ニ産スト雖モ何レモ小規模ノ製造ヲナスニ過キス、北投陶器製造所ハ多年督府ノ補助奨励ヲ仰キ工場ノ擴張製品ノ變更ヲ爲シ幾分發展ノ曙光ヲ認ムルニ至レリ、土木建築材料ノ製造ニ至リテハ本島土木工事一段落ヲ告ケタルヲ以テ稍閑散ノ氣味ナリシガ

第四編 工業 第十七章 窯業

本年度ニ於テハ燃料及工賃ノ騰貴アリシニ拘ハラズ一般景氣ノ良好ナルガ爲メ煉瓦其他何レモ生産高ノ増進ヲ見タリ即オ左ノ如シ

窯業戸數及其産額別表 Xハ内地形ニシテ他ハ本島形ナリ

廳別	製造戸數	職工數	煉瓦	價額 (圓)		煉瓦	價額 (圓)		計
				屋根瓦	數瓦		屋根瓦	數瓦	
臺北	100	422	X	14,400,000	14,400	X	14,400,000	28,800,000	
宜蘭	5	40	X	1,100,000	100,000	X	1,100,000	2,200,000	
桃園	41	410		5,500,000	550,000		5,500,000	11,000,000	
新竹	112	808		11,200,000	1,120,000		11,200,000	22,400,000	
臺中	128	1,024	X	16,384,000	1,638,400	X	16,384,000	32,768,000	
嘉義	128	1,024	X	16,384,000	1,638,400	X	16,384,000	32,768,000	
臺南	128	1,024	X	16,384,000	1,638,400	X	16,384,000	32,768,000	
阿緱	128	1,024	X	16,384,000	1,638,400	X	16,384,000	32,768,000	
總計	600	4,768		63,248,000	6,324,800		63,248,000	126,496,000	







第四編 工業 第十八章 鐵工業

次家屋ノ建築ニ見ルニ木材使用ヲ増加シタル結果屋根瓦ハ増産ナルニ拘ハラス敷瓦煉瓦土管等ハ反ツテ減少セリ之レ炭價ノ騰貴ト建築界ノ不振トニ由ル内地瓦ノ製産モ年々産出アリテ品質良好ナル點ニ於テ賞用セラル本年三十萬八千五百枚ヲ産シ價額一萬一千二百四十七圓ナリ

斯業中規模ノ稍々大ナルハ臺南煉瓦株式會社ノ嘉義工場ニシテ本年産出高三百萬本二萬八千二百圓ナリ

臺南廳報告 窯業ノ主ナル煉瓦、瓦類ハ燃料騰貴セルト建築界沈靜セル爲メ抄々シキ需用ナク産額前年ト大差ナキモ製産價格ハ時價ノ騰貴ニ因リ増額ヲ示セリ

第十八章 鐵工業

本島ニ於ケル鐵工業ハ今尙幼稚ノ域ヲ脱セスト雖モ漸次發達ノ傾向ヲ示セリ、鐵材料ノ騰貴甚タシカリシト雖モ製糖用竝鐵山用其他ノ機械ノ需要、修繕多ク本年度ニ於テハ未曾有ノ産額ヲ舉ケタリ今製造及修繕價格ヲ内譯スレハ鐵工百六十萬二千八百四十五圓鍛冶四十八萬二千三百四十圓鑄物四十六萬二千四百八十五圓ヲ示セリ而シテ鐵工場所在ヲ地方別ニスレハ臺北廳ハ其尤タルモノニシテ殆ント全生産額ノ約六割ヲ占メ臺南、嘉義之ニ亞クノ有様ナリ左ノ如シ

鐵工業應別表 (鍛冶、鑄物ヲ含ム)

廳別	戶數	職工	製品價額(圓)
----	----	----	---------

廳別	戶數	職工	製品價額(圓)
臺北	一三九	九二	一、四〇八、〇〇〇
桃園	一三三	九一	一、七三九、〇〇〇
新竹	一六	二七	三、〇〇〇
臺中	二四	三三	六、一〇〇
臺南	二四	二九	一、三六、一九〇
嘉義	五	一〇	一、一六、〇〇〇
臺南	六	一〇	一、一六、〇〇〇
阿緞	一〇〇	一四	三、九〇、八〇〇
臺東	六九	一四	四、五五、六〇〇
花蓮	二	三	九、九〇〇
澎湖	三	五	五、二六九
澎湖	四	七	九、九三三
計	九八〇	三〇八	二、五四七、六〇〇
大正五年	九六	二六	一、四四五、八二〇
同四年	八三	二二	一、〇五五、〇〇〇
同三年	八四	二二	七、五六、五二五
同二年	七五	一九	六、五〇、三九九
同一年	七〇	一〇	八、四一、三三五

其ノ中主ナルモノヲ掲クレハ左ノ如シ

第四編 工業 第十八章 鐵工業



工場名稱	所在地	資本金	職工及徒第一日平均使用數	原動機種類	馬力
古賀鐵工場	臺北廳大稻埕下奎府聚街	42,500	八	電動機	100
堤鐵工場	同 牛埔庄	10,000	一七	同	100
原田鐵工場	同 大稻埕下奎府聚街	30,000	三〇	同	75
船灣鐵工場	同 大稻埕得勝街	10,000	五〇	同	50
石井鐵工場	同 基隆堡獅球嶺庄	8,750	三三	同	50
旭鐵工場	同 新興	3,700	四	同	100
佐々木鐵工場	同 哈船頭	4,010	五	同	100
臺北鐵工場	同 大加納堡三板橋庄	100,000	一〇五	汽機 汽機 汽機	2000 2000 2000
基隆鐵工場	同 基隆仙洞庄	23,200	一四	汽機 汽機	1100 1100
高砂鐵工場	同 同田發港庄	6,000	一一	同	100
高砂鑄造會社	同 大稻埕枋寮後街	110,000	四七	同	100
長發鐵工場	同 臺中廳臺中街	5,000	一五	同	100
栗本商店鐵工場	同 嘉義廳嘉義街	5,571	六	石油發動機	100
廣昌號製鐵工場	同 臺南廳臺南市	1,400	八	同	100
泉山號製鐵工場	同	2,100	三	同	50
義和號製鐵工場	同	10,000	三	同	50
越智鐵工場	同	10,000	三	同	50
其亮鐵工場	同 打狗平和町	1,200	二	汽機 汽機	100 100
臺灣製糖工務部鑄物場	同 打狗哈船頭	112,641	一九五	汽機 汽機 汽機	1000 1000 1000

工場名稱	所在地	資本金	職工及徒第一日平均使用數	原動機種類	馬力
吉富鐵工場	阿緞廳阿緞街	4,100	三	電動機	100
臺灣製糖阿緞修繕工場	同 港西中里歸來庄	3,701.2	一六	同 石油發動機	100 80
鹽水港製糖拓殖會社	同 港西上里旗尾庄	2,570	一七	同 電動機	65 50

尙參考ノ爲メ各廳ノ報告ヲ掲クレハ左ノ如シ

臺北廳報告

材料鐵ノ價額著シク騰貴シ七、八、九ノ三箇月ノ如キハ實ニ戰前ニ比シ約五倍ノ暴騰ヲ來セシモ製糖業、礦山業其ノ他機械工場ノ發達ニ伴ヒ益々鐵工品需要增加ノ傾向ヲ示シ殊ニ從來内地ニ注文製造又ハ修繕セシモノ却テ内地ヨリ小口注文アル等一層此ノ景氣ヲ添ヘ又鑄造鐵鍋ハ島内需要大ニ加ハリ加里製造業ノ勃興ハ一層同品ノ需要ヲ起シ業務順調ニアリ廳下ノ主ナル工場ハ臺北鐵工場、原田鐵工場、船灣鐵工場、臺灣鑄造株式會社、高砂鑄造株式會社等ニシテ製品ハ汽機、汽機、タシ、製糖機械附屬品、礦山用品、鐵道用品建築材料品等ヲ主トシ其ノ他雜品及修繕トス又基隆鐵工場ハ普通鐵工業ノ外造船ヲナシ相應成績ヲ擧ケタリ

宜蘭廳報告

廳下ニ於ケル本業ハ今尙幼稚ノ域ヲ脱セスト強モ近時機械的工業ノ發展ニ伴ヒ漸次鐵工品ノ需用モ増加ノ趨勢ヲ示シツツアリ然レトモ本年中ハ鐵材ノ騰貴ト缺乏トニ依リ製造戸數及製品數ニ於テ前年ヨリ多少減少セリト雖モ價額ハ却テ二千六百九十圓ヲ増シテ二萬七千三百九十二圓トナレリ是全ク厚料騰貴ノ結果ニ起因スルモノナリ

臺中廳報告

主トシテ鋤鐵鍬包丁等農具ヲ製造セルモ歐洲戰爭ノ影響ヲ受ケ鐵類ノ騰貴ニ依リ製作活潑ナラス

嘉義廳報告

鐵工業トシテハ工業用品ノ修理製作、家具農具ノ製作ニシテ何レモ小規模ナルヲ免レス製糖業者ハ各修理工場ヲ有シ應急ノ施設ヲナシツツアルヲ以テ著シキ發展ヲ見ス元嘉義製作合資會社ノ工場ヲ經營セル栗本鐵工場ハ稍々各種ノ製作修理ニ任シ新業界ニ重キヲナシツツアリ



第四編 工業 第十九章 木工業

本年ハ鐵ノ暴騰鐵器ノ騰貴船運賃ノ暴騰等ニ衝動セラレ地方的ナル木業ハ反ツテ發展シ鐵ヲ利用シ製造ニ從事セルモノ多ク  
産額及價額共前年ニ比シ著シキ増産ナリ

臺南廳報告 時局ノ影響ニ依リ輸入鐵工品ノ暴騰ト船運賃ノ騰貴トハ島内ノ鐵工業ニ益々好況ヲ與ヘ本年ハ前年ニ比シ著シク其  
生産價額ヲ高メタリ

阿緞廳報告 一般工業ノ漸進ニ伴ヒ鐵工、鍛冶、鑄物等逐年發達ノ狀態ニアリ本年ハ鐵工、鑄物各二戸、鍛冶六十五戸ニシテ製  
造及修繕價額合計四萬五千五百六十四圓就中修繕額其ノ大部分ヲ占ムルモノノ如シ

第十九章 木工業

本業ハ主トシテ本島人向ノ家具製造ヲ意味ス本年ニ於ケル斯業ノ消長ハ木材價額ノ著ルシキ騰貴ア  
リシニモ拘ハラズ民度ノ向上ト財界ノ好況ト相俟テ昨年ニ比シ製品價額ニ於テ著ルシキ増加ヲ見  
タリ即チ左表ニ示スカ如シ

木工業戸數及産額應別表

廳別	戸數	職工	製品價額	廳別	戸數	職工	製品價額
臺南	二二	三九	一四八二四九	中投	二六	五七	一四九四九
宜蘭	六二	二四	一五八〇五	嘉義	六三	一一	三八二四六
桃園	六五	一五	三〇一〇〇	南義	一三八	三〇	九〇〇三五
新竹	一〇六	二七	五一〇〇	南義	六七	一五	一〇一、二〇〇

第四編 工業 第十九章 木工業

參考ノ爲メ各廳ノ報告ヲ左ニ掲クヘシ

臺北廳報告 家具ノ製造ヲ主トナシ廳下各地ニ於ケル斯業ハ百餘戸ニ及フ本年ハ材料木材價額六割以上甚タシキハ二、三倍ニ騰  
貴シ製品從テ著シク昂騰ヲ告ケタルモ需要ハ民度ノ向上ト財界ノ順調ニ依リ増加ノ傾向ヲ示シ殊ニ内地人製造指物類ニ島内  
需要ノ外地移出好況ヲ呈シ荷捌キ活潑ニシテ從來ノ停滯品一掃ノ觀アリ而シテ本年産額ハ約十五萬圓ニ達シ斯業概シテ好  
況ニ經過セリ

廳別	戸數	職工	製品價額	廳別	戸數	職工	製品價額
阿緞	九六	一六六	四八七六八	大正	九二	一〇一一	五七七八五
花蓮	六六	一〇	七二〇	四年	七九	一八六	四八二八三
澎湖	四八	一〇	四四〇〇	三年	六五	一六二	四八八五八
計	九九	一〇	二一〇〇	二年	七三	一五四	四二〇〇一

宜蘭廳報告 廳下ニ於ケル木業ハ主トシテ家具ノ製造ヲ爲スモノ多數ヲ占ム殊ニ本島人ノ家屋ノ構造ハ家具ノ使用割合ニ多ク且  
少民度ノ向上ト共ニ益々需用増加シ從テ其ノ産額モ比年増加ノ傾向ヲ呈シツツアリ即チ本年中ニ於ケル製産價額ハ一萬五千  
八百五圓ニシテ前年ニ比シ一千八百七十七圓ヲ増加セリ是レ原料及工賃ノ昂騰ニモ因ルヘキモノト思考セラル

臺中廳報告 家作梁等工事ノ爲メ木工業者ハ常ニ忙カシク指物職ハ卓椅子等ノ製作ニ從事シ需要増加ノ傾向アリ

嘉義廳報告 阿里山材ノ製材ハ營林局嘉義工場ノ宏大ナル規模ヲ以テ製材セラルル外之レニ附屬スル木材會社並ニ個人經營ノ製  
材能力發揮ニヨリ漸次普及ヲ見爲メニ建具指物家具等各種木工品ノ産額増加セリ單ニ家具ノミノ製造高八萬七千四百七十圓  
ニシテ前年ヨリ増加シ農具類ノ生産モ亦五萬圓内外ニ達ス

臺南廳報告 木工業ハ製品數量ニ於テ前年ニ大差ナキモ原料木材及職人手間賃ノ騰貴ニ依リ製品價額ニ於テ著シク増額ヲ示セリ



第四編 工業 第二十章 竹器製造業

阿緱應報告 主トシテ家具類ニシテ逐年増加ノ傾向ニアリ前年ノ家具製造戸數八十九戸ニ比シ本年八九十九戸トナリ職工ノ百二十九人ハ百六十六人トナリ製品價額四萬八千七百餘圓ニシテ前年ニ比シ一萬五千餘圓ノ増加ヲ見タリ

第二十章 竹器製造業

本島ニ於ケル竹器ノ需要ハ極メテ廣汎ニシテ本島人生活必需品トシテ使用サルル額頗ル多シ、且原料豐富ニシテ此ガ製造ハ薄資者ト雖モ容易ニ經營シ得レド之カ改良ヲ施サザルガ故ニ未タ顯著ナル進步ヲ示スニ至ラサルハ惜ムベシトス、本年ハ材料ノ騰貴アリシニモ拘ハラズ生産額増進ノ一途ニアリ左ノ如シ

竹器製造戸數及産額應別表

廳	別	戸數	職工	價額	廳	別	戸數	職工	價額
臺	東	一	一	一	澎湖	同	一	一	一
阿	南	二	二	二	同	同	二	二	二
臺	義	三	三	三	同	同	三	三	三
嘉	投	四	四	四	同	同	四	四	四
南	中	五	五	五	同	同	五	五	五
臺	竹	六	六	六	大	正	六	六	六
新	園	七	七	七	正	三	七	七	七
桃	蘭	八	八	八	正	四	八	八	八
宜	北	九	九	九	正	五	九	九	九
臺	計	十	十	十	計	計	十	十	十

尙參考ノ爲メ各廳ノ報告ヲ掲クレハ左ノ如シ

臺北應報告 廳下ニ於ケル竹器ノ需要ハ極メテ廣ク且ツ其ノ製造業ハ薄資ノモノト雖モ容易ニ經營シ得ルヲ以テ製造戸數二百五十餘戸ノ多數ニ及ヘリ然レトモ其ノ製造ハ概シテ價額低廉ナル粗雜品ニ係リ廳下ノ需要ヲ充スニ過キサレモ産額八年々増加ノ趨勢ヲ示シ材料及工賃等騰貴ノ爲製品價格二、三割昂騰セルニ拘ハラズ前年末續業ノ勃興ニ依リ石灰運搬用竹器ノ需要額ニ加ハレリ又内地人經營ノ竹器ハ美術的家用具ニシテ内地人ノ嗜好ニ適シ島内消費又ハ内地注文著シク増加シ人手不足ノ好況ヲ呈シ頗ル順調ニ經過セリ而シテ廳下本年ノ産額ハ約六萬圓トス

宜蘭應報告 廳下ニ於ケル本業モ亦極メテ幼稚ニシテ製品甚々粗雜ナリト雖モ其ノ需用ハ頗ル廣汎ナルノミナラス薄資ノ者ト雖モ容易ニ之ヲ經營シ得ルカ故ニ製造者ハ逐年増加ノ傾向アリ

臺中應報告 主タル竹器ハ本島人用寢臺椅子戸棚ニシテ粗雜ナル製品ナリ然レトモ價格廉ナルヲ以テ需要多シ

嘉義應報告 家具、農具等頗ル廣汎ニ涉リ何レモ粗雜ナレトモ克ク日用品トシテ使用ニ耐ヘ管外ニ搬出スルモノ夥シ明治四十二年以來竹器製造傳習所ヲ創設シ之レカ改良ニ努メシ結果藤若クハ木材ヲ混用シテ比較的精緻ノモノヲ出スニ至ル近時阿里山材ノ普及ニ連レ多少木工家具類ニ壓セラレルモノアリシカ近時ニ至リ漸ク木材ノ騰貴ニヨリ再ヒ之レカ製造モ盛況ヲ見ルニ至リ一面工藝用材ノ搬出セルト檢用箱ノ搬出ヲ見斯業ノ面目ヲ保持シツツアリ

阿緱應報告 業應幼稚ニシテ甚々振ハス何レモ在來式本島人椅子、農具、家具等ノ製作アルニ過キス本年申ノ製造戸數百二十九戸産額一萬八千餘圓ナリ

第二十一章 石灰製造業

土木建築工事用トシテ藥用トシテ石灰ノ本島ニ於テ使用サルル額頗ル多ク且石灰岩豐富ナルカ故之



第四編 工業 第二十一章 石灰製造業

カ製造モ亦旺ニシテ比年内地ヨリノ移入ヲ遞減シツツアリ、漸次島内ノ需要額ヲ充スニ足ル生産ヲナスニ至ルヘシ、但本年ハ石灰ノ暴騰ト建築界ノ不振トニヨリ産額幾分前年ニ比シ減少セリ即チ左ノ如シ

石灰製造戸數及産額應別表

廳別	戸數	職工	製品額	價額
臺北	四八	二一八	九二八、五九四	四、五七〇
宜蘭	三三	二五	一〇、〇〇〇	八、三三六
桃園	七	三〇	一、九五〇〇〇	六、二九三
新竹	三	六	一、八〇八〇	一一、一一一
臺中	二	三〇	一、二〇〇、〇〇〇	一一、一〇〇
嘉義	一	四	五〇、〇〇〇	五、〇〇〇
臺南	一	八	二、七〇、〇〇〇	二、七〇一
阿緬	一	二	五、〇〇〇、〇〇〇	五、〇〇〇
臺東	四	一一	二、四八〇	一、七六
花蓮	一	一	一、三〇、〇〇〇	一、三〇〇
澎湖	一	一	一、五〇、〇〇〇	一、五〇〇
計	二二五	六〇七	三、七三、七二四	一、六四、四三三

大正	同	同	同	同
五年	四年	三年	二年	元年
一九六	二〇四	二〇〇	二二	一
一、二七六	五三三	五二四	六〇六	一
二九、一六、一五六	二六、二七、二二五	二五、一〇、一一七	三二、五、三九三	一
一、五九、八六四	一、四六、七〇一	一、四一、七八〇	一、八〇、七七九	一

尙参考ノ爲メ各廳ノ報告ヲ左ニ掲クヘシ

臺北廳報告 廳下ニ於テハ臺北基隆淡水地方ヲ主ナル産地トシ土木建築其他工業用トシテ廣ク需要セラルル斯業ハ島内土木建築界ノ順否ニ依リ年々多少ノ消長ヲ免レズト雖本年ハ前年ニ比シ別ニ著シキ變動ヲ見ス産額ハ約一千萬斤内外ナリ

宜蘭廳報告 本業モ未ダ著シク發展スルニ至ラサルモ石灰ノ需用ハ比年増加ノ傾向ヲ示シ殊ニ其ノ原料タル石灰岩ハ頗ル豊富ニシテ且ツ良質ナレハ漸次産額ノ増加ヲ來スハ蓋シ疑ナシ

臺中廳報告 石灰原料ハ澎湖島及臺中廳沿岸ニ於テ之ヲ求メテ製造シツツアリ年々追テ産額ヲ増加セリ

臺南廳報告 石灰ハ主トシテ製糖工場及建築用ニ供用セラルルモノナルカ本年ハ石灰ノ暴騰ト建築ノ不振トニ因リ生産額ヲ減セリ

花蓮港廳報告 廳下ノ石灰製造戸數ハ五月ニシテ職工計十四有シ十五萬三千斤ヲ製造セリ價格千三百二十二圓ニシテ前年ニ比シ産額三十八萬五千八百斤價格三千二百五十七圓ヲ減シタルハ職人ノ沸底ト共ニ一般ニ需要少ナカリシニ因ル

第二十二章 製靴業

最近本島人風俗ノ推移ニ伴ヒ洋靴ヲ穿ツ者年々増加ノ趨勢ニアリシカ戰亂ノ永引クニ連レ牛皮其他



ノ諸皮原料騰貴シ中流以下ノ本島人ハ再ヒ本島式ノモノヲ使用スル傾向ヲ呈セリ左ノ如シ  
製靴業戸數及生産額應別表

同 大 計	同 正 五 年	同 四 年	同 三 年	別 戸 數	職 工	製 品 額(足)		價		計
						西 洋 形	本 島 式	西 洋 形	本 島 式	
同 計	同 計	同 計	同 計	同 計	同 計	同 計	同 計	同 計	同 計	同 計
臺 北	臺 北	臺 北	臺 北	40	84	10,110	3,453	9,910	5,675	15,585
宜 蘭	宜 蘭	宜 蘭	宜 蘭	5	7	2,650	66	1,093	187	2,940
桃 園	桃 園	桃 園	桃 園	5	7	1,950	66	1,950	187	2,137
新 竹	新 竹	新 竹	新 竹	3	6	1,010	99	630	197	1,837
臺 中	臺 中	臺 中	臺 中	3	6	1,845	36	2,290	179	2,469
南 義 投	南 義 投	南 義 投	南 義 投	1	4	36	36	2,290	179	2,469
嘉 南	嘉 南	嘉 南	嘉 南	1	4	36	36	2,290	179	2,469
臺 南	臺 南	臺 南	臺 南	1	4	36	36	2,290	179	2,469
阿 羅 漢	阿 羅 漢	阿 羅 漢	阿 羅 漢	1	4	36	36	2,290	179	2,469
花 蓮	花 蓮	花 蓮	花 蓮	1	4	36	36	2,290	179	2,469
澎 湖	澎 湖	澎 湖	澎 湖	1	4	36	36	2,290	179	2,469
計	計	計	計	116	240	11,830	2,977	11,956	3,395	15,351

同 元 年	同 二 年	同 一 〇 年	同 一 九 〇 年	同 一 〇 六 一 年	同 一 九 二 六 年	同 一 〇 三 六 一 年	同 一 九 三 〇 八 年	同 一 九 三 五 四 年
101	111	108	110	106	112	103	108	115
111	111	108	110	106	112	103	108	115
111	111	108	110	106	112	103	108	115
111	111	108	110	106	112	103	108	115
111	111	108	110	106	112	103	108	115
111	111	108	110	106	112	103	108	115
111	111	108	110	106	112	103	108	115
111	111	108	110	106	112	103	108	115
111	111	108	110	106	112	103	108	115
111	111	108	110	106	112	103	108	115

尙參考ノ爲メ各應ノ報告ヲ掲ク左ノ如シ

臺北應報告

近年本島人ニシテ西洋靴ヲ穿ク者増加シタルヲ以テ從來支那靴ノミ製造シタル本島人靴商モ西洋靴ヲ兼造シ支那靴ノ漸次減産ノ趨勢ニ有リシカ皮革類暴騰シテ戰前ニ比シ約二倍半トナリ革製靴ノ價額著シク向上セシメ平年一足平均五六圓ノモノ本年八十圓内外ニ騰貴セルヲ以テ需要減退ノ傾向ヲ來シ價額低廉ナル支那靴(平均一足二圓内外)ノ需要ニ増加シタルカ如シ

宜蘭應報告

應下ニ於ケル本業ハ從來支那靴ヲ製造スル者多カリシカ近來本島人男子ノ洋服ヲ着用スル者多ク且ツ婦人ノ解纏足ヲ行ヒタル結果男女子用洋靴ノ需用額ニ増加シ製品ノ管外ヨリ移入セラルルモノ頗ル多ク需用増加ノ割合ニ生産高ノ増加セサルハ結局仕入品ノ體裁良ク且ツ割安ナルカ爲ナリ故ニ本年中ノ産額ハ支那靴六百二十六足價額一千八百七十八圓洋靴二百六十五足價額一千〇九十三圓ニシテ前年ニ比シ産額ニ於テハ多少減少セルモ材料騰貴ノ爲價額ハ七百圓ヲ増加セリ

臺中應報告

歐洲戰亂ノ影響ヲ受ケ牛皮其他ノ諸原料騰貴シ製靴業者ハ著シク打撃ヲ蒙リ且ツ牛皮ノ缺乏ニ依リ製造意ノ如クナラス從テ製造數量ニ於テ減少ヲ來セリ

臺南應報告

風俗ノ推移ニ依リ前年迄ハ本島式革ハ漸次需用ヲ減シ内地式靴ノ需用激増ノ趨勢ナリシカ本年ニ入り皮革暴騰ノ結果中流以下ノ本島人ハ再ヒ本島式ノモノヲ用フル傾向ヲ呈シ之ニ伴ヒ生産額ヲ幾分増加ヲ示セリ

第二十三章 製藍業

本島ニ於ケル製藍ノ原料ハ山藍及木藍ノ二種アレト普通醱酵法ニ據ル本島式泥藍製造業ハ人造藍ノ



爲メ漸次販路ヲ侵食セラレ一方近年ノ蔗作及米作ノ好況ハ之カ作付平地栽培甲數ノ減少ヲ見ツツアリテ僅カニ山地ニ栽培セラルルノ狀況ナリ、戰亂ニ基ク染料ノ異常ナル暴騰ニ依リ本島製藍モ昨年度ニ於テ復活スルヤト思ハレタルカ本年度ニ至リテハ山藍ニ小許ノ増加ヲ告ケタルノミニシテ木藍ニ至リテハ非常ノ減退ヲ見ルニ至レリ左ノ如シ

製藍戸數及生産額應別表

(1) 原料トシテ山藍ヲ使用シタルモノニシテ  
他ハ木藍ヲ使用シタルモノナリ

廳別	製造戸數	製造高價	應別	製造戸數	製造高價	價額
臺北	11	11,000	阿 港	1	4,824	2,859
宜蘭	1	1,000	花 蓮	1	1,010	1,826
桃園	1	1,000	計	3,049	2,979,996	3,908
新竹	1	1,000	大 正	3,583	4,523,366	2,311,118
臺中	1	1,000	四 年	2,796	2,247,724	1,977,474
嘉義	1	1,000	三 年	3,061	4,599,544	1,911,111
臺南	1	1,000	二 年	3,342	3,018,838	1,134,444
高雄	1	1,000	一 年	3,353	2,679,885	1,518,577
總計	17	17,000	同 年	4,328	8,549,010	4,087
			同 元		3,219,455	1,960,611

尙參考ノ爲メ各廳ノ報告ヲ左ニ掲ク

臺北廳報告 一時衰頹ニ赴キシ泥藍製造業ハ戰亂突發以來外國染料輸入杜絶シ一般染料價額暴騰ヲ告ケタルヲ以テ本品ノ需要

頓ニ増加ノ傾向ヲ示シ價額百斤六圓乃至七圓ノ高値ヲ唱ヘシカバ前年來原料木藍各地ニ栽培セラレ製品著シク劇增ヲ來タシ一方藍靛製造又新ニ勃興シ臺灣染料合資會社ノ外國人製造者共ニ相應ノ生産ヲ見タルモ内地製品並ニ外國染料殘庫品等ノ市場出廻ニ依リ價額漸次低落シ收支均衡ヲ得ス前年末ヨリ藍靛製造業ハ悉ク休止シ泥藍製造モ亦漸次常態ニ歸セントスルノ傾向アリ

宜蘭廳報告

廳下ニ於ケル木業ハ專ラ泥藍ニシテ昔時ハ相當ノ産額アリシモ近來漸次減退ノ一方ニ傾キツツアリ故ニ當廳ニ於テハ泥藍ニ代フルニ藍靛ヲ以テスヘク曩ニ督府ヨリ藍靛製造器具ノ保管轉換ヲ受ケ之カ獎勵ヲ試ミタルコトアリシモ管内ノ染色業者ハ一般ニ泥藍ノ使用ヲ便ナリト稱シ藍靛ヲ歡迎セザル傾向アリ從テ之カ製造ニ從事スル者殆ント絶無トナレリ

臺中廳報告

歐洲戰亂ノ爲メ染料益々騰貴シ利益増加ヲ見ルニ至レルヲ以テ木藍種ノ栽培ヲナスモノ増加シ從テ製藍高騰増セリ

嘉義廳報告

染色原料ノ暴騰ハ一時天井知ラスト唱フル程ニテ之レカ爲延テ木藍ノ栽培増加シ泥藍ノ製造及木藍、山藍ノ原料トシ藍靛ノ製造ヲ見ルニ至リ前年ニ於テハ大ニ曙光ヲ認ムル所アリシカ本年ハ其後價額ノ變動ニ左右セラレ産額減少セリ

臺南廳報告

製藍原料タル木藍ハ本年ノ天候低溫多雨ノ爲メ同作ノ收量ヲ殆ント半減セシメ泥藍ノ産額ヲ著シク減産セシメタリ

阿緬廳報告

各種染草ノ騰貴ニ伴ヒ好況ノ模様アリ製造戸數ニ於テ前年ノ百四十一戸八百四十七戸トナリ醃酵槽百六十七箇八百八十一戸トナリ産額四十萬八千二百四十八斤價額二萬八千五百七十九圓ニシテ前年ニ比シ産額一萬九千七百二十八斤價格七千二百七十六圓ノ増加ナリトス

第二十四章 染色業

前報所載ノ如ク本島ノ染色法ハ支那在來ノ舊法ニ據リ頗ル手數ヲ費シ價格割合ニ高價ナリシガ此ガ特長トシテ耐久力強キ爲メ未タ遽ニ衰退ニ傾カサリシモ其原料タル天然泥藍ハ漸次人造藍ニ抑壓セ



第四編 工業 第二十四章 染色業

ラレ從ツテ從來ノ本島染ノ特色ヲ失ハントシツツアリ、若シ夫レ近時内地布帛モ本島需要者ノ嗜好ニ從ヒ夫々染色ノ上移入セララルモノ益々多クレハ本島ニ於ケル斯業經營者ヲシテ漸次困難ニ陥ラシメントスルノ傾向アリ、只歐洲戰亂ノ餘影ハ幾分斯業從事者ヲシテ復活セシメタルガ如ク戶數ニ於テ少シク減退セルノミニシテ生産額價額共幾分増加セリ左ノ如シ

染色業戶數應別表

大正五年	廳名	戶數	職工數	仕上		高價額
				數	價	
計	臺北	三三	三三	四六四五四	一八九五三	一、九〇七、七
	宜蘭	二二	三五	三六二六	六〇〇三	一、九〇七、七
	桃園	一六	三八	一四四一九	五、三三三	一、九〇七、七
	新竹	三三	一七	一八九五八	五、二八六	一、九〇七、七
	臺中	四四	三三	三九、九八六	三、七、〇八六	一、九〇七、七
	南投	五	三	三六、九八〇	五、七、四三三	一、九〇七、七
	嘉義	四	三	二、七、四四六	三、三、七七八	一、九〇七、七
	臺南	四	三	二、九、八九五	三、六、八四三	一、九〇七、七
	阿緬	一五	六	一八、六八六	五、一、七三二	一、九〇七、七
	總計	二四七	九七	一、〇〇九、六九〇	一、〇〇九、六九〇	一、九〇七、七
	大正五年	二八二	九二八	八、三、五九一	一、九〇七、七	一、九〇七、七

尙參考ノ爲メ各廳ノ報告ヲ左ニ掲ク

**臺北廳報告** 廳下ニ於テ使用セララル染料ハ外國製染料内地製硫化染料下産泥藍及支那產栲皮等ニシテ外國産ハ輸入杜絶在荷品薄ニシテ栲皮ハ銀價暴騰ノ爲メ硫化染料及泥藍ハ一般物價騰貴ニ伴ヒ共ニ何レモ價額昂騰ノ結果ハ從來廳下ニ於テ染色シタル本島人衣服モ内地製著色反布ヲ使用スルノ傾向ヲ生シ斯業閑散ノ狀ヲ呈シタルモ仕上高ハ例年ト大差ナク約二十萬圓ヲ算シタリ

宜蘭廳報告

染色業モ亦漸次衰頹ノ傾向アリ由來廳下ノ染色業ハ支那在來ノ舊式ニ依ルモノニシテ頗ル多クノ手數ヲ要シ價額割合ニ高價ナルト近來内地布帛ノ本島需要者ノ嗜好ニ適スヘク夫々染色ノ上移入セラレ價額モ亦比較的低廉ナルトニ依リ斯業ノ經營漸ク困難ナラントスルノ狀態ナリ即チ本年中ニ於ケル原料消費高ハ泥藍其他合計十萬三千九百斤ニシテ前年ヨリ八千三百斤ノ減少ヲ見ルニ至レリ

新竹廳報告

新業ハ前年ニ比シ著數増加シ反數ニ於テ約七萬反ヲ増セリ是レ一般需要ノ劇増ニ基クヘシト雖トモ對岸輸入ノ色綿布近時其ノ跡ヲ絶チ内地製白木綿ノ移入之ニ代リ嗜好ニ應ジ專ラ島内ニ於テ染色セララル結果ト見ルヘク本年中ノ染色高一八五、五六八反此價額五一七、九〇六圓ノ多額ニ上レリ

臺中廳報告

染色原料山靛ヲ用ヒ藍色最モ多シ原料騰貴ヲ告ケ前年ニ比シ一般ニ不況ナリキ

嘉義廳報告

染色業者モ輸入化學用品ノ杜絶ト共ニ再ヒ泥藍ヲ使用スルニ至リ泥藍ノ價額ハ反テ好調ニ向ヒツツアリ







第四編 工業 第二十六章 加里工業

來シ新店深坑ノ山方地方ニ粗製加里製造者大小三十六名本年中産額六十三萬餘斤、價額一萬三千餘圓ニ達ス臺北及基隆ニハ精製加里製造者五名アリテ廳下及桃園、新竹臺中廳下産粗製加里ヲ原料トシテ精製シ製品百餘萬封度價額約五十萬圓ヲ産シ荷捌キ頗ル順調ヲ示セリ且ツ内地商來糶粗製加里ノ買收ヲ爲シ内地移出亦尠カラス斯業ノ活躍世人ノ注目ヲ引クモノアリ而シテ年末ニ及ヒ需要益々加リ價額昂騰ヲ告ケシカハ工場ノ擴張又ハ同業者増加ノ傾向ヲ示シ斯業大ニ好景氣ヲ以テ經過セリ左ニ參考トシテ精製品ノ價格ヲ示サン

精製炭酸加里百封度價額	六〇圓
品 質	九五%
同	九〇%
同	五〇圓
同	四〇圓
同	八〇%

宜蘭廳報告

時局ノ影響ヲ蒙リ近時加里製造業ノ各地ニ勃興セルヲ見ル今廳下ニ於テ本年初メテ起レル本業ノ概況ヲ述フレハ(一)宜蘭林業株式會社ハ宜蘭平野ニ近キ各方面ノ山地ニ於テ雜草及雜木ノ拂下ヲ受ケテ原料トシテ粗製加里ノ製造ニ從事セリ本年中ニ於テ生産シタル粗製加里ハ五萬二千五百斤價額八千九百二十五圓ニシテ製品ハ全部蘇灣重炭酸加里製造工業ニ供給シツツアリ(二)坪林尾加里工場ハ成宮小十外一名ノ共同經營ニシテ大正六年十月中坪林尾支廳蕃地桶後緩方面ニ於テ雜木及雜草ノ拂下ヲ受ケ煖製製造ノ準備ニ著手シ一萬六千七百斤價格三千餘圓ノ粗製加里ヲ製造シ更ニ之ヲ坪林尾庄ニ在ル工場ニ移シ炭酸加里ヲ精製シ約七千二百封度價額二千六百六十圓ヲ得タリ本業ハ本年初メテノ經營ニシテ充分ノ效果ヲ擧ケルニ至ラサリシモ其ノ製品ハ九五%以上ニシテ概シテ成績良好ナリト云フ(三)桃園廳下ノ本島人簡阿牛ハ製腦事業ノ旁フ坪林尾支廳蕃地金瓜寮方面ニ於テ等シク雜木及雜草ノ拂下ヲ受ケ粗製加里ノ製造ニ從事セリ本年中ニ於テ生産シタル粗製加里ハ二萬六千五百五十斤價額三千九百八十二圓餘ニシテ重ニ臺北地方ニ搬出シツツアリ(四)蘇灣重炭酸加里製造工場ハ中山仁二郎外一名ノ共同經營ニシテ工場ヲ利澤簡堡葉箕湖庄ニ置キ同所附近即チ七星嶺山脚一帶ヨリ噴出スル天然炭酸瓦斯ヲ利用シ原

桃園廳報告

時局ノ影響ニ依リ新ニ勃興シタルハ化學工業ナルカ日淺ク未タ多量ノ製品ヲ産出スルニ至ラス

製品ノ種類	製造所及在 地	經 營 者	産 額	價 額
粗製炭酸加里	大嵙崁支廳蕃地水流東角板山ハブン、ツライ、セブナイ	三井合名會社臺灣出張所 星野政敏	八四三五斤	一〇、七二一圓
同	未定	萬基公司	—	—
同	同	簡阿牛	—	—
計			八四三五	一〇、七二一
粗製炭酸加里	咸菜礪支廳蕃地赤柯坪	大澤小次郎	四七九四〇	一、九一七圓
鹽 化 加 里	同	同	一、一〇〇	一、一〇〇
精製炭酸加里	桃洞堡石頭庄	黃聖必	一〇、〇〇〇	四、三〇〇
同	同	同	一、一〇〇〇	四、八〇〇
同	同	同	一、一〇〇〇	八、六〇〇
同	同	同	一、一〇〇〇	五、一〇〇
同	同	同	一、一〇〇〇	一、〇〇〇
計			四〇、一三〇	一、〇〇、〇三三

第二十七章 カーバイト工業

本業モ亦加里工業ト同シク戰時中ニ勃興セルモノニシテ本島ニハ之ガ原料豊富ナレハ將來有望ナル



(332)

## 第四編 工業 第二十七章 カーバイト工業

ニ至ルヘシ、目下本島ニ於テハ臺北廳下ニ臺灣電気工業會社アルノミ、同社ノ現状ヲ同廳報告ニ據テ見ルニ同社ハ大正五年未ノ設立ニシテ一箇月二十萬封度ノ製造能力ヲ有シ本年八百二十餘萬封度ヲ製出セリ本品ハ從來單ニ點燈竝ニ金屬溶接等ニ使用シタルニ止マリシモ近時化學工業ノ發達ニ伴ヒ硫安ノ原料用トシテ消費セラルルモノ噸ニ増加シ内地製品ノ不足ト各種原料ノ騰貴ハ價額ノ昂騰ヲ促シ年初百封度七圓内外ノモノ七、八月ニ至リ十二圓臺ヲ突破シ年末ニ及ヒ益々暴騰ノ情勢ニシテ前途頗ル有望ナルモノアリ而シテ本島需要額ハ從來百三、四十萬封度ニシテ主ニ點燈用、漁業用、鑛山用等ナリシカ本年ハ鑛業ノ發展竝ニ鐵道工事等需要増加ノ傾向ヲ來セシモ價額ノ暴騰ハ一般消費量ヲ減少セシモノノ如ク全島消費量八百萬封度内外ナランカ

## 第六編 商業



(332)

## 第四編 工業 第二十七章 カーバイト工業

ニ至ルヘシ、目下本島ニ於テハ臺北廳下ニ臺灣電気工業會社アルノミ、同社ノ現状ヲ同廳報告ニ據テ見ルニ同社ハ大正五年末ノ設立ニシテ一箇月二十萬封度ノ製造能力ヲ有シ本年八百二十餘萬封度ヲ製出セリ本品ハ從來單ニ點燈竝ニ金屬溶接等ニ使用シタルニ止マリシモ近時化學工業ノ發達ニ伴ヒ硫安ノ原料用トシテ消費セラルルモノ噸ニ増加シ内地製品ノ不足ト各種原料ノ騰貴ハ價額ノ昂騰ヲ促シ年初百封度七圓内外ノモノ七、八月ニ至リ十二圓臺ヲ突破シ年末ニ及ヒ益々暴騰ノ情勢ニシテ前途頗ル有望ナルモノアリ而シテ本島需要額ハ從來百三、四十萬封度ニシテ主ニ點燈用、漁業用、鑛山用等ナリシカ本年ハ鑛業ノ發展竝ニ鐵道工事等需要増加ノ傾向ヲ來セシモ價額ノ暴騰ハ一般消費量ヲ減少セシモノノ如ク全島消費量八百萬封度内外ナランカ

## 第六編 商業



# 第六編 商業

## 第一章 總論

本年ノ臺灣通商貿易ハ移輸出一億四千五百八十萬三千七百三十三圓移輸入八千八百八十八萬七千三百六十一圓總額二億三千四百六十九萬一千九十四圓ニシテ之ヲ前年度ニ對比スレハ移輸出額ニ三千三百四十五萬餘圓即チ三割弱ヲ移輸入額ニ二千三百八十六萬餘圓即チ三割六分強ヲ何レモ増加シ結局合計總額ニ於テ五千七百三十二萬餘圓即チ三割二分強ヲ増加シ未曾有ノ高額ヲ示セリ斯ク顯著ナル貿易ノ増加ノ主因ハ砂糖、酒精、米、芭蕉實等ノ移出激増ト石炭、包種茶、石油及仲繼品タル海產物、綿織物、麥粉ノ輸出増加ト肥料、鐵材、鐵道建設用材料、木材其他仲繼輸出品タルヘキ諸品ノ移入増加、及囊類ノ輸入増加ニ基因セリ、而カモ歐洲戰亂愈進ムニ從ツテ食料品、原料品及精製品ノ價格ヲ昂騰セシメ本邦經濟界ノ般賑ヲ招致シ本島モ之ノ餘慶ニ浴シ依テ以テ本年ノ本島貿易額ガ新記録ヲ造ルニ至リシナリ

本年度貿易月別表左ノ如シ

島外貿易月別表 (單位圓)



月次	出		入		計	
	移出	輸出	移入	輸入	移出	輸入
一月	二二五九二四三	三一九〇二四三	三八七二七六	一七三三三六	五六一二九三三	一六四一四三二
二月	一四五〇六八四	四六〇三二八一	四六三三五四九	一六五四四二	一九一八四三三	五九七九二九
三月	一四〇六二六四	三八〇八五二二	六二四七一三〇	一三三三九〇	七八〇一三三三	二〇三二三四四
四月	一一八六八二六	一七七八七七七	六二〇九三五	一五九七四七六	七八〇六七二	一八〇三六二二
五月	一〇五九二七六	四四五一九四〇	五三六四五三	一六四四五八	六九八九〇〇	一五九一三八八
六月	七二四九二八六	四一八一八九九	四四九七七一	一八〇六七四	六三三九九九五	一八〇八四六七
七月	七二四四七四	二五五六一四四	五〇九七八五四	一五七三〇八	七〇〇九七四	二〇三二五二九
八月	六五九〇四一	二四二二三五	五四四六四八	一五七三〇八	七〇〇九七四	二〇三二五二九
九月	五二九七四五	四四八二三五七	六〇六六〇二	一八〇六七四	七〇〇九七四	二〇三二五二九
十月	四四四一六〇五	二二六八五四三	五九七九七	一五七三〇八	七〇〇九七四	二〇三二五二九
十一月	三五六六八八九	二〇六七六七	七〇六六九七	一五七三〇八	七〇〇九七四	二〇三二五二九
十二月	八〇四七二〇	三二一六三三八	七五七四三二	二九八三三〇	一〇五五八〇八	一五六一二二二
計	一〇五、五七九、四三二	四〇二、二五七、九二一	六七、七九七、九二五	二二〇、九九九、三三六	八八八、八七三、三六二	一、七三三、七五九、七
大正五年	八〇六九七四七	三二六、五七四、四二二	四九、九一六、三三三	一五、四三〇、〇二七	五五、三三六、三六〇	一、〇二二、八七〇、七
同四年	六〇、一九二、八九六	一五、四三〇、〇二七	四〇、六二七、八〇	一、二七八、一七八	五五、四〇九、六三八	一、〇〇八、〇七五、六
同三年	四、五七三、八一六	二、九八二、二二四	五、八七〇、四四〇	一、三〇二、九九七	五、二七二、五五九	八、五三六、六八五
同二年	四、〇四三、九二七	二、九四二、四四二	四、二八九、八八五	一、八〇三、三三三	六、〇九七、二六〇	八、三三三、七九二
同元年	四、七三六、〇〇六	一、四九六、〇二八	四、三三三、〇三三	一、九三〇、七二六	六、二六六、七五九	九、〇五九、九七九
明治四十四年	五、一五〇、三〇二	一、三二七、五九〇	三、七二八、八二二	一、九五六、五〇七	五、〇八三、三二九	三、二七〇、六三三

本島移出貿易ハ主トシテ食料品及原料品ナルガ本年ハ天候適順ナリシガ爲メ稀有ノ豊作ヲ告ケ且内地經濟界ハ工業ノ勃興ト海外輸出ノ盛大トニヨリ益々活躍シ前述セル如ク本島移出品ニ好影響ヲ與ヘ未曾有ノ巨額ニ達セリ、砂糖ハ作柄、價格其殆ント天祐トモ稱スヘキ程ノ好果ヲ收メ前年度ヨリ一千六百六十六萬圓ヲ増加シ米芭蕉實亦五百六十五萬圓ノ出増ヲ見タリ酒精ハ内地工業ノ勃興ニヨリ、益々其需要多ク一千万圓ヲ突破スルノ盛況ニアリ其他烏龍茶ノ移出額前年度ヨリ二百萬圓餘増加セルハ船腹ノ關係ニテ内地ヲ經由セシモノ多カリシニ因レリ、減退セル主ナルモノハ生皮、樟腦樟腦油、姜黃等ニシテ何レモ産額減少モルニ本ヅク結局合計ニ於テ前年度ニ比シ二千四百八十七萬餘圓ノ出超ヲ見ルニ至レリ即チ左ノ如シ

重要移出品前年對照表

明治四十三年	四七、九三三、七五二	一一、九八六、〇九六	五九、九三三、八四八	二、〇七〇、〇九五	一、九八五、二六一	四八、七二二、六七	七、七〇〇、七四七	三、一八八、六五五	一〇、八八六、〇〇五
同四十二年	三六、三〇九、五〇〇	一一、六八七、七六	四七、九九九、二六	二、四〇六、八八三	一、二五九、一四〇	三六、九八八、一三三	六、〇二一、六三〇	二、四二七、九〇四	八、四一五、三九九
同四十一年	二四、四三三、八七	九、二九七、八九八	三三、七三二、七六	二、〇九六、八八八	一、七〇七、四七七	二八、〇〇一、六二五	四、五五〇、二四六	二、六三三、六六四	七、一七三、九一〇
同四十年	一七、六四六、七三	五、七四一、四九九	二三、三八八、二二	一、九七五、〇四五	一、二二〇、六八五	二〇、九七一、二〇	三、七三三、八二一	二、〇九二、二二四	五、八二六、〇二四
同三十九年	一八、二五九、五二八	九、七七九、〇〇四	二八、〇三八、五三二	一、五六三、四三三	一、二七三、七四〇	二八、三三二、八〇一	三、三八九、八九六	二、二五六、九五四	五、六四四、〇四二
同三十八年	一三、六六一、五〇〇	一〇、六二九、六二七	二四、二九一、一〇七	一、三四八、三八三	一、〇九三、三八七	二四、四七七、〇	二、七三四、五三三	二、二五三、四八四	四、八七六、八二七



品名	六 年		五 年		增 量		△ 減 額	
	數量	價 額	數量	價 額	數量	價 額	數量	價 額
米 (概共) 斤	一八二〇六三〇	二六八八三四	一五九〇九五四	六九〇〇八九	二二七六八四六	三二七六八四六	五六九三〇〇五	
胡麻子 斤	三九五九二	五五二五	二五〇〇五五	一八七四八一	二二八四二〇四	二二八四二〇四	一三三三九	
芭蕉實 斤	四九九七〇四五	一六〇〇六八	三二六〇〇四五	一〇五四〇五六	一七七九七〇〇	一七七九七〇〇	五四六五六	
烏龍茶 斤	八七五〇八三八	三三三〇三八	三五八八九〇	一三三二一六四	五二一九二八	五二一九二八	二〇五二八七四	
砂糖 斤	五五七四八六七四	六八二四七九	四四八七二二三	五二六五〇四六	一三三六九六五	一三三六九六五	一六六九六六七	
食鹽 斤	二九七五五〇〇	四五七〇〇	一一三三八三九〇	四〇五九九六	一八三九六六〇	一八三九六六〇	五二四〇六	
鳳梨罐 斤	五四七六二	二八六五〇	八四七四七	二四五〇六〇	二九九八一〇	二九九八一〇	四一四六〇	
生皮 斤	九〇六五	二六四二七	九〇五九八	一五五三三	一七	一七	六八九九	
樟腦 斤	一三九七三六	四九〇七五	二七二四六三	八四〇一〇九	一四七五二九六	一四七五二九六	三四九三三四	
酒精 斤	一二五七三	一〇一三三〇	二二〇〇四四	一六〇一〇九八	七四九三三	七四九三三	五八九七八	
酒 斤	三九九二八八	一八四六八四七	五〇三三八一四	二三三四五五	一〇三〇九八六	一〇三〇九八六	四六六六〇八	
姜黃 斤	一〇六六一〇四	八四八二五七	一〇九九四四五	七六六二八四	五六二二九九	五六二二九九	七九六二九九	
麻織物 斤	四七六〇	二二〇〇	一四〇九九	二八七七一	一三六二二九	一三六二二九	二六六八一	
銅 (金銀分ヲ含ム) 斤	三二〇〇八三〇	六六〇四三三	四一七四四九	四七〇七〇	一〇七四四四九	一〇七四四四九	一九三一九三	
木材	一七六二〇六	一五六三三五	一九七七七九	一五六二六二	一七五二三三	一七五二三三	五七九七	
其他特掲セサル諸品	—	八四三九九	—	六二七三	—	—	一八六六七	
通計	—	三三三二六六	—	三〇四四三三	—	—	三〇七二二	
		一〇五四九七九二		八〇一九八一			二四八七〇八一	

本年ノ輸出貿易額ハ四千二十一萬餘圓ニ達シ前年度ニ比シ八百五十六萬餘圓ノ増加ナルガ砂糖、酒

品名	六 年		五 年		增 量		△ 減 額	
	數量	價 額	數量	價 額	數量	價 額	數量	價 額
米 (概共) 斤	四三三三三三八	三九九六五	二七四二八六六	一一六〇二	二二〇六八四八	二二〇六八四八	八三六〇六	
乾魚 斤	五三三三七	一〇六二五八	五三三三五	九二三八	三六八六二	三六八六二	一三八七五	
龍眼 (乾、肉共) 斤	三、一五、二七	三、七、七九	二、七、四、一三	二、三、九、三	四、八、〇、〇五	四、八、〇、〇五	一〇、九、四八	
烏龍茶 斤	四七、七〇、三三	一、七、一、〇、七三	一〇、六、〇、四〇	三、九、三、六、三	五、八、三、五、一七	五、八、三、五、一七	二、一〇、五、四九	
包種茶 斤	六、四〇、四、六二	二、七、一、七、八七	五、四九、七、〇一	二、三、三、六、〇一	八、八、三、六、二	八、八、三、六、二	四、三、八、一八	
砂糖 斤	一四〇、八、八、三、五	一、五、七、五、一〇、五	一一〇、九、七、五、五、六	一一、二、七、六、四、三	二九、九、一、五、七、九	二九、九、一、五、七、九	四、四、五、七、五、二	
包種茶 斤	二、六、九、二、九、四〇	六、六、七、六、〇	八、八、〇、〇、〇	一一、一、〇、〇、〇	一、八、二、九、三、七	一、八、二、九、三、七	四、一、五、四、〇	
乾魚及鹹魚 斤	一、九、〇〇、九、六	一、七〇、九、〇、六	一、五〇、三、八、六、一	一、〇、八、三、一、一	三、九、六、二、四、五	三、九、六、二、四、五	六、二、七、六、五	
石腦油 斤	一、四、九、〇、八、五	七〇、八、四、一	九、八、四、二、八	四、五、四、五、三	五〇、九、五、九、七	五〇、九、五、九、七	三、一、六、三、三、八	
樟腦 斤	四九、三、九、八、九	四六、八、六、三、三	五、八、六、四、四、四	四六、六、九、〇、九	九、六、〇、四、七、五	九、六、〇、四、七、五	四〇、五、七、六	

重要輸出品前年對照表

精、包種茶、石炭、石油、等ヲ除クノ外ハ米、烏龍茶、樟腦等ノ本島產ハ何レモ減退セリ、之ガ原因ハ米ノ移出旺ナリシト北米行烏龍茶積取船寄港渺ナク内地ヲ經由セルモノ多ク樟腦ハ減産セシニ因レリ、反之仲繼品ノ燐寸ニ於テ小許ノ減退ヲ見タルノミニテ綿織物、海產物等増加シタリ麥粉ノ輸出激增モ從來會テ見サリシ現象ナルガ北米其他ノ諸國ヨリ支那へ輸出殆ンド皆無ナリシガ爲メ内地ヨリ本島經由ニテ斯ク激增ヲ見タル所以ナリ重要輸出品左ノ如シ



品名	六		五		增	
	數量	價額	數量	價額	數量	價額
酒	五五七六〇一	七五八八九七	二八三四四一	四八二一八	二七四一五〇	二七四七九
精利	一三〇二六四	一七六九〇九	二二四四六八	一九〇二四七	一〇四四一四	二二二八
寸等	一八五九三五	一九五五九	二二九九〇	二四八九三	六二〇三五	七六六六
絲	二二〇〇九八七	五九七三四	二〇一七六〇一	四一九二二六	三〇三三八五	一五〇四八
苧	七四八八一	一四六三九〇七	六八六三六三	六六六六三	三八四九一	七九七二四
綿織	一四七三四	九三〇〇	一九六四	八六六七九	四九五〇	六三三
綿メリヤス	二二九九七	一八二八九九	七六二〇	四〇三六六	一七四七〇七	一四一四五
石炭	七二七七	六六九九	八三九九二〇	一六八三四九	七六七七九三	一五二九五
セメント	—	—	—	一〇五二五	—	七三三九九
木材	—	—	—	一八〇九五六四	—	二九〇一八四
其他特掲セザル諸品	—	—	—	三二六五七四	—	八六三三二七
通計	—	—	—	—	—	—

移入貿易ノ増進モ本年ハ頗ル顯著ニシテ總額六千七百七十四萬圓ニ迫ビ前年ニ比シ實ニ一千八百餘萬圓ノ激增ナルガ前年迄ハ數年來ノ不況ト價格騰貴ノ爲メ聊カ買控ヘノ氣味アリシガ本年ハ稀有ノ豐作ニテ買氣頗ル旺盛ナリシニ基因ス、一般價額ノ騰貴モ移入額ヲ多カラシメシニ與ツテ力アリ、鐵材ノ如キ數量ニ於テハ前年ヨリ二割内外ノ増加ナリシモ價格二倍ノ暴騰ヲ告タルガ如キ其一例ナリ、本年度ニ於テ比較的移入ノ多カリシハ肥料、鐵材、鐵道建設用材料、鐵製品、釘類、木材、セメン

品名	六		五		增	
	數量	價額	數量	價額	數量	價額
豚	四二七五	一三〇八七	二一九八	三二九五八	△	七七三
米	八四四六五	一八〇一六六	七六六八六	一三六三〇九五	△	五七九
豆	六六五八	一〇〇八五七	三〇六九	四一七六七	△	五八八九
小麥	三二九六四三	二八九〇三	一七三二四九七	一七六〇五〇	△	一四七五二
蔬菜	—	—	—	—	△	一〇七三
砂糖	一三三九九九	三〇九五九	二五九四七	五六一六五	△	二五〇五六
菓子	—	—	—	—	△	二七七八
醬油	一四〇六	三〇一六七	一三四三七	四一七九九	△	一〇五二四
魚及魚油	五三九九八七	五二六三二	四五五八四〇	三六六七四	△	一四九九〇
乾魚	五二六四九〇	一三六五六	二五八八七六	六六五二〇	△	六五二四
貝類	一四八三八〇	四〇六一〇	二七四一三七	四三〇五九	△	三七五二
罐詰食物	三〇一三三	三三三九二	六六二五	二四六〇四	△	一七三三
清酒	—	—	—	—	△	一八三
(總入)	—	—	—	—	△	一一八
其他	—	—	—	—	△	一一八
通計	—	—	—	—	△	一一八

ト、紙等ニシテ仲繼輸出品ハ燐寸ヲ除ク外何レモ入増セリ但十萬圓以上減退シタル重要移入品ハ燐寸ノ外、砂糖、豚等ナリ、價額ニ於テ増加セシモノニシテ數量ノ減退セルモノ尠ナカラス、左ニ重要移入品ノ前年對照表ヲ示スヘシ

重要移入品前年對照表







品名	六		五		増	△減
	數量	價額	數量	價額		
コンデンスドミルク	四三九六	一五二六〇三	五四四二二	一六六〇五七	△	一三四五〇
葉煙草	九四九三	二八九五七	一八九四六七	四六〇一三四	△	一七〇五五八
石油	一六五二二	八二九八八	一九一〇三	五五四二一六	△	二五九九五
パラフィンワックス	二二九五六	六五二一〇	三三六四三	八四三三三	△	二七五七七
人參	一四〇六	六九九四	一五三九〇	六〇九九八	△	一三〇四
河片	一七八九〇	三六五七八四九	三三〇九一六	三三〇九一六	△	一三九八
黃麻	二〇七八〇五	二九七三三六	一七〇七一九	三三〇六三三	△	九〇〇三
綿線	二四四二二	二四四九九	一七九八〇	一〇〇一九	△	三三三
綿子及羅	三九三一九	一八〇四六	六〇三九六	二〇〇一九	△	一九七三
イタリヤ	一〇七三六〇	一八四四九四	九三三七一	一〇一七九	△	二四一三
苧麻	四三〇六	八三二〇	三三三六六	六八六八	△	一四八八
苧麻綿布	三三三六八五	一八九〇四九	一七〇一三三	四四八〇七	△	七三三
カンニ一(故共)	一八三三九	一五七三六	一〇一七七一	一三三三三	△	三三三〇
唐紙(禮拜紙ヲ除ク)	一八三三九	一五七三六	一〇一七七一	一三三三三	△	三三三〇
禮拜紙	一四九九三	二五〇九八	四四九二	三三三三	△	八四一四七
石炭	一四九九三	二五〇九八	四四九二	三三三三	△	三六三三
陶磁器	五五七〇一一	一五五〇五五	六〇九五五	一六二九九	△	一一三六
茶箱用板及煙	四五〇九三三	一〇〇七四	六五二七八	一一三三三	△	二四一七
茶箱用板	八三五〇七三	一七四一九三	六六六〇四	七四六〇五	△	一一三〇〇
包席(蘭製砂糖糞共)						九九五九八

品名	六		五		増	△減
	數量	價額	數量	價額		
油糟(豆、茶糟共)	一一〇一六六七〇	四五六五五	一〇七三〇八八九	三三三三三	△	一一四二八四五
其他特掲セサル諸品		五七四九一一		三三三三三	△	二一五八二六〇
通計		一一〇九三三六		一五四三〇三七		五六六九三三

臺北廳報告

年來本島各種產業ノ順況ト時局ノ影響ニ伴ヒ物價昂騰ハ益々市場ノ緊張ヲ招キ内外貿易ハ未嘗有ノ盛況ヲ告ケ延テ通貨ノ増大ニ因リ金融市場亦空前ノ活況ヲ呈シ其ノ臺灣銀行券發行高二千萬圓臺ヨリ三千萬圓臺ヲ突破スルニ至リシヲ見ルモ新界ノ盛況ヲ窺フニ足ラン對岸貿易ハ銀價暴騰ノ爲メ輸入品幾分不況ノ狀アリシモ輸出頗ル好況ヲ把持シ更ニ内地取引ハ米糖其他市場日ニ好況ニ伴レ荷動キ常ニ活氣ヲ帯ヒ盛ニ移出セラレ移入品ハ島内經濟界ノ旺盛ニ依リ極メテ順調ナリシト雖此内外取引ノ間ニ於テ船腹ノ不足運賃ノ昂騰又ハ諸物價ノ奔騰等ハ鈔カラサル打擊ヲ與ヘ自然商況ニ多少ノ頓挫ヲ來タセシモノアリシカ一般取引ノ大勢ニ於テハ終始順調ニ押サレ商取引資金ノ如キ自然圓滑潤和ノ傾向ヲ有シ銀行預金ノ増加利子ノ低下等稀有ノ景況ヲ呈セリ而シテ之等金融上特ニ記スヘキ事項ハ實ニ補助貨幣ノ拂底ニシテ日用取引上ノ一大痛撃ナリトス

宜蘭廳報告

本年ニ於ケル沿岸貿易ノ總額ハ五百十二萬二千四百六十七圓ニシテ前年ノ四百八萬三千八百八十圓ニ比セハ實ニ百萬餘圓ノ激增ニシテ就中移出額ハ八十一萬六千九百六十三圓ヲ増加シテ二百九十八萬九千四百四十六圓ニ達セリ之レ樟腦及腦油ノ出荷ハ著シク衰ヘシト雖モ砂糖工業ノ發展ニ伴ヒ從來二十萬圓臺ヲ越ヘサリシモノ今ハ八十二萬餘圓ヲ算シ米價其ノ他農産物價格ノ昇騰ニ依リ是等ノ取引活潑ニシテ百二十四萬餘圓ヲ數フルニ至レリ

桃園廳報告

大正五年ヨリ著手セル官設埤圳工事ノ進行製糖業者ノ活動其他時局ノ影響ニ依リ鑛業及各種工業ノ勃興スルアリテ實銀騰貴シ之ニ從事スル人員並物資ノ搬出入頗ル増加シ各市街地ノ商況殷賑ヲ加フルニ至リタリ而シテ主要産物タル米ハ新春來不況ナリシモ端境期下半年ヨリ粳糯共價格昇騰シ年末ニ入りテハ益々好況ヲ呈シ糯米ノ如キハ未嘗有ノ移出ヲ爲セリ又茶ハ春期ニ於テ一時沈靜ノ狀態ナリシモ夏茶以來商況恢復シ好況ヲ以テ資金ノ回收ヲ終レリ從テ金融ハ繁忙狀態ヲ持續シ産



第六編 商業 第一章 總論

業ノ改良發達ト共ニ資金ノ需用劇増シ五月ニ至リテ新ニ桃園街ニ株式會社新高銀行出張所ノ設置ヲ見ルニ至リ尙信用組合金  
融公司等モ其ノ數ヲ增加セリ然レトモ金融ハ未ダ緩慢ノ情勢ヲ脱セス金利ハ日歩二厘方ノ低下ヲ見タリ一般物價ハ下半年ニ  
入り著シク騰貴シ逐月其ノ度ヲ高メ前年ニ比スレハ平均金物類等ハ約五割騰貴ハ四割、米、吳服類、麥粉、食油、干魚、  
石油等ハ約三割藥品、酒類、金銀紙、コロンニスミルリ、醬油等ハ約二割騰貴セリ七月ニ入り銀貨ノ暴騰ニ伴ヒ本島人ノ  
死藏因テ爲シ補助貨ノ缺乏ヲ來シタルニ依リ之カ代用トシテ郵便切手票紙ノ發行アリ引續キ小額紙幣ヲ發行セラレタルニ拘  
ラス毫モ緩和ノ效ナク缺乏ノ度ヲ加ヘ補助貨ハ全ク市場影ヲ没スルニ至リ一般取引ノ不便甚シキモノアリテ各所ニ商品券ノ  
發行ヲ見ルニ及ヒ其ノ額一萬六千八百八十八圓ニシテ稍一時ノ急ヲ救ヒ得タリ然レトモ一般經濟狀態ハ良好ニシテ購買力ノ増  
進ニ伴ヒ市街地ニ於ケル年末賣出又稀有ノ盛況ヲ呈セリ

新竹廳報告

本年中ニ於ケル商況ヲ通觀スルニ諸物價ノ昂騰補助貨ノ缺乏ハ商家一般資金ノ固定ヲ嫌惡シ賣掛代金ヲ短期ニ回收  
セントスル一方可成現金賣買ニ由ラントスル風ヲ生シ尙民間ニ於ケル金利ノ昂上ハ一般消費力ノ減殺ト相俟テ物價ノ生産  
移動ヲ阻止シ市況ノ不振ヲ誘致セルモノアリト雖トモ廳下ノ主產物タル米、苧麻、砂糖、落花生、甘藷等概シテ農作ニシテ  
是等價格ノ騰貴ト近時製糖業ノ勃興ハ甘蔗代金支拂原料又ハ新規蔗園ノ前貸金等ニヨリ多數農家ノ金融ヲ緩和シ市況ヲ引  
立テタルモノ少カラス且時局ノ影響ト本島人企業心ノ勃興トハ浮調子ナカラ廳下各方面ニ幾分ノ活氣ヲ與ヘ市況旺盛ト稱ス  
ヘカフサルモ又沈靜ト稱スル程ニモアラス兎角ノ商況ヲ持續シ終始セリ

臺中廳報告

本朝ハ暴風雨ノ被害モナク米作ノ如キ一期作ハ豐饒ニシテ二期作ハ稍々減收ヲ見タリ又蔗園ハ作付甲數著シク増加  
シタルモ植付當時雨天多カリシ爲メ豫期ノ收穫ヲ見ルコト能ハサルヘク米價ハ漸次騰貴シタルハ農家ハ懷合ヲ肥ヤシ資金潤  
澤ヲ告ケタルモ歐洲戰亂其他ノ影響ヲ受ケテ諸物價暴騰シタルヲ以テ一般ニ購買ヲ控ヘ商業ハ活氣ヲ帶フルニ至ラス製糖地  
ニ於テハ帽子ノ價格下落シ收益ヲ見ルコト困難ニシテ不振ノ狀態ヲ呈セリ  
米、米價ハ日ヲ途テ騰貴シ從來貯藏セラレタル米ハ盛ニ移出セラレルニ至リ盛況ヲ呈セリ

南投廳報告

本期ニ入りテ以來米穀ヲ初メ日用諸物價漸次騰貴ノ一方ニ傾キ商工ノ經營甚々困難ニ一般需要者亦購買力ヲ減殺セ  
ラレ右之補助貨ノ缺乏ハ商取引ヲ滯滞セシメシ等一般商況ハ前年ニ比シ稍沈靜ノ狀態ナリキ  
管内ノ商業ハ單ニ地方的消費ニ止ルヘキ小賣商ノミニテ卸賣商ナク且交通上ノ關係ヨリ物資ノ集散緩慢トナリ從ツテ價格  
モ低廉ナラス然ルニ今ヤ帝國專鐵モ全通スルノ機運ニ向ヒ且ツ又日月潭ノ大工事ヲ初メ諸般工事將ニ盛ナラントス之等開始  
ノ曉ニ至ラハ商況ノ發展亦今日ノ比ニアラサルヘキヲ思フ

嘉義廳報告

大正三年以來天候比較的順調ニシテ農產物豐收ナルヨリ之ニ基ク諸工業モ操作進捗シ漸次農民間ノ金融緩和セラレ  
購買力ノ増進ヲ見新業ノ健全ナル狀態ニアルハ殊ニ喜フヘキ現象トス  
本年ハ農產物ノ價額稀有ノ暴騰ヲ來シ農產販賣業ノ盛況ニ連レ一般商況ノ活躍ヲ見ルモノアリシカ商業上ニハ内地臺灣間ノ  
船運價值上アリ商品ハ戰亂ノ餘波ヲ受ケ一勢ニ暴騰シ更ニ内地經濟界ノ好況ニ連レ遠隔セル當地、如キ小取引ノ注文ハ自然  
閑却セラレル向アリテ内地仕入困難ノ事情アリテ相當波瀾ヲ來セルヲ見ル  
商業ノ盛否ハ年中ニ於テモ之ヲ期節ニ因テ見ルコトヲ得ヘク米糖ノ搬出秋冬ニ多ク夏期ハ雨期並ニ作物ノ生育中ニシテ農民  
其他繁忙ヲ極メ從ツテ斯業閑散ヲ免レス之レ例年ノ狀態トス  
嘉義街ニ於テハ毎年歲末年始ニ跨ル大賣出ノ企テアリテ相當發賑ニ達ス  
嘉義街ニ亞リ商業地ハ北港街ニシテ取引高二百三十三萬三千五百二十二圓以下鹽水港街百六十九萬二千三百三十二圓斗六街百七  
十七萬六千四百四十二圓橋仔脚街百五十三萬七千五百四十四圓西螺街百一萬九千二百八圓等ヲ首要ナルモノトス

臺南廳報告

商況 大正六年中ニ於ケル前年末獨逸ノ講和提議カ動機トナリ諸株式ノ大瓦落ヲ先驅トシ米價其他ノ諸物價モ一齊  
ニ暴落シ内地財界ノ一大混亂ヲ演出シ本島モ又之カ餘波ヲ受ケテ諸物價ノ低落トナリ二月中旬愈々低入相場ヲ表ハシ人氣頓  
ニ銷沈セリ三月モ又不振狀態ヲ持續シ四月ニ入りテ米糖ノ昂騰スルニ從ヒ人氣次第ニ恢復シ一般商況モ漸次好況ニ向ヘタリ  
六月下旬内地米界ノ大活躍ニ伴レ島米モ又氣丈トナリ七月ニ懸ケテ米ノ取引ハ多額ニ上リ内地移出ノ旺盛ナリシコト近年未

第六編 商業 第一章 總論



第六編 商業 第一章 總論

曾有ノ盛況ヲ呈シタリ八月十五日ヨリ橫打間自由航路船運賃ノ値上ニ依リ移出米不引合トナリタル爲メ米ノ取引ハ一時杜絶シ移入貨物モ又船運賃値上ノ結果自然價格ノ昂騰ヲ來スヘキナリテ南部民ハ于茲不安ノ念ヲ懷キ相互ニ警戒スル所アリ市況爲ニ萎靡不振ト爲リ延テ應下一般經濟界ニ惡影響ヲ及ホシタルモノ不尠然レトモ米糖ノ好氣配ハ猶ホ衰ヘス久シカラスシテ人氣恢復シ年末ニ接近スルニ從ヒテ商狀一層繁盛ヲ呈シ大體ニ於テ前年以上ノ好景況ヲ見ルコトヲ得タリ

金融 大正六年中ノ金融市場ハ前年末決濟資金ノ大需用ニ次テ本期產糖ノ激增ニ依リ砂糖並ニ米商資金ノ需用ハ著シク多額ニ上リ一月ノ金融界ハ頗ル繁忙ヲ極メタリ二月ニ入りテ米糖輸出額ハ尙ホ衰ヘス三月ニ至リテ米糖資金ノ需要愈ヨ減退シ臺灣銀行臺南支店ハ日歩二厘方金利ヲ引下ケ金融市場ノ緩和ニ努ムル所アリ時恰モ夏物仕入資金ハ一般經濟界ノ好況ニ連レ存外多額ノ需要ヲ喚起シ四五ノ兩月ハ新ナル放資事業起ラス市場概ネ小緩ノ狀ヲ呈シ又六七月ハ例年金融ノ緩漫ナルヘキニ本年ハ六月中橫打船運賃値上ノ發表アルヤ當時内地財界ハ歐洲戰爭ノ餘榮ヲ承ケテ輸出ノ超過正貨ノ膨脹等即チ事業ノ振興ヲ促カシ商業工業其他諸般ノ事業勃發シテ實ニ開闢以來ノ大景氣ヲ現出シ物價ハ爲ニ益々騰貴シテ殆ント其底止スル所ナキモノノ如ク機ヲ見ルニ敏ナル間屋側ハ即チ船運賃ノ値上ケ並ニ物價ノ先高ヲ豫想シテ見込ニ仕入レテ爲シタル爲メ六月ヨリ七月ニ互ル仕入資金ノ放出多額ニ上リタリ八九ノ兩月ハ稀ヤ緩漫ナリシモ十月ニ入り製糖著手準備金ノ需要ヲ喚起シ猶ホ露國ノ政變ニ因テ株式ノ大暴落ヲ惹起シ吾カ臺南市ニ於テモ五六人ノ負傷者ヲ出シタル爲ニ銀行業者ノ警戒嚴カナルモノアリシモ幸ニ一破綻者ヲ出スニ到ラスシテ應下經濟界ハ格別ノ動搖ヲ受ケサリ十一月ニ入り季節物仕入資金及米糖金ノ需要モ起リ小繁ヲ呈シ超ヘテ十二月ハ歲末決濟資金ノ大需要ニ依リ金融界ハ頗ル大繁忙ヲ極メタリ之ヲ要スルニ本年ハ經濟界ノ好況ニ伴ヘ前年ヨリモ資金ノ通用頻繁ヲ呈シタリシモ金融市場ハ極メテ圓滑ナル經過ヲ遂ケルヲ得タリ

貿易 移出入貿易ハ累年發達ノ域ニ向ヒツツアリ特ニ大正四年以來暴風雨等ノ被害ナク農作物ノ收穫順調ナリシ爲メ米糖ノ產額特ニ激增シタリシナリテ移出力モ從テ増加シ又本島人ハ從來對岸品ヲ嗜好スルノ傾キアリシモ近來内地貨物ノ需要者漸ク多キチ加フルニ至リ移入額モ又漸次増加スルノ傾向トナレリ

輸出商業ハ對岸貿易ヲ主トシテ南洋貿易モ又漸次發展シツツアリ對岸輸出ノ主ナル品目ハ乾荷、龍眼、蠟寸、綿織物石炭、

等ニシテ南洋輸出ハ多ク内地製品ナリ輸入品ニハ米、麵類、金巾、縐子類、麻布、禮拜紙、木材、包蓆、油粕、陶磁器類ニシテ年々内地移入品ニ壓倒セラルル、傾向アリ

阿緬應報告

今本年ニ於ケル應下ノ商業ヲ概觀スルニ累年報告セシ如ク產業ノ大宗タル米糖ノ加キハ何レモ大手筋ニ依リテ取引セラルル外新式ニ大製糖工場ノ製品ハ直接管外ニ搬出セラルル爲メ商業ノ中心市場ト目スヘモ無キナリテ特記スヘキ事項ナキモ製糖業ノ好況ト米作ノ豐穰ニ加フルニ未嘗有ル米價昂騰ハ著シク地方中産以上ノ農民ノ資力ヲ充足シ金融ノ潤澤ナラシメタル結果戰亂ノ影響乃至船腹ノ不足ニ依リ運賃率ノ増加ニ伴フ借物價ノ騰貴モ比較的其ノ打擊激甚ナラス日需品乃至一般商品ノ取引狀態モ比較的圓滑ニ需給ノ調節ヲ得購買力モ亦旺盛ニ豫想外ニ活氣アル商況ヲ以テ越年セリ只此ノ間ニ在リテ諸物價騰貴ノ影響ヲ受ケ著シク其購買力ヲ減殺セラレタルハ一般下級社會ニシテ中ニハ生活難ヲ訴フル者ヲ生スルニ到レリ尙補助貨ノ缺乏ハ終始一般小取引ノ圓滑ヲ缺キ商況ニ惡影響ヲ及ホシタルコト尠カラス

臺東廳報告

軌近地方ノ發展ニ伴ヒ民蕃ノ雜貨需用高ハ漸次増加ノ趨勢ヲ示シツツアルモ各商店ハ何レモ資金豐カナラサル爲メ商況其比例ニ活躍セズ是等資金ノ大部分ハ從來個人貸借ニ依ルヲ以テ隨テ利率高歩トナリ加フルニ交通不便ナル爲メ運賃向上シ西部方面ニ比シ物價約三割餘ノ高價ヲ示セシニ因リ需用者ノ主タル製糖會社ノ如キハ直接内地或ハ臺北ヨリ商品ヲ移入シ各移民ニ供給スルノ狀態ニテ一時ハ商況不振ナリシモ前年九月卑南街ニ信用組合ヲ創設シ以來低利ナル資金ヲ商人間ニ融通シ得ルニ至リタルヲ以テ金融緩漫トナリ加フルニ逐年各產業ノ發展ニ伴ヒ購買力増進シ商界漸次活氣ヲ呈スルニ至レリ

花蓮港廳報告

明治四十二年置廳以來官營移民事業鐵道布設工事討蕃事件等ノ併發ニ伴ヒ人口著シク増加シ大正三年末ニハ花蓮港市街地ニ於ケル人口六千二百四十五人ニ達シ置廳當時ノ人口ニ比シ三、七倍及ヒ廳下ノ商業又之ニ伴フテ急速ノ發達ヲナスニ至レリ然ルニ討蕃事件ハ大正三年ヲ以テ終リテ告ケ鐵道工事ノ完成、官營移民事業ノ廢止等ヲ見ルニ至リ從來ニ於ケル商業發展ノ大要素ヲ失ヒタル感ナキ能ハス又數年來豫期セラレタル鑛山事業ハ各地鑛脈ノ發見サレタルモノ尠ナカラスト雖銅門藤田組鑛坊ノ以外ハ何レモ試掘ニ止マリ本年農作物ノ不作ニ次テ歐洲戰亂ノ影響ニヨル貨物移入ノ不足ハ商業ヲシテ稍



第六編 商業 第一章 總論

々不振ニ陥ラシメタルモノノ如シ  
要スルニ聽下既往ノ商況ハ基本的産業ニ伴ハサル一時的膨脹ニシテ今ヤ諸工事ノ完成ニ伴ヒ多少不振ノ現狀ニアルハ已ムヲ  
得サル所ナルヘシ然レトモ自今開墾ノ進捗ト相並ヒ木材會社、物產會社等各種事業ノ勃興ニ伴ヒ將來健實ナル振興ヲ見ルニ  
至ラシカ

澎湖廳報告

廳下ノ主ナル市街地タル媽宮港ニ於ケル當年中ノ貿易概況ヲ觀ルニ移輸出價格三十萬九千六百三十四圓移輸入價格  
九十六萬五千九百三十一圓總價格百三十九萬五千五百六十五圓ニシテ今之ヲ前年ニ對比スレハ移輸出八萬九百七十二圓移輸  
入十萬二千九百三十七圓ヲ增加セリ之レ内地移出ハ古銅、鐵材、真鍮、生皮、海產物等多カリシト臺灣移出ハ落花生油、活  
豚、古鐵材、海產物等多カリシ爲メ增加セシカ南滿輸出ハ海產物、活豚、落花生油箱等少カリシモ結局移輸出増加シ又内地  
移入ハ日用飲食物及雜貨類多カリシト臺灣移入ハ支米、切干諸、薪炭、酒類、砂糖等多カリシ爲メ增加セシカ南滿輸入ハ陶  
磁器類、綿布、木材、紙類等少カリシモ是又結局輸入ノ増加ヲ見ダリ而シテ以上移輸出入價額増加ハ何レモ其ノ數量ニ於テ  
若干増加シタリト雖モ諸物價ノ騰貴其ノ一因タルヤ明カナリト思料ス

第二章 砂糖

本年本島ノ砂糖生産狀況ハ甘蔗ノ植付甲數増加セルト天候適順ナリシ爲メ、發育頗ル良好ニシテ空  
前ノ好成績ヲ收メ昨年ニ比シ二十七億五千餘萬斤ノ增收ヲ舉ケタリ、今砂糖需給ノ大勢ヲ窺フニ戰  
局ノ愈々進ムニ從ツテ歐洲糖減産甚タシキモ獨潛船艇ノ襲撃船舶徵發ノ爲メ英國ニテハ消費糖米國  
ニテハ輸出糖ノ何レモ制限ヲ行ヒ爲メニ產地元ニ滯貨多ク安値ナリシト雖モ船腹ノ關係ニテ本邦ニ

ハ入貨尠ナク臺灣糖ハ頗ル良好ノ地位ヲ占メ支那ハ勿論香港、印度、濠洲及浦鹽方面ヨリ需要アリ  
輸出盛況ヲ呈シタルニ加ヘ内地市場ハ財界ノ高調ニ連レ大ニ消費力ヲ増進シ自然高値ヲ保チテ移出  
モ増進シタリ  
更ニ本品ノ商況ハ前年末ノ十八圓五六十錢見當ヲ以テ新年ヲ迎ヘタリシガ前半期ハ外糖高ニ促カサ  
レ漸騰ノ傾キニテ六月十九圓十錢内外ニテ取引セラレタリシガ七月ニハ需要期ニ向ヒタル爲メ買氣  
旺ニシテ終ニ二十圓ニ暴騰セリ、米國ノ輸出禁止ノ報傳ハルヤ市場之ニ刺激セラレ二十圓三四十錢  
ヲ呼ヒタリシモ物價調節令實施ノ布告ニヨリ崩落ヲ演シ其後一高一低アリト雖モ概シテ爪哇糖安ノ  
影響ヲ蒙リ人氣引キ立タス形勢不安裡ニ越年セリ  
移輸出高左ノ如シ

本島糖島外搬出高前年對照表 (單位斤)

月次	正 年			同 年		
	移	出	計	移	出	計
一 月	八二,五九七	四六,四四二	九五,八〇〇	七五,七四〇	一四〇,九〇〇	七五,〇四〇
二 月	一〇三,六五七	二二,八三〇	三二,九九七	六六,五九六	一一三,〇〇七	九〇,〇〇〇
三 月	一〇一,〇七六	一八,八四九	一一〇,一七〇	八四,四六五	一一一,五五三	一〇五,九七六
四 月	八五,四五五	二二,九四九	五九,〇〇四	六四,九〇一	三九,〇〇〇	一〇五,一〇三



目次	夫正六年		同五年	
	移入	輸出	移入	輸出
五	六九八、一六四、八四	二二七、四六、七八	九二、五三、一九三	五〇、五二、四三三
六	四一、二六、一八五、六	一五、四一、五七七	五、六、一、三四、三三	一、四、九、九、七、二五
七	一九九、七、四八、五	九、七、三、〇、一一	二、九、七、八、五、〇、六	一、八、四、七、三、九、五
八	一一〇、七、八、三、五	二〇、三、七、一、四	一、三、一、一〇、七、四、九	一、四、一、一、八、〇、〇
九	五、四、九、九、六、一	八、三、八、九、九、〇	一、三、七、六、七、一	一、三、七、六、五、一〇
十	四、九、四、九、九、八〇	四、二、六、七、〇	五、五、七、五、五、〇	八、五、〇、四、五、〇
十一	一、二、九、六、三、五〇	二、五、一、六、七、〇	一、五、四、九、〇、一〇	五、五、五、七、三、九、五
十二	二、六、八、八、三、〇〇	七、五、七、七、五、八	三、四、五、五、八、一	五、三、〇、四、八、三、〇
計	五、五、七、四、八、七、四	一、四、〇、八、八、三、五	六、九、八、三、五、〇、八、九	四、四、八、五、七、一、三

臺北應報告

前年來豐產騰價ノ製糖業ハ實ニ空前ノ盛況ヲ呈シ内外輸出大ニ増加シ之ニ伴フ資金ノ活動ハ一般商界ニ好影響ヲ與ヘタリシカ唯船腹不充分ノ爲メ往々出荷澁滞ヲ來タシ一方米價奔騰、爪哇糖ノ低落ハ多少ノ打撃トナリ市況弱氣配ノ觀アリシモ斯界ノ大勢者シキ變調ナク分蜜糖相場十八圓蓋ヨリ二十圓蓋ノ間ニ取引セラレ殊ニ廳下生産糖ノ如キハ約定物トシテ直ニ出荷底ヲ拂ヒ市場出廻リモノトシテハ終始荷捌キ順調ノ狀アリ

宜蘭應報告

廳下ニ於テ本年中ニ産出セル砂糖ハ赤糖ノミニシテ其ノ管外搬出高ハ八十二萬圓ナリ之ヲ前年ノ十八萬五千餘圓ニ比スレハ實ニ六十餘萬圓ノ増加ヲ示シタリ之レ産糖額ノ倍加セルト一ツハ糖價ノ昂騰セルトニ基因スルモノニシテ白糖ノ移入ハ四萬一千餘圓ニシテ前年ノ三萬六千餘圓ニ比シ五千餘圓ノ増加アリ

新竹應報告

砂糖ハ本期生産高赤糖一二、八七五、五八七斤含蜜糖二二、八七四、〇七二斤ニシテ前期ニ比シ何レモ二倍ノ増收ヲ示セリト雖トモ其經過ヲ見ルニ海外市況ノ軟弱ナルト船腹不足積出運賃ノ不廉等ニ因リ輸取出引開散ニシテ大口ノ取引ナク持

テ余シノ狀況ナリシモ印度及露國方面無稅輸入令ノ實施並内地糖價ノ救濟策トシテ獎勵金付輸出ノ企テ等ヨリ漸次市況ヲ恢復シ需要期端境期ノ接近ニ至リ氣配ヲ持チ直シ本期ヲ經過セリ

嘉義應報告

砂糖ノ取引ハ頗ル複雜ニシテ其ノ生産額ニ對スル一様ノ處分ヲ明記スル能ハス嘉義街ニ於テ取引セララルハ主トシテ消費糖ノ趨勢ヲ知ルニ過キサレトモ糖價ト併記シテ梗概ヲ知ルニ便セントス

砂糖嘉義縣發售高

區別	發售高		到著高	
	一月	二月	三月	四月
赤糖	一、一〇〇	一、二六〇	一、一〇〇	一、一〇〇
分蜜糖	一、八二〇	一、八四〇	一、八二〇	一、八二〇
白糖	二、三二〇	二、三八〇	二、三二〇	二、三二〇

臺南應報告

砂糖ハ甘蔗作付増加ト收量ノ豐收トニ因リ生産額著シク増加シ並ニ國內消費過剩說サヘ出ツルニ至リ氣配兎角ニ軟弱ニ傾キ易カリシモ財界異常ノ發達ニ伴ヒ消費力意外ニ増加シ爲ニ糖價ハ漸次活躍シ七月ニ至リテ赤糖百斤十三圓七十錢分蜜糖百斤二十圓五十錢高値ヲ表ハシ本年一月ノ安値ニ比シ赤糖一圓五十錢分蜜糖二圓七十錢ノ昂騰ヲ見ルニ至リテ糖界ハ一時股賑ヲ極メタリシモ獨逸講和說ノ提議ニ依リ財界ノ變調ヲ來シ諸株式ノ瓦落ト共ニ糖價モ亦低落シ並ニ新糖ノ市場ニ出廻ルニ及ヒテ氣勢益々不味ト化シ十二月相場赤糖十二圓分蜜糖十八圓蓋ヲ割ルニ至レリ要スルニ本年ノ糖界ハ産額ノ増加セルト外糖ノ壓迫トニ依テ伸力運々タルノ觀アリシモ大體ニ於テ前年以上ノ好況ヲ呈シタリ

阿緬應報告

本期ニ於ケル廳下ノ製糖業ハ原料ノ作付其他極メテ順境ニ機械能力ニ對スル原料ノ充實ヲ得タル爲メ各工場概シテ順調ニ作業ヲ終了シ未曾有ノ盛況ヲ呈セリ然トモ今其ノ商況ヲ見ルニ時局ノ爲メ一般諸物價ハ騰貴シタルニ拘ラス獨リ砂糖



第六編 商業 第三章 米

ノミハ氣迷ノ姿ニテ遂ニ巷間糖價救済ノ必要サヘ唱導セラルルニ至レリト外國糖高價入電等ノ爲メ分蜜糖ハ年首幾分ノ引締  
 リテ示シタルモ三、四月頃ニ至リ又復弱腰トナリ十七圓八、九十錢見當ニ保合タルニ拘ラス新糖ハ來期產糖増加ヲ見越シタ  
 ル外糖安ノ爲メ十七圓七十錢見當ニ賣出サレ氣迷ノ儘越年セリ赤糖モ又分蜜糖相場ニ始終シ年首十三圓五十錢見當五圓迄保  
 合相場ヲ示シ七圓ニ至リ十三圓迄下押セリ其後分蜜糖高値及品薄ノ爲メ十四圓九十錢迄跳返シ十五圓ヲ突破セム勢ナリシモ  
 之亦來期產供給過剩視セラレツツアル矢先馬尼刺赤糖續々安値輸入セラルル等悲觀材料ヲ以テ充サレ舊糖ハ依然十四圓見當  
 ニ保合タルモ十一圓ヨリ出廻リタル新糖ハ運賃突飛ノ引上ナリシニ不拘十二圓五十錢見當ニ取引セラレタリ要スルニ本年ノ  
 砂糖商況ハ悲觀程ニ越年セリ

**臺東廳報告** 本年ノ甘蔗ハ比較的順調ナル生育ヲ遂ケタルニ不拘廳下蔗農番人ハ耕作法未熟ナル爲メ僅ニ甲當平均二萬五千斤内  
 外ノ收穫ニ過キサルカ故ニ製糖高二百二十四萬八千四百三十七斤ニシテ其賣出價格分蜜糖平均十七圓赤糖十三圓ノ價格ヲ以  
 テ處分セラレ主トシテ基隆及打狗ヨリ大阪及東京ニ販出セリ

第三章 米

本年本島ノ米作ハ氣候適順ナリシタメ良好ノ成績ヲ收メ第一期作二百四十五萬餘千石第二期作二百  
 三十七萬餘石合計四百三十三萬石ノ收穫ニテ前年度ニ比シ十八萬石ノ增收ヲ見タリ  
 左表ニ示スカ如ク之カ貿易狀況ハ前年ト頗ル其趣キヲ異ニセルハ要スルニ内地ニ於ケル食料品就中  
 米ノ需要多ク供給之ニ伴ハサルカ爲メニシテ從ツテ本島米ヲ誘致シタルガ爲ナリトス輸入ノ多カリ  
 シハ島米ヲ移出シ外國米ヲ以テ代用シタルニ本ツク移動狀況左ノ如シ

米穀移動數量價額表

區別	數量		價額	
	大正六年	同五年	大正六年	同五年
移出	一八八,四六三.〇斤	一五六,〇九五.四斤	三,一七六.八四六	二,二八一.八三四
移入	四,五三三.四八斤	一七,四二二.八八六斤	三三〇.六八四.八	一,一七九.〇三二
輸出	八,四六五.九斤	六,六八六.九斤	一,八〇一.六二六	一,一六〇.〇九五
輸入	八〇,五九〇.六六斤	一六,一六五.三斤	七,八九七.四三三	九,〇七.七
移出	△	△	△	△
移入	△	△	△	△
輸出	△	△	△	△
輸入	△	△	△	△

今本年ノ米況ヲ案スルニ上半期ニ於テハ前年ノ不作後ヲ受ケ產地元割高ノ相場ヲ現ハシ出荷極メテ  
 尠ク移出モ殆ント皆無ナリシガ下半年期ニ入り内地風水害ノ爲メ減收予想セララルヤ本島米モ其余波  
 ヲ享ケ通貨膨脹ノ氣勢ト相俟チテ漸次其價格ト數量ヲ増加シ十五圓臺ヲ突破スルノ勢ヲ呈セリ左ニ  
 本島四市場ノ米價ト各種米穀移動表トヲ掲クルハ左ノ如シ

大正六年度臺灣米價月別平均 (單位厘)(中支米一石平均相場)

月次	臺北市場		基隆市場		臺中市場		打狗市場	
	北部米	中部米	北部米	中部米	中部米	中部米	南部米	南部米
一月	一一.三八七	一一.六二四	一一.六二七	一一.七五五	一一.六二八	一一.六二八	一一.五三二	一一.五三二
二月	一一.一〇四	一一.五七三	一一.五七三	一一.七〇九	一一.五〇九	一一.五〇九	一一.五〇九	一一.五〇九

第六編 商業 第三章 米



目次	臺北市場		基隆市場		臺中市場		打狗市場	
	北部米	中部米	北部米	中部米	中部米	中部米	南部米	南部米
三	一三,七五五	一三,五〇〇	一三,三〇〇	一三,二五三	一三,六四七	一三,〇一五	一三,〇一五	一三,〇一五
四	一三,九四八	一四,一七四	一三,四四九	一三,四六二	一四,一三三	一三,四四〇	一三,四四〇	一三,四四〇
五	一四,一五五	一四,三六七	一三,八四一	一三,六三四	一四,一五〇	一三,三三三	一三,三三三	一三,三三三
六	一五,三九九	一五,六〇八	一四,七三四	一四,七四四	一四,八〇〇	一四,五三三	一四,五三三	一四,五三三
七	一五,六六六	一五,八九九	一四,七三三	一四,七三三	一四,八〇〇	一四,五三三	一四,五三三	一四,五三三
八	一四,六七七	一四,七六六	一三,九七〇	一四,〇八八	一四,三七八	一四,三七八	一四,三七八	一四,三七八
九	一四,三〇〇	一四,五八八	一三,五五七	一四,〇三三	一四,九三三	一四,九三三	一四,九三三	一四,九三三
十	一四,八八七	一五,〇七五	一四,六四八	一四,九六五	一四,二八八	一四,二八八	一四,二八八	一四,二八八
十一	一五,三三九	一五,四〇〇	一五,〇二七	一五,二五七	一四,四四八	一四,四四八	一四,四四八	一四,四四八
十二	一五,〇七九	一五,三三九	一五,〇〇〇	一五,五三三	一四,七三三	一四,七三三	一四,七三三	一四,七三三
平均	一四,三二二	一四,四八八	一三,九八一	一四,二四〇	一三,九六五	一三,八五六	一三,八五六	一三,八五六

米穀移動數量月別表

月次	移出		移入		輪入		輪出	
	同五年	同六年	同五年	同六年	同五年	同六年	同五年	同六年
一月	一五,七七五〇	一五,〇〇〇	一五,〇〇〇	一五,〇〇〇	一五,〇〇〇	一五,〇〇〇	一五,〇〇〇	一五,〇〇〇
二月	一五,八三七〇	一五,〇〇〇	一五,〇〇〇	一五,〇〇〇	一五,〇〇〇	一五,〇〇〇	一五,〇〇〇	一五,〇〇〇
三月	一五,八四一〇〇	一五,〇〇〇	一五,〇〇〇	一五,〇〇〇	一五,〇〇〇	一五,〇〇〇	一五,〇〇〇	一五,〇〇〇

月次	移出		移入		輪入		輪出	
	同五年	同六年	同五年	同六年	同五年	同六年	同五年	同六年
一月	一五,三三九〇	一五,〇〇〇	一五,〇〇〇	一五,〇〇〇	一五,〇〇〇	一五,〇〇〇	一五,〇〇〇	一五,〇〇〇
二月	一五,〇七九〇	一五,〇〇〇	一五,〇〇〇	一五,〇〇〇	一五,〇〇〇	一五,〇〇〇	一五,〇〇〇	一五,〇〇〇
三月	一五,〇七九〇	一五,〇〇〇	一五,〇〇〇	一五,〇〇〇	一五,〇〇〇	一五,〇〇〇	一五,〇〇〇	一五,〇〇〇
四月	一五,〇七九〇	一五,〇〇〇	一五,〇〇〇	一五,〇〇〇	一五,〇〇〇	一五,〇〇〇	一五,〇〇〇	一五,〇〇〇
五月	一五,〇七九〇	一五,〇〇〇	一五,〇〇〇	一五,〇〇〇	一五,〇〇〇	一五,〇〇〇	一五,〇〇〇	一五,〇〇〇
六月	一五,〇七九〇	一五,〇〇〇	一五,〇〇〇	一五,〇〇〇	一五,〇〇〇	一五,〇〇〇	一五,〇〇〇	一五,〇〇〇
七月	一五,〇七九〇	一五,〇〇〇	一五,〇〇〇	一五,〇〇〇	一五,〇〇〇	一五,〇〇〇	一五,〇〇〇	一五,〇〇〇
八月	一五,〇七九〇	一五,〇〇〇	一五,〇〇〇	一五,〇〇〇	一五,〇〇〇	一五,〇〇〇	一五,〇〇〇	一五,〇〇〇
九月	一五,〇七九〇	一五,〇〇〇	一五,〇〇〇	一五,〇〇〇	一五,〇〇〇	一五,〇〇〇	一五,〇〇〇	一五,〇〇〇
十月	一五,〇七九〇	一五,〇〇〇	一五,〇〇〇	一五,〇〇〇	一五,〇〇〇	一五,〇〇〇	一五,〇〇〇	一五,〇〇〇
計	一八,八二〇	一八,八二〇	一八,八二〇	一八,八二〇	一八,八二〇	一八,八二〇	一八,八二〇	一八,八二〇

尙參考ノ爲メ各廳ノ報告ヲ掲クレハ左ノ如シ

**臺北廳報告** 前年末相場下値ヲ押シ米況稍々軟弱ナリシモ前年第二期米減收ノ結果島内消費米ノ不況ヲ訴ヘ且ツ農家金融ノ潤澤ニ依リ產地相場昂騰ノ氣配ヲ示シ内地移出不引合ノ有様トナリ却テ島米ノ遂移入ヲナスノ變調ヲ見ルニ至リ幾何モナク相場低下ノ傾向アリシモ依然出荷不潤澤ニシテ四月ニ於テハ西貢米ノ輸入ヲナシ市況不振ノ觀ヲ呈シ第一期米收穫後ニ於テハ船運賃暴騰ノ打撃ヲ受ケ一時斯界ノ頓挫ヲ來シ當業者ノ苦心モ相場ノ下落ヲ免レザリシモ反之内地市場ハ日ニ氣配強硬トナリ加之偶々内地稀有ノ暴風雨ハ更ニ市價奔騰ノ原因ヲ爲シ臺北市價石十四圓臺ヨリ十六圓臺ヲ傳ヘシ等一層刺撃ヲ加ヘ年末ニ於テハ特ニ十七圓臺ニ達セントシ近年稀ナル米況ヲ呈スルニ至レリ如此本年米穀市場ハ一昂一低變調ノ觀アリテ然カモ船腹ノ不足運賃ノ値上ケニ打撃ヲ受ケタリシモ年末財界ノ膨脹ト内地市場ノ強氣配ニ依リ價格益々昂進市況更ニ一段ノ高調ヲ示サントス

宜蘭廳報告

米ハ廳下唯一ノ重要產物ニシテ之カ取引ノ盛衰ハ一般商況ニ影響スル所甚大ナリ而シテ本年中ニ於ケル移出ハ其ノ



第六編 商業 第三章 米

數量ニ於テ大差ナキニ拘ラス一般價格ノ騰貴ニヨリ前年ノ七十九萬餘圓ナリシニ比シ三十萬餘圓ヲ増加シ總額百九萬餘圓ニ達セリ移入ハ總額一萬七千餘圓ノ激増ヲ示ス之レ内地米ノ移入増加及價格ノ騰貴ニ主因スルモ一面外米ノ輸入アリシ結果ナリ

桃園廳報告

舊臘未戰爭講和勃發シ財界ノ人氣沮喪シタル爲メ移出取引ハ一頓挫ヲ來シタリシカ新春ニ入りテ粳米ハ大ナル變動ナキモ幾分氣勢ヲ擡ケ漸騰ヲ示シ船腹不足ノ關係ヨリ需用期ニ連レタル糯米ハ價格下落シ移出殆ント杜絶シ不振ノ狀態ヲ持續シタルカ端境期近クキ粳糯共漸次價格ヲ昇騰シタリ一期米ハ播種當時天候不順ナリシ爲メ減少ヲ豫想シタルニ拘ラス殆ント平年作ノ收穫アリタルモ運賃値上説ノ爲メ產地ノ賣價ニ商談難ラス小口ノ取引アリタルニ過キス畢竟粳米ハ前年二期作減收ノ影響ニ依リ自然島内消費ニ追ハレ騰貴ノ一方ナルモ移出取引ハ比較的閑散ノ狀態ヲ以テ終始セリ糯米ハ八圓ニ入り輸出商ノ對岸取引熾リ立チ又ハ騰貴シ一時繁忙トナリシ爲メニ品拂底ヲ來シタリ而シテ二期作豐收ト共ニ内地需用ノ關係上益々好調ト爲リ價格モ前年ニ比シ五圓内外ノ上鞘ヲ見ルヲ得テ續々注文アリタルモ貨車不廻ニテ搬出ノ意ノ如クナラス商人ノ苦痛甚シク十二月ニ入りテ幾分調和ヲ得船貨値上實行及船腹不足ノ爲メ價格少シク低落シタルモ取引旺盛ヲ極メ移出高十三萬四千五百四十八石價格二百十五萬二千七百六十八圓ニ達シ未曾有ノ狀態ヲ呈セリ

新竹廳報告

米ハ二期作ノ一般の減收ト水田蔗作ノ増加ニ依リ農家ノ貯米ト先高ヲ見越シタル賣價ミ一面内地米ノ一時漸落トニヨリ取引閑散ノ狀ナリシモ一期米ノ出廻リト内地暴風雨ノ災厄ニ因ル米價ノ騰貴トハ茲ニ市況ヲ引立テ農家ノ貯米ヲ賣放スモノ多ク大口ノ取引行ハルルニ至リ更ニ内地ニ於ケル米價ノ漸騰ハ内地ヨリノ買注文多ク茲許移出商ノ買熾リト更ニ又農家仲買人ノ賣價ミトナリ一時賑ミ合ヒノ儘商狀閑散ヲ呈シ二期米ノ出廻リト共ニ多少氣配ヲ持チ直シタルモ輸送力ノ不足運賃ノ値上ク等ニヨリ思ハシキ賣買ノ成立ヲ見ス本期ヲ經過セリ

臺中廳報告

米價ハ日ヲ逐テ騰貴シ從來貯藏セラレタル米ハ盛ニ移出セララルルニ至リ盛況ヲ呈セリ

嘉義廳報告

本年中搬出セラレタル米ハ前年第二期作及本年第一期作並二期作米トス

臺南廳報告

米ハ前年二期米ノ不作ナルニ内地經濟界ハ異常ノ膨脹ヲ呈シ米ノ消費力著シク増加シタル爲メ漸次昂騰シ加フルニ内地米商ノ島米買付旺盛トナルニ至リテ相場一入引續リ三月中石十三圓六十八錢ヲ唱ヘ相場相上下シ暫ク大保合ヲ持續シタリシモ再ヒ内地米界ノ活躍ト相俟テ島米ノ取引益々旺盛ト爲リ遂ニ賣過キノ反動トシテ島内消費米供給不足説ヲ生スルニ至リ六月下旬ノ端境相場ハ十五圓三十六錢ヲ年中ノ最高値ヲ表ハシ内地臺灣間自由船運賃引上ニ依テ移出不引合ト爲リ折柄十月月上旬株式一齊下落ノ影響ヲ受ケテ俄然八十錢方下押シタルモ内地米作輸入不足ノ入報ヲ動機ニ米價ハ又モ昂騰シ十二月更ニ二十五圓二十八錢ニ引返シタリ之ヲ要スルニ本年ノ米界ハ波瀾重疊常ナカリシモ財界未曾有ノ好調ニ伴ヒ米ノ消費額ハ偉大ニ激増シ及内地米實收減ト相俟テ異常ノ活躍ヲ演出シタリ

阿緱廳報告

廳下ノ產米ハ五十二萬七千六百一十一石ヲ算シ管外ニ搬出スルモノ十六萬七千五百九石ニシテ其多クハ内地ニ移出セラレ從ツテ當地ノ米價モ内地相場ノ支配ヲ受ケルコト多ク前年末以來一般春高豫想ヲ以テ迎ヘラレ新春ニ入り定期米ノ上鞘ト株式強硬トニテ市況持直シ氣味ナリシモ大勢先安ニテ遂ニ定期米十六圓八、九十錢臺割レ相場ニ怖氣付キ却テ沈靜ニアリシモ本島ハ各廳ヲ通シ二期米ノ減收ニテ各地島内消費米不足ノ爲メ相場反對ニ高値ナルニ加ヘ賣越速中ノ買埋メ等アリテ日々相場昂騰シ遂ニ内地約定品ヲ買戻シ島内相場ヲ調節スルノ奇現象ヲ呈シ内地米豐收發表モ更ニ影響セズ昂騰一筋ニ經過セリ中北部ノ不足ハ更ニ甚シク阿緱米ノ如キハ中北部へ搬出セシモ少カラズ爾後米價ハ鋭上リニ變シ五月ニハ八リテハ定期米二十圓臺ヲ突破シ本島ノ一期米亦定期高ニ連レ昂騰ニ次ニ昂騰以テ遂ニ打狗渡シ六圓四十錢生シ値ニ比シ一圓五十錢ノ高値ヲ顯ハスニ至レリ爾來強氣一點張リニテ定期米二十四圓八十錢ノ高値ヲ見セシモ七、八月ニ互リ内地ノ天候申分ナク例年通り青田譽メテ大瓦落ヲ演シ爲メ臺灣米ノ賣行ハタト止マリ更ニ荷動キヲ見サリシモ農家ノ金融潤澤ニテ更ニ賣急カス觀合ノ狀態ナリシ折柄九月ノ關東地方大暴風雨ニテ又々相場昂騰シ遂ニ安値ヲ見セス十一月下旬最高値六圓七十錢年末六圓三十錢強含ノミヲ以テ越年セリ

臺東廳報告

第一期作水稻ハ生育中暴風雨ノ爲メ約二割内外ノ減收ヲ招キ加フルニ内地米暴騰ノ爲メ米價漸次騰貴シ尙ホ第二期

第六編 商業 第三章 米







種 類	數		量 (斤)		價		額 (圓)
	輸 出	移 出	計	輸 出	移 出	計	
烏 龍 茶	四七〇、〇〇〇	八七五、〇八八	一、三六二、〇七三	一、七三三、〇七三	三、七三〇、〇八八	五、四六三、一六二	
包 種 茶	六三〇、〇〇〇	二、一五〇、〇〇〇	六、五五五、九四四	二、七六一、七八七	一、〇一七、八九九	二、八六三、一七六	
紅 茶	七、〇〇〇	五五、六三〇	六、八一六、六	三、一〇五	三、三二七、六八	三、三三二、七六八	
番 茶	四九、七五五	八五、八三〇	一、三五八、五	六、七三	一、六二、六七	二、三九一	
粉 茶	六〇、四八六	四、四八〇	五、二九一、〇	五、七四三	四、七三、三九	五、三四六	
壅 茶	一〇、九〇〇	一、七五〇	一、一三五、二	九、七七一	一、〇	九、九七一	
絲 茶	一、六七七	五、九四	七、六七一	六、四五	二、五九五	三、一四〇	
前 年 計	一、三三六、七八四	一〇、一六、八七八	三、一四九、五七三	三、七九四、三〇六	四、五四六、八四八	八、三四一、二四	
計	一、六五九、三三九	四、四〇、六三三	一、〇七六、九七七	六、三三、六四七	一、四九八、二二一	八、〇〇九、五六九	

尙參考ノ爲メ左ニ各廳ノ報告ヲ掲クヘシ

**臺北廳報告** 烏龍茶ハ市場開始前ヨリ戰時ノ影響トシテ英國ニ於ケル輸入茶禁止又ハ米國ニ於ケル輸入増税ノ聲ニ杞憂セラレ然カモ開市ニ及テハ船腹ノ大不足ヲ訴フルニ至リ運賃著シキ高値ヲ唱ヘ洋行側ノ買入レ手控ノ爲メ市況日ニ非ニシテ相場崩落ノ一方トナリ再製茶百斤二十五、六圓壺ニ落テ自然粗製茶ノ停滯ニ加フルニ米價其ノ他ノ騰貴ハ生産費ノ増加ヲ招キ山方茶農ノ困憊ヲ告ケ一時斯界ノ恐慌ヲ憂慮セラルル悲況ニ陥リシカ此間ニ於テ政府並當事者間ニ於ケル船腹供給問題ノ交渉漸ク好果ヲ收メ茶況俄カニ活氣ヲ生セシト共ニ當業者ノ愁眉ヲ開キ市況一變取引常態ニ復シタリシカ運賃騰貴ノ結果下茶ノ賣買不引合トナリ上、中茶ノ荷動キ好況ヲ呈シ夏茶ニ及テハ品質優秀ナルカ爲メ洋行ノ買入レ益々増加シ相場百斤三十五、六圓壺ヨリ四十圓壺ニ上リ市況極メテ殷盛ヲ告ケ從テ前記春茶ノ不況モ挽回補充ノ景氣ヲ示シ爾來秋冬茶ハ概シテ好況裡ニ取引

宜蘭廳報告

其ノ産額僅少ニシテ取引微々タリ而モ其ノ産地ハ北部ニ偏在シ製品ニ直ニ臺北地方ニ陸送セララルルヲ以テ其ノ搬出ノ額明カナラス

**桃園廳報告** 本年春季來米國輸入稅賦課米國航路船腹不足說世ニ喧傳セラレテ以來山方徘徊ノ茶販人等ハ何レモ粗茶ノ買占メテ中止シ相場ノ下落ヲ助成シ製茶業者ハ收支不償ノ口説ヲ以テ賣付ニ手控ヲ加ヘ山方茶況ハ頗ル不振裡ニ經過シタルカ七月ニ入リテヨリ問題ノ解決ト時局ノ影響ヲ受ケ俄然好況ヲ呈シ茶販人ノ徘徊類案ニシテ活躍ノ曙光ヲ認ムルニ至リ茶價モ漸次騰貴シ夏茶ノ終末ヨリ秋茶ハ二十六圓ニ昂リ前年ニ比シ約八、九圓ノ高價ヲ保ツニ至リシヲ以テ山方茶農ハ春季ニ於テ被リタル傷癒ヘ相當財源ヲ潤フスヲ得金融ノ運轉上順調ニ安排セラレ本年ノ茶況ハ好況ヲ以テ了レリ